

第3章 調査の結果

< 図表のみかた >

- 1 回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率（％）で示しています。それぞれの質問の回答者数は、全体の場合はN（Number of case）、それ以外の場合にはnと表記しています。
- 2 ％は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。従って、回答の合計が必ずしも100.0％にならない場合（例えば99.9％、100.1％）があります。
- 3 年代別、要介護度別などは、未回答の方がいたため、合計が全体とは一致しません。
- 4 回答者が2つ以上回答することのできる質問（複数回答）については、％の合計は100％にならないことがあります。
- 5 本文及びグラフ中の設問文ならびに選択肢の表現は一部省略されています。

1 地域福祉調査

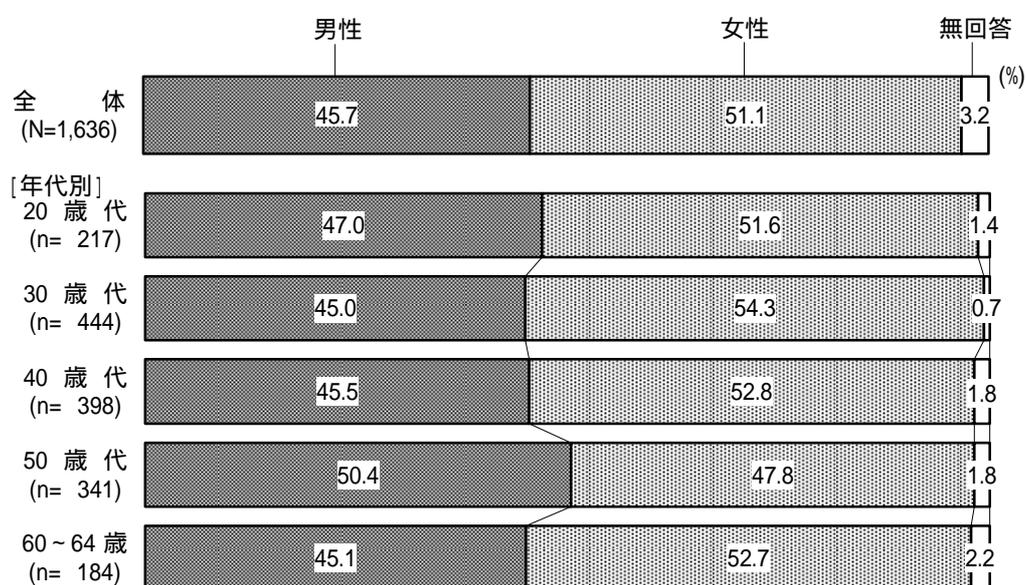
(1) 基本属性

性別 (F1)

性別は、「男性 (45.7%)」、「女性 (51.1%)」であった。

年代別にみると、「50歳代」は「男性 (50.4%)」が「女性 (47.8%)」を上回っているが、他の年代は「女性」が「男性」をわずかに上回っている (図表1-1-1)。

図表1-1-1 性別 (全体、年代別)

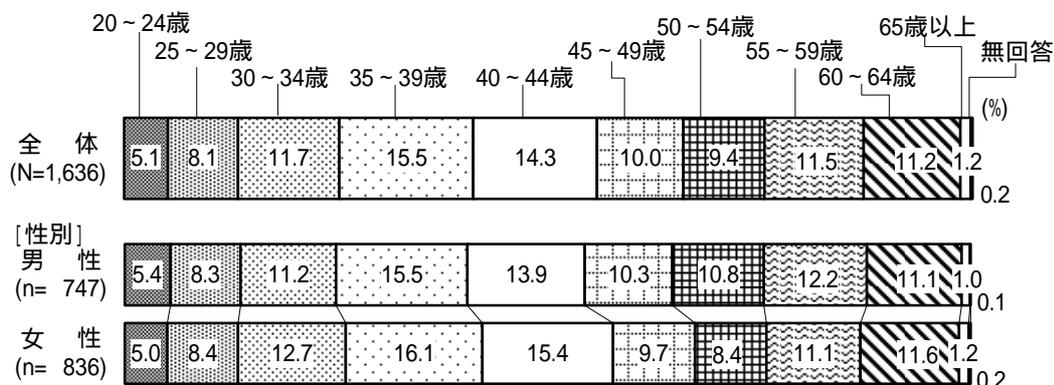


年齢 (F 2)

年齢は、「35～39歳(15.5%)」が最も多く、「40～44歳(14.3%)」、「30～34歳(11.7%)」が続いている。

性別にみると、ほぼ全体と同じ傾向であるが、「30～34歳」、「35～39歳」、「40～44歳」の《子育て世代》は女性が男性を上回っており、「45～49歳」、「50～54歳」、「55～59歳」は男性が女性を上回っている(図表1-1-2)。

図表1-1-2 年齢(全体、性別)



職業 (F 3)

職業は、「企業の社員・役員(従業員50人以上)(27.6%)」が最も多く、「専業主婦(夫)(16.4%)」、「パート・内職などの仕事(14.5%)」が続いている(図表1-1-3)。

図表1-1-3 職業(全体)

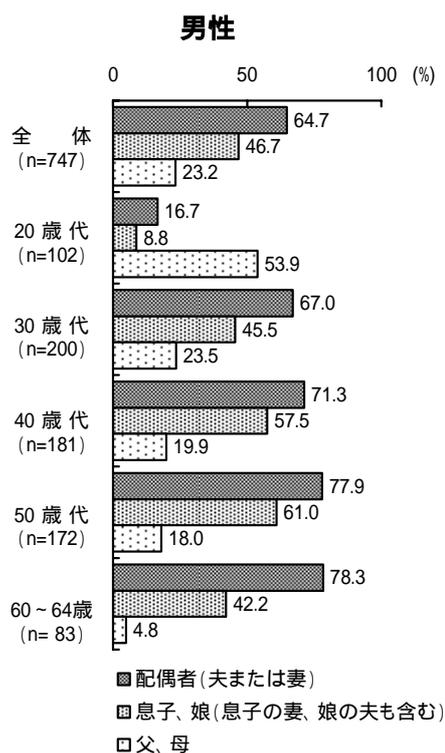
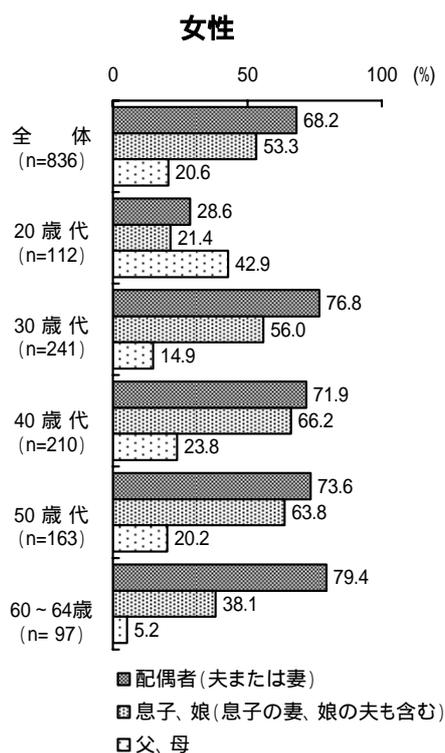
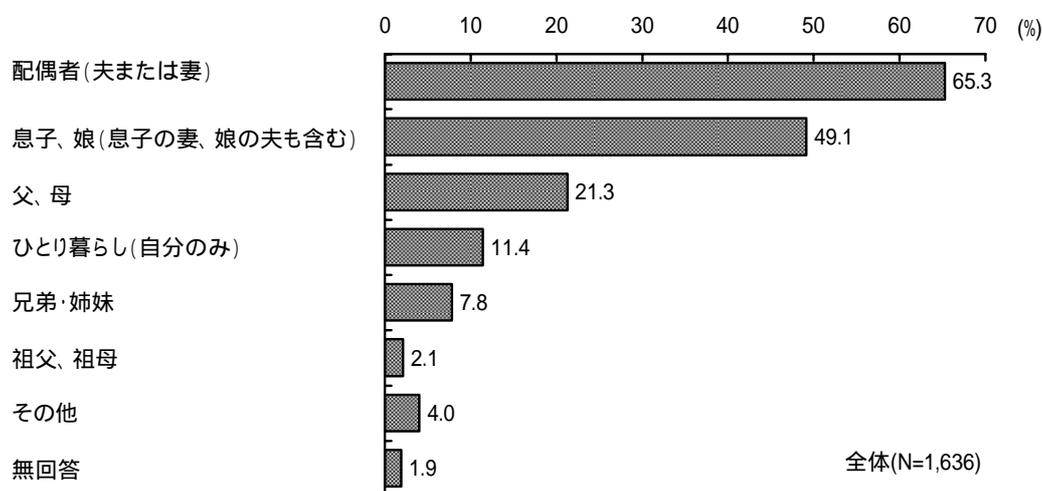


家族構成 (F 4)

家族構成(同居している家族)は、「配偶者(夫または妻)(65.3%)」が最も多く、「息子、娘(息子の妻、娘の夫も含む)(49.1%)」、「父、母(21.3%)」が続いている。

性・年代別にみると、20歳代では男女共「父、母」の割合が最も高く、20歳代男性では「父、母(53.9%)」が半数以上となっている。30歳代以上は男女共「配偶者(夫または妻)」と同居する割合が60~80%を占めている。また、30歳代から50歳代は「息子、娘(息子の妻、娘の夫も含む)」と同居する割合が50~65%を占めているが、60~64歳ではその割合は低くなり、女性では38.1%、男性では42.2%となっている(図表1-1-4)。

図表1-1-4 家族構成(全体、性・年代別：複数回答)

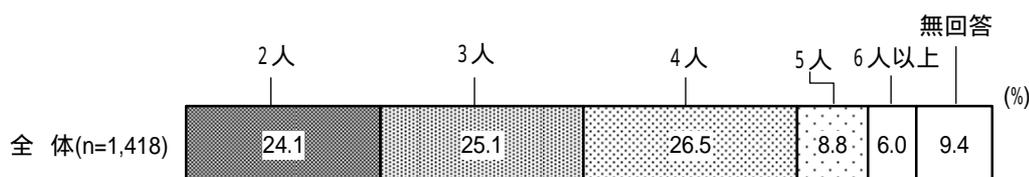


家族の人数 (F 4 - 1)

家族構成で「ひとり暮らし(自分のみ)」以外と回答した人に家族の人数(自分を含む)をたずねた。家族の人数は「4人(26.5%)」が最も多く、「3人(25.1%)」、「2人(24.1%)」が続いている(図表1-1-5)。

図表1-1-5 家族の人数

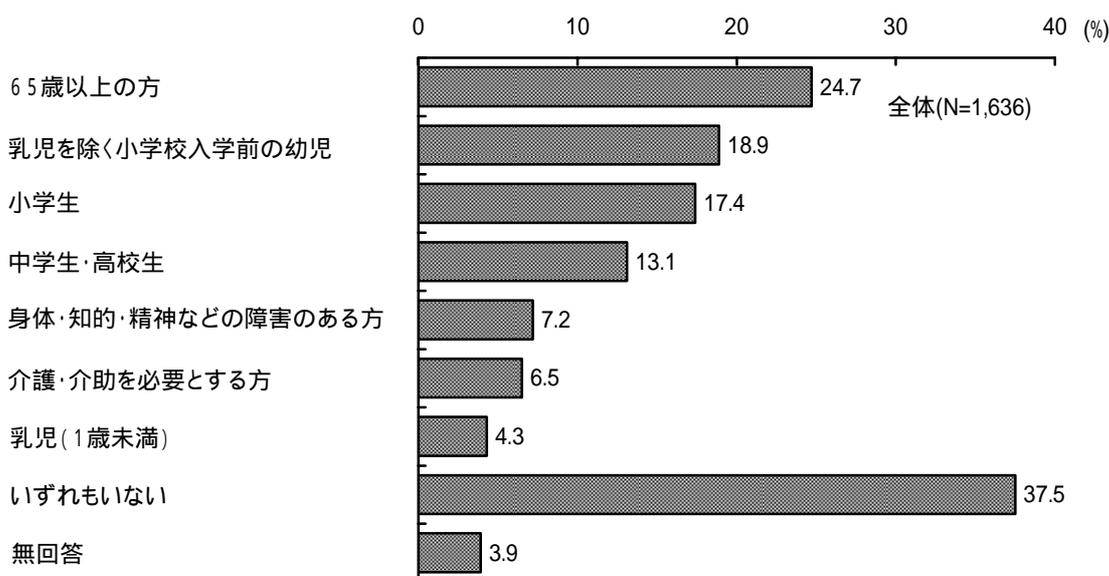
<家族構成で「ひとり暮らし(自分のみ)」以外と回答した人>(全体)



介助・介護が必要な同居・近居の家族 (F 5)

介助・介護が必要な同居・近居の家族は、「65歳以上の方(24.7%)」が最も多く、「乳児を除く小学校入学前の幼児(18.9%)」、「小学生(17.4%)」が続いている。「いずれもない」は37.5%となっている(図表1-1-6)。

図表1-1-6 介助・介護が必要な同居・近居の家族(全体:複数回答)



居住地域（F6）

居住地域は、「第一地区(20.5%)」が最も多く、「第二地区(19.8%)」と「第六地区(18.5%)」が続いている(図表1-1-7)。

図表1-1-7 居住地域(全体)

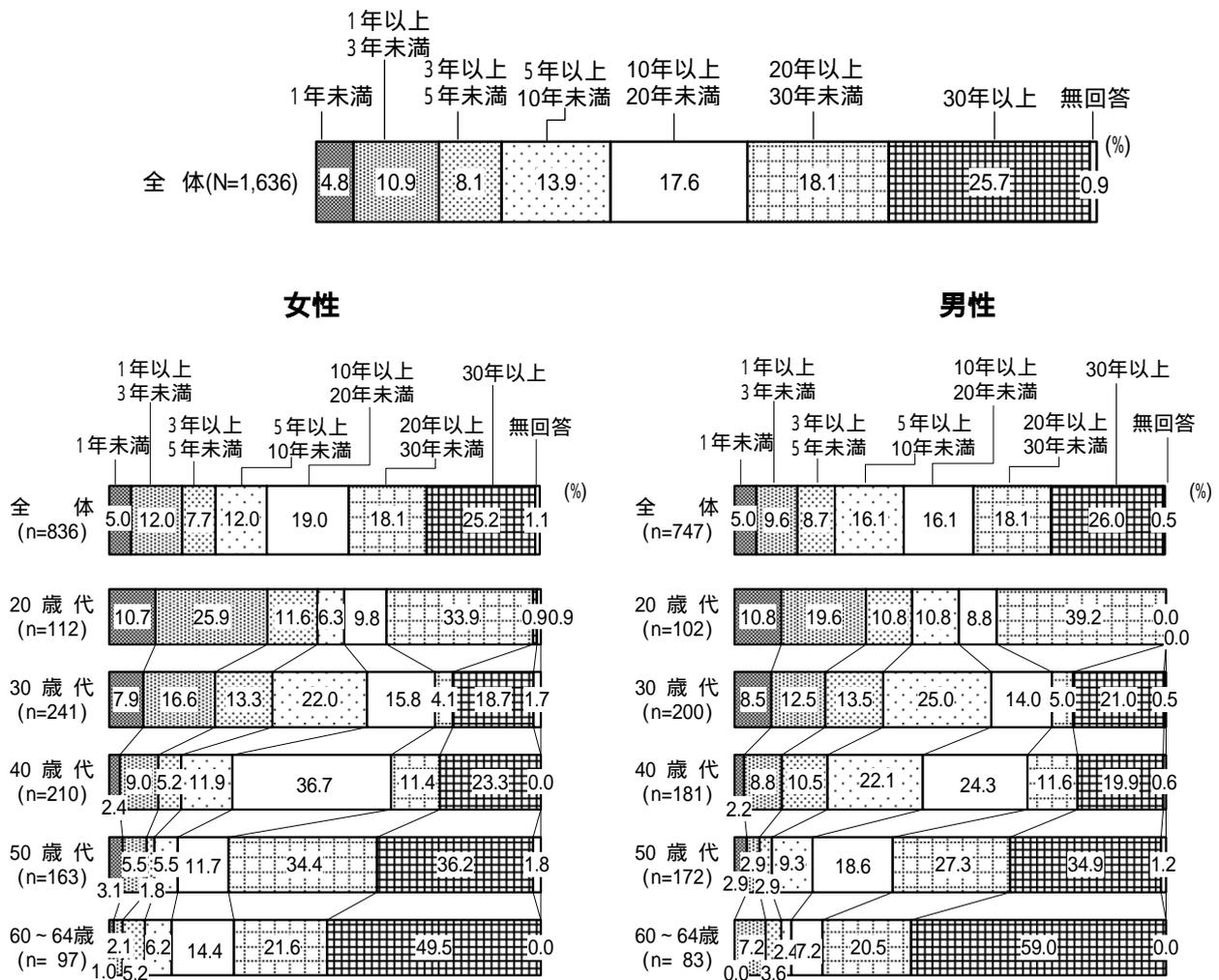


居住歴 (F 7)

居住歴は、「30年以上 (25.7%)」が最も多く、「20年以上 30年未満 (18.1%)」、「10年以上 20年未満 (17.6%)」が続いている。

性・年代別で見ると、20歳代は男女共「20年以上 30年未満」が最も多いが、30歳代では男女共「5年以上 10年未満」が最も多く 20%を超える。年代が上がるにつれ居住年数が長くなる傾向が見られ、60～64歳男性では「30年以上」が 59.0%となっている (図表 1 - 1 - 8)。

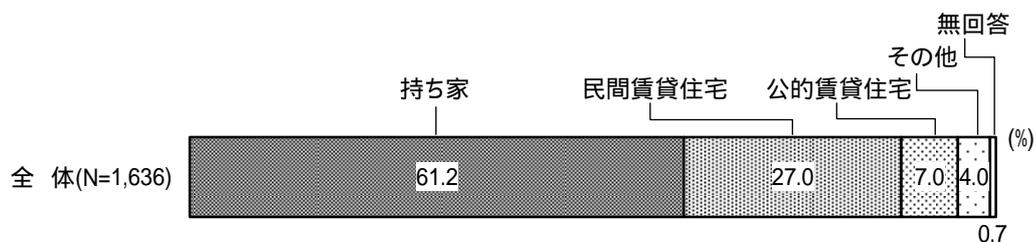
図表 1 - 1 - 8 居住歴 (全体、性・年代別)



住宅の所有形態 (F 8 - 1)

住宅の所有形態は、「持ち家 (61.2%)」が最も多く、「民間賃貸住宅 (27.0%)」、「公的賃貸住宅 (7.0%)」が続いている (図表 1 - 1 - 9)。

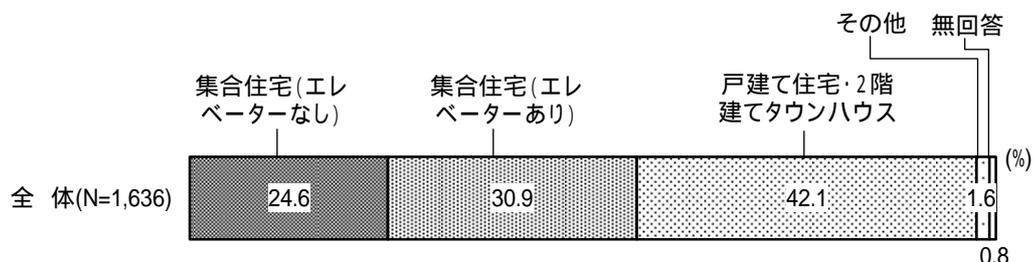
図表 1 - 1 - 9 住宅の所有形態 (全体)



住宅の種類 (F 8 - 2)

住宅の種類は、「戸建て住宅・2階建てタウンハウス (42.1%)」が最も多く、「集合住宅 (エレベーターあり) (30.9%)」、「集合住宅 (エレベーターなし) (24.6%)」が続いている (図表 1 - 1 - 10)。

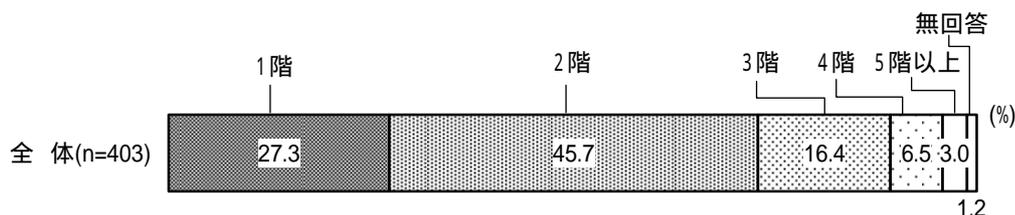
図表 1 - 1 - 10 住宅の種類 (全体)



居住階 (F 8 - 3)

住宅の種類で「集合住宅 (エレベーターなし)」と答えた人に居住階をたずねた。居住階は、「2階 (45.7%)」が最も多く、「1階 (27.3%)」、「3階 (16.4%)」が続いている (図表 1 - 1 - 11)。

図表 1 - 1 - 11 居住階 (全体)



(2) 地域活動・ボランティア活動

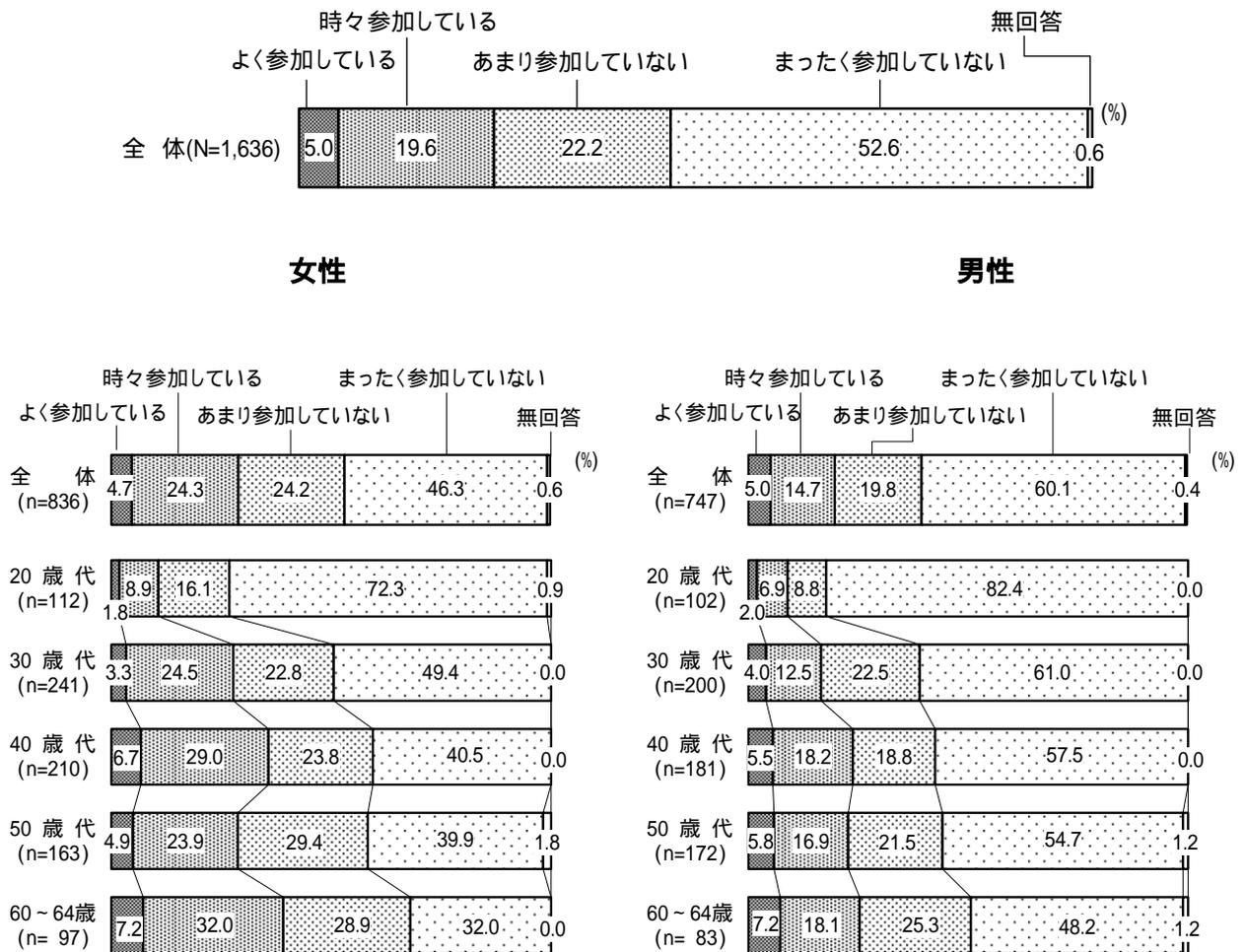
地域活動への参加程度(問1)

地域活動への参加程度は、「まったく参加していない(52.6%)」が最も多く、「あまり参加していない(22.2%)」、「時々参加している(19.6%)」が続いている。

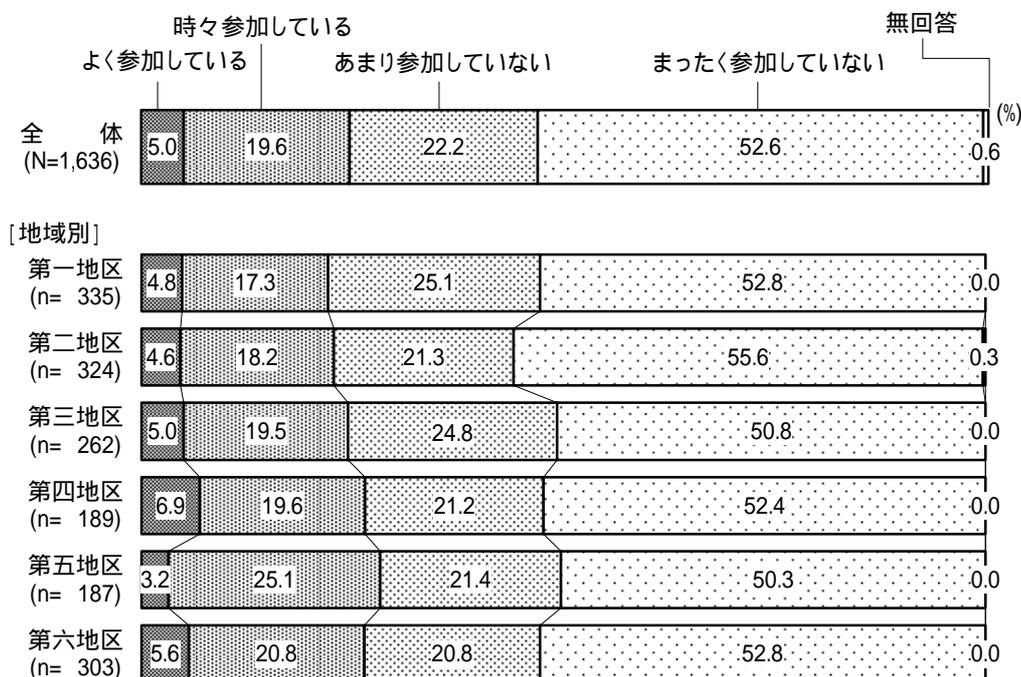
性・年代別にみると、男女共20歳代は「まったく参加していない」の割合が他の年代に比べ非常に多く、女性で72.3%、男性で82.4%となっている。年代が上がるにつれて「よく参加している」、「時々参加している」との回答が多くなる傾向があるが、男性に比べ女性の方がより顕著で、60～64歳女性では「時々参加している(32.0%)」が約3分の1を占めている(図表1-2-1-)。

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られず、どの地域も「まったく参加していない」が50～56%を占めている(図表1-2-1-)。

図表1-2-1- 地域活動への参加程度(全体、性・年代別)



図表 1 - 2 - 1 - 地域活動への参加程度（全体、地域別）



地域活動

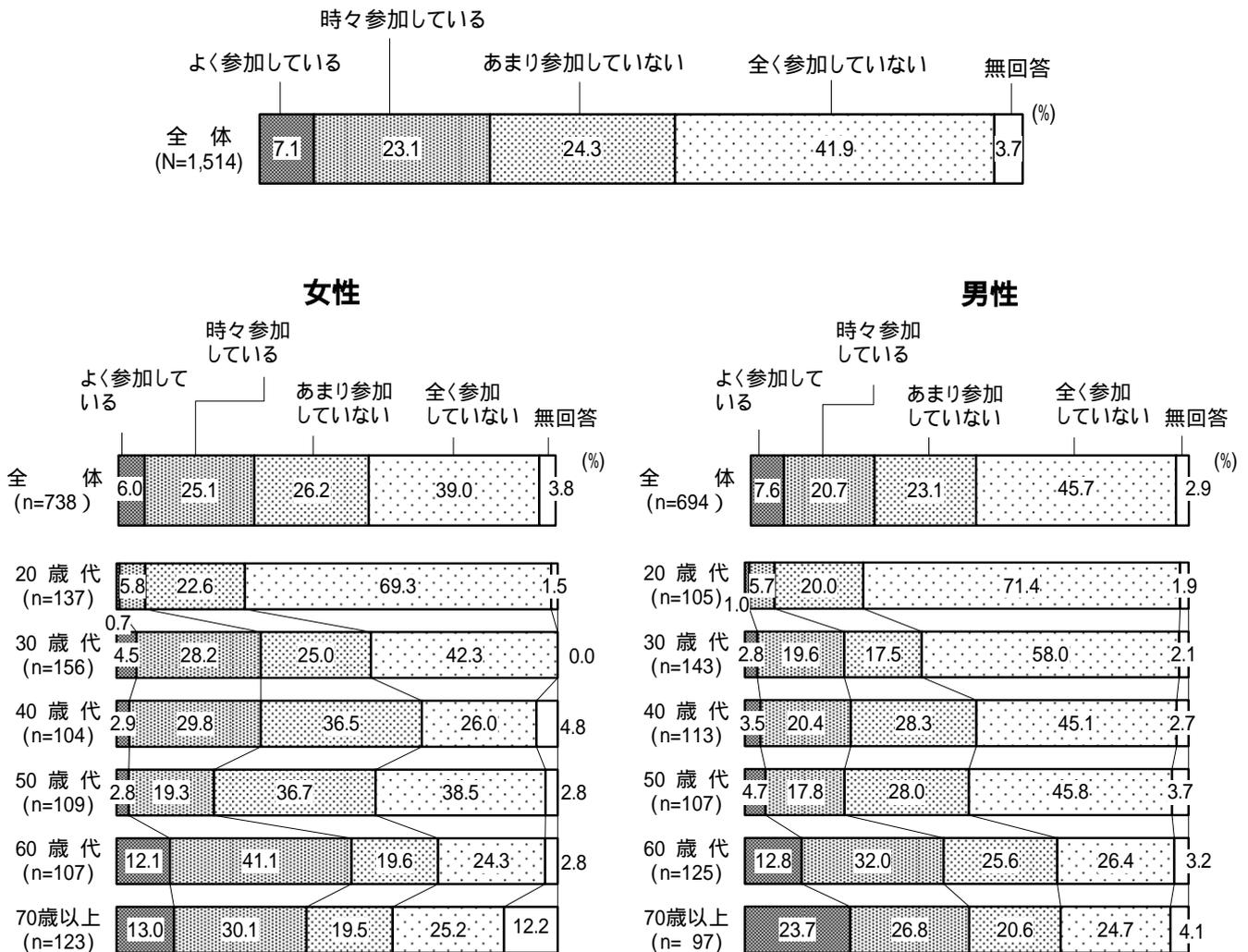
地域の社会的諸問題の解決や福祉向上のために、住民が主体となって地域を拠点として行われる活動。

ボランティア活動

自発的に、他者や社会のために行い、金銭的な利益を第一に求めない活動。また、誰もが暮らしやすい豊かな社会をめざして、人や団体とつながり、社会の課題の解決に取り組む活動。「自発性・主体性」「社会性・連帯性」「無給性・無償性」「創造性・先駆性・開拓性」がボランティアの4原則といわれる。

前回調査では、「よく参加している(7.1%)」、「時々参加している(23.1%)」、「あまり参加していない(24.3%)」、「全く参加していない(41.9%)」となっている。全体結果に70歳以上も入っているため単純な比較ができないが、性・年代別にみると「全く参加していない」の割合がどの性・年代別でも前回調査に比べて高くなっており、地域活動離れが進んでいる様子うかがえる(図表1-2-1-)。

図表1-2-1- 地域活動への参加程度(全体、性・年代別)【平成14年度調査】



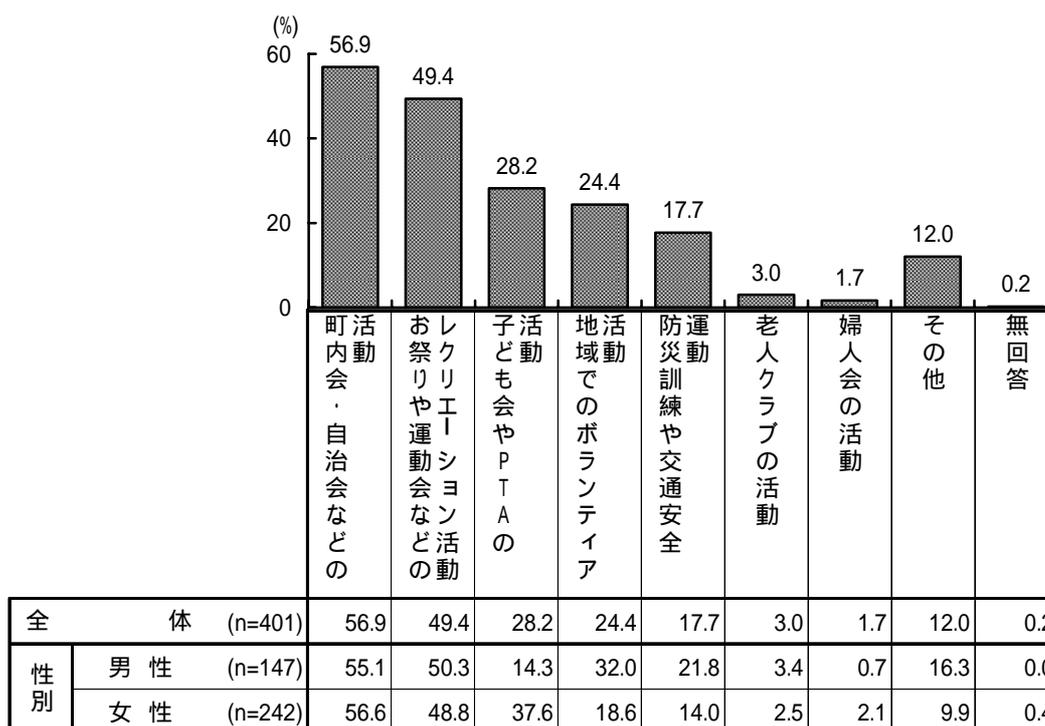
参加している地域活動の種類（問1-1）

地域活動の経験について「よく参加している」、「時々参加している」と答えた人に、参加している活動の種類をたずねた。参加している活動の種類は、「町内会・自治会などの活動（56.9%）」が最も多く、「お祭りや運動会などのレクリエーション活動（49.4%）」、「子ども会やPTAの活動（28.2%）」が続いている。

性別にみると、男女とも「町内会・自治会などの活動」が最も多く、「お祭りや運動会などのレクリエーション活動」が続いているが、男性では3位に「地域でのボランティア活動（32.0%）」、女性では3位に「子ども会やPTAの活動（37.6%）」があげられており、男女差があらわれている（図表1-2-2）。

図表1-2-2 参加している地域活動の種類

<地域活動の経験について「よく参加している」、「時々参加している」と答えた人>
(全体、性別：複数回答)

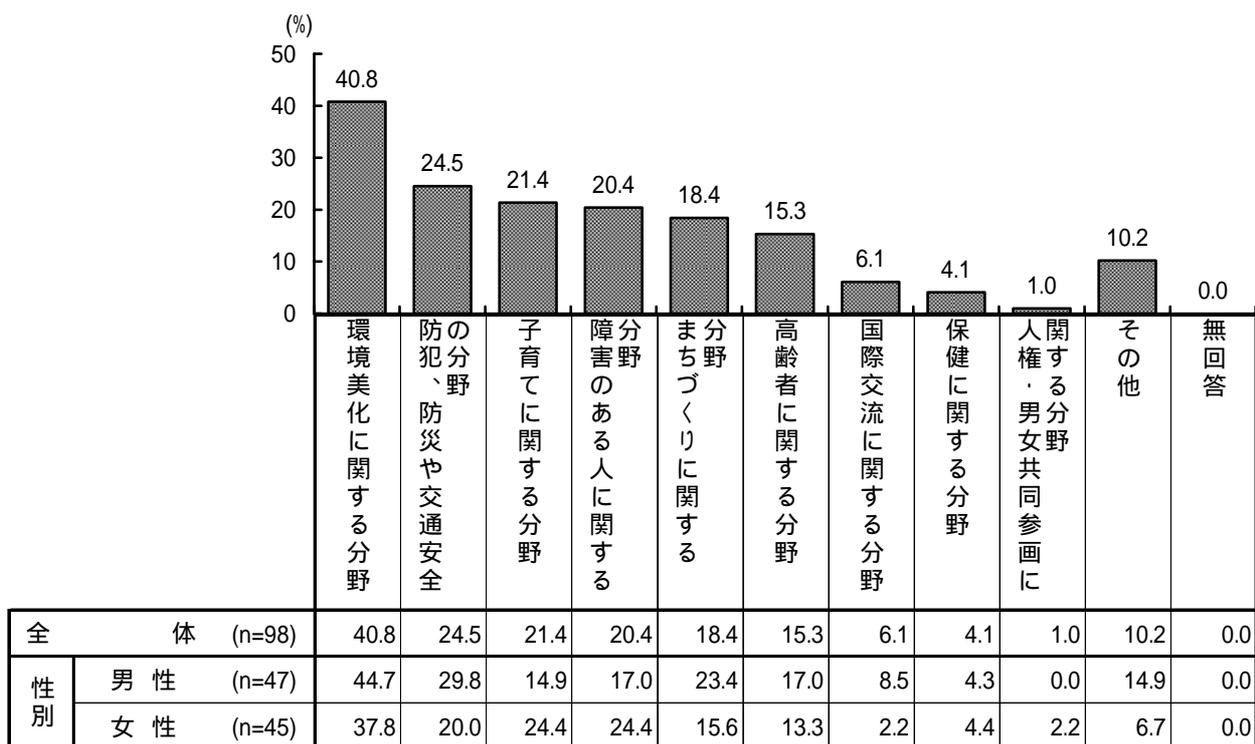


参加しているボランティア活動の分野（問1 - 2）

参加している活動の種類で「地域でのボランティア活動」と答えた人に、参加しているボランティア活動の分野をたずねた。参加しているボランティア活動の分野は、「環境美化に関する分野（40.8%）」が最も多く、「防犯、防災や交通安全の分野（24.5%）」、「子育てに関する分野（21.4%）」が続いている。

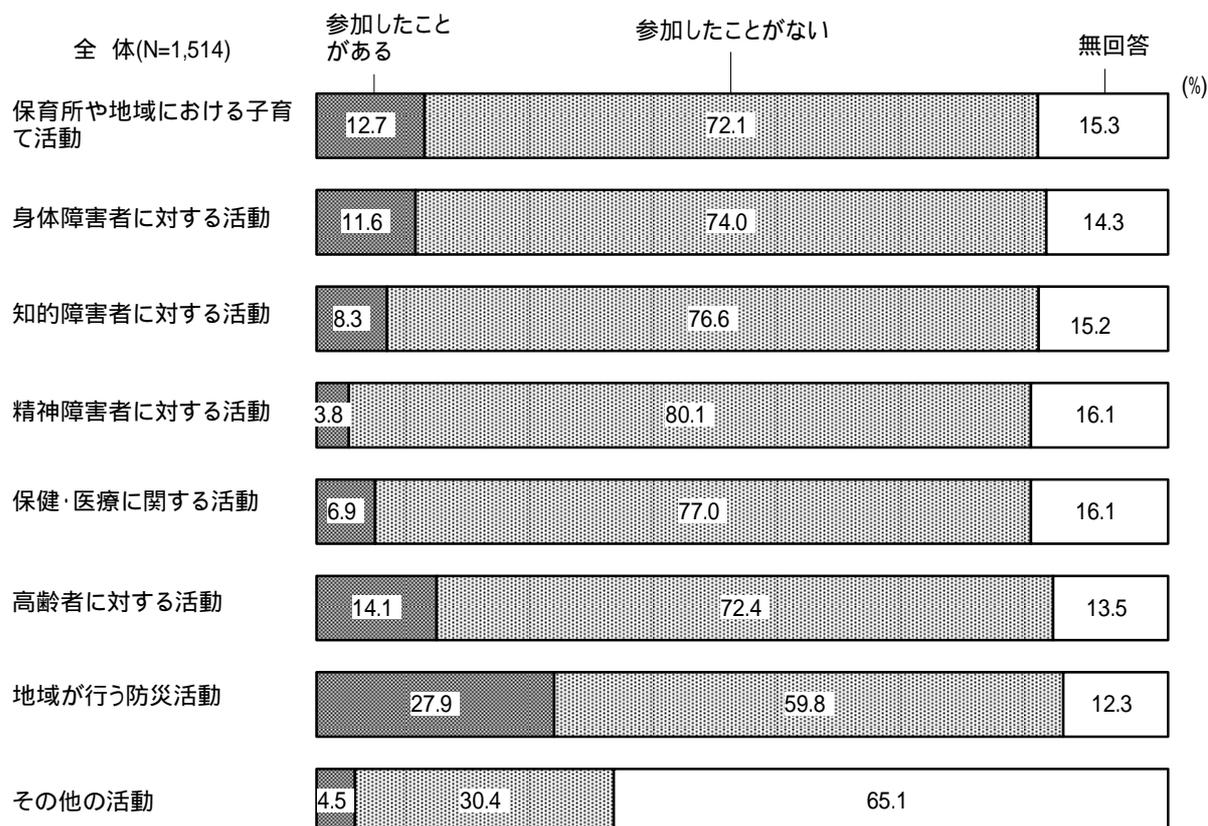
性別でみると男女共「環境美化に関する分野」が最も多いが、男性では「防犯、防災や交通安全の分野（29.8%）」、「まちづくりに関する分野（23.4%）」が続いているが、女性では「子育てに関する分野（24.4%）」、「障害のある人に関する分野（24.4%）」があげられ、男女で参加しているボランティア活動の分野に違いがみられる（図表1 - 2 - 3 - ）。

図表1 - 2 - 3 - 参加しているボランティア活動の分野
 <参加している活動の種類で「地域でのボランティア活動」と答えた人>
 （全体、性別：複数回答）



前回調査では、「地域が行う防災活動（27.9%）」が最も多く、「高齢者に対する活動（14.1%）」、「保育所や地域における子育て活動（12.7%）」が続いている。選択肢が異なるため比較が難しい（図表1-2-3- ）。

図表1-2-3- ボランティア活動の参加状況（全体）【平成14年度調査】

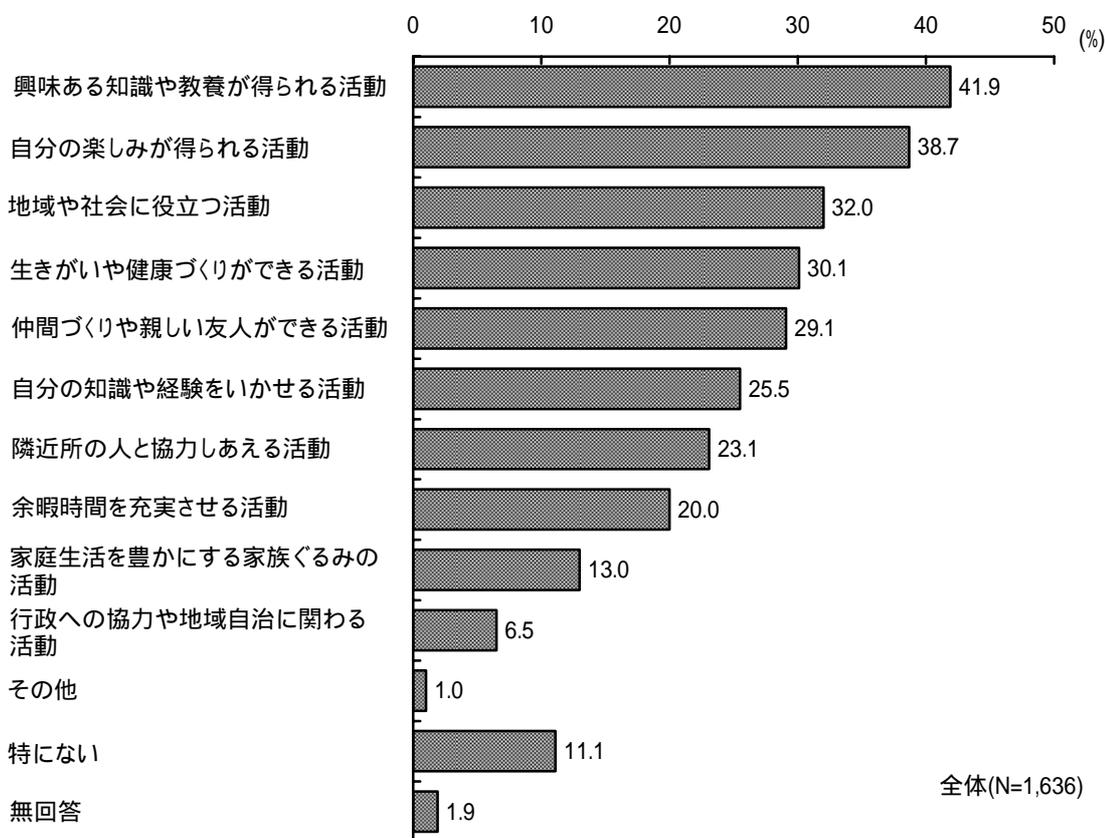


今後参加したい地域活動（問2）

今後参加したい地域活動は、「興味ある知識や教養が得られる活動(41.9%)」が最も多く、「自分の楽しみが得られる活動(38.7%)」、「地域や社会に役立つ活動(32.0%)」が続いている(図表1-2-4-)。

性・年代別にみると、男女共60～64歳で「生きがいや健康づくりができる活動」が1位にあげられるなど、今後参加したい活動は、性・年代で異なる傾向がみられる(図表1-2-4-)。

図表1-2-4- 今後参加したい地域活動（全体：複数回答）

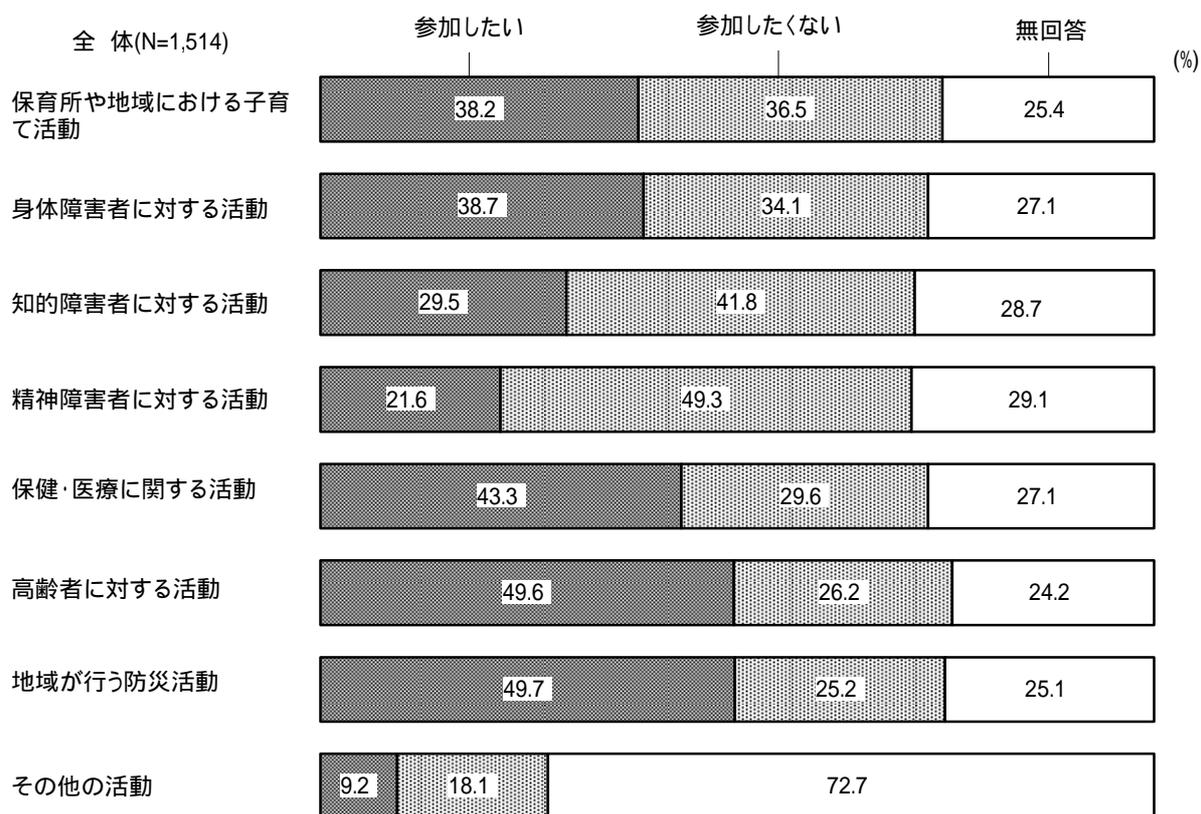


図表 1 - 2 - 4 - 今後参加したい地域活動（性・年代別、上位3位：複数回答）

		1位	2位	3位
男性	全体 (n=747)	自分の楽しみが得られる活動 39.0	興味ある知識や教養が得られる活動 35.7	仲間づくりや親しい友人ができる活動 26.6
	20歳代 (n=102)	自分の楽しみが得られる活動 47.1	興味ある知識や教養が得られる活動 47.1	仲間づくりや親しい友人ができる活動 34.3
	30歳代 (n=200)	興味ある知識や教養が得られる活動 37.0	自分の楽しみが得られる活動 34.0	仲間づくりや親しい友人ができる活動 28.5
	40歳代 (n=181)	興味ある知識や教養が得られる活動 39.2	自分の楽しみが得られる活動 36.5	自分の知識や経験をいかせる活動 29.8
	50歳代 (n=172)	自分の楽しみが得られる活動 43.0	地域や社会に役立つ活動 40.7	生きがいや健康づくりができる活動 33.1
	60～64歳 (n= 83)	生きがいや健康づくりができる活動 43.4	自分の楽しみが得られる活動 38.6	地域や社会に役立つ活動 37.3
	女性	全体 (n=836)	興味ある知識や教養が得られる活動 48.0	自分の楽しみが得られる活動 39.1
20歳代 (n=112)	興味ある知識や教養が得られる活動 60.7	自分の楽しみが得られる活動 49.1	仲間づくりや親しい友人ができる活動 38.4	
30歳代 (n=241)	興味ある知識や教養が得られる活動 47.3	仲間づくりや親しい友人ができる活動 39.0	自分の楽しみが得られる活動 36.9	
40歳代 (n=210)	興味ある知識や教養が得られる活動 50.0	自分の楽しみが得られる活動 40.0	生きがいや健康づくりができる活動 38.1	
50歳代 (n=163)	興味ある知識や教養が得られる活動 46.0	生きがいや健康づくりができる活動 44.8	地域や社会に役立つ活動 38.7	
60～64歳 (n= 97)	生きがいや健康づくりができる活動 45.4	自分の楽しみが得られる活動 43.3	隣近所の人と協力しあえる活動 37.1	

前回調査では、「地域が行う防災活動（49.7%）」が最も多く、「高齢者に対する活動（49.6%）」、「保健・医療に関する活動（43.3%）」が続いている。選択肢が異なるため比較が難しい（図表1-2-4- ）。

図表1-2-4- ボランティア活動への参加意向（全体）【平成14年度調査】

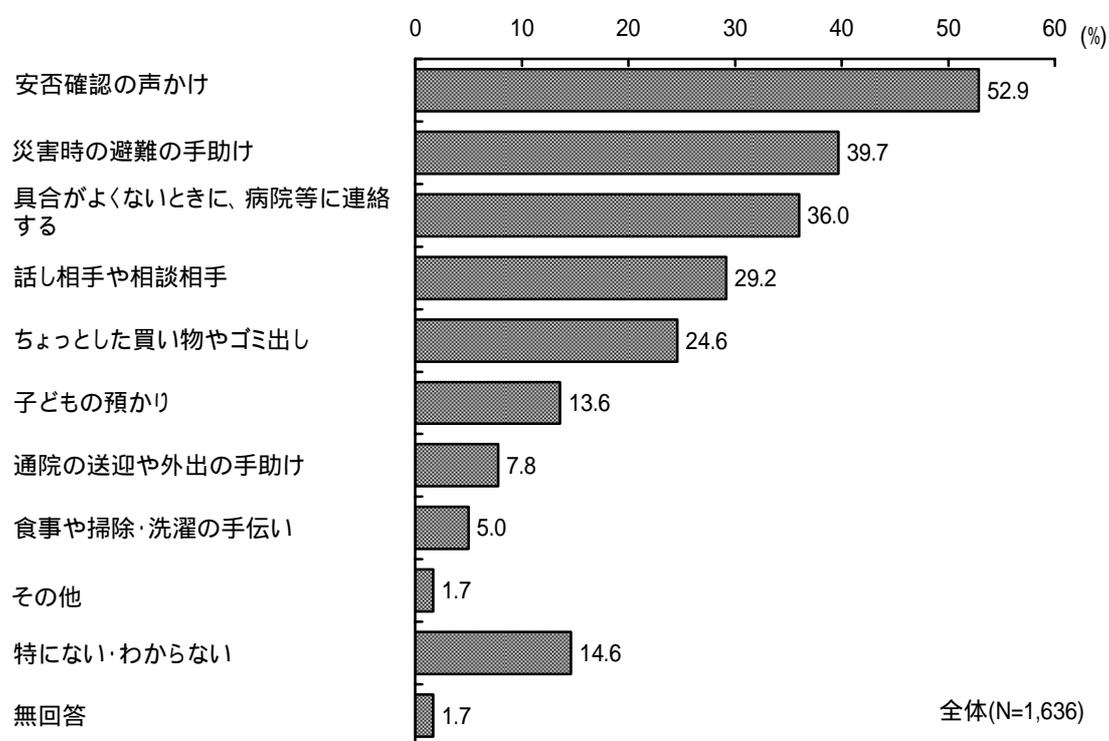


子育て家庭・高齢者・障害者に行いたい手助け（問3）

子育て家庭・高齢者・障害者に行いたい手助けは、「安否確認の声かけ（52.9%）」が最も多く、「災害時の避難の手助け（39.7%）」、「具合がよくないときに、病院等に連絡する（36.0%）」が続いている（図表1-2-5- ）。

性・年代別にみると、男性ではどの年代も「災害時の避難の手助け」が最も多く、女性ではどの年代も「安否確認の声かけ」が最も多くなっている（図表1-2-5- ）。

図表1-2-5- 子育て家庭・高齢者・障害者に行いたい手助け（全体：複数回答）



図表 1 - 2 - 5 - 子育て家庭・高齢者・障害者に行いたい手助け
(性・年代別、上位3位：複数回答)

		1位	2位	3位
男性	全体 (n=747)	災害時の避難の手助け 49.7	安否確認の声かけ 46.7	具合がよくないときに、病院等に連絡する 35.2
	20歳代 (n=102)	災害時の避難の手助け 51.0	具合がよくないときに、病院等に連絡する 43.1	安否確認の声かけ 41.2
	30歳代 (n=200)	災害時の避難の手助け 51.5	安否確認の声かけ 47.0	具合がよくないときに、病院等に連絡する 34.0
	40歳代 (n=181)	災害時の避難の手助け 51.9	安否確認の声かけ 50.8	具合がよくないときに、病院等に連絡する 32.6
	50歳代 (n=172)	災害時の避難の手助け 49.4	安否確認の声かけ 47.7	具合がよくないときに、病院等に連絡する 33.1
	60～64歳 (n=83)	災害時の避難の手助け 44.6	安否確認の声かけ 42.2	具合がよくないときに、病院等に連絡する 39.8
	女性	全体 (n=836)	安否確認の声かけ 58.5	具合がよくないときに、病院等に連絡する 37.1
20歳代 (n=112)		安否確認の声かけ 47.3	具合がよくないときに、病院等に連絡する 42.0	災害時の避難の手助け 41.1
30歳代 (n=241)		安否確認の声かけ 53.9	具合がよくないときに、病院等に連絡する 39.8	話し相手や相談相手 33.2
40歳代 (n=210)		安否確認の声かけ 62.4	具合がよくないときに、病院等に連絡する 38.1	話し相手や相談相手 35.7
50歳代 (n=163)		安否確認の声かけ 64.4	ちょっとした買い物やゴミ出し 36.2	話し相手や相談相手 31.3
60～64歳 (n=97)		安否確認の声かけ 68.0	ちょっとした買い物やゴミ出し 42.3	話し相手や相談相手 40.2

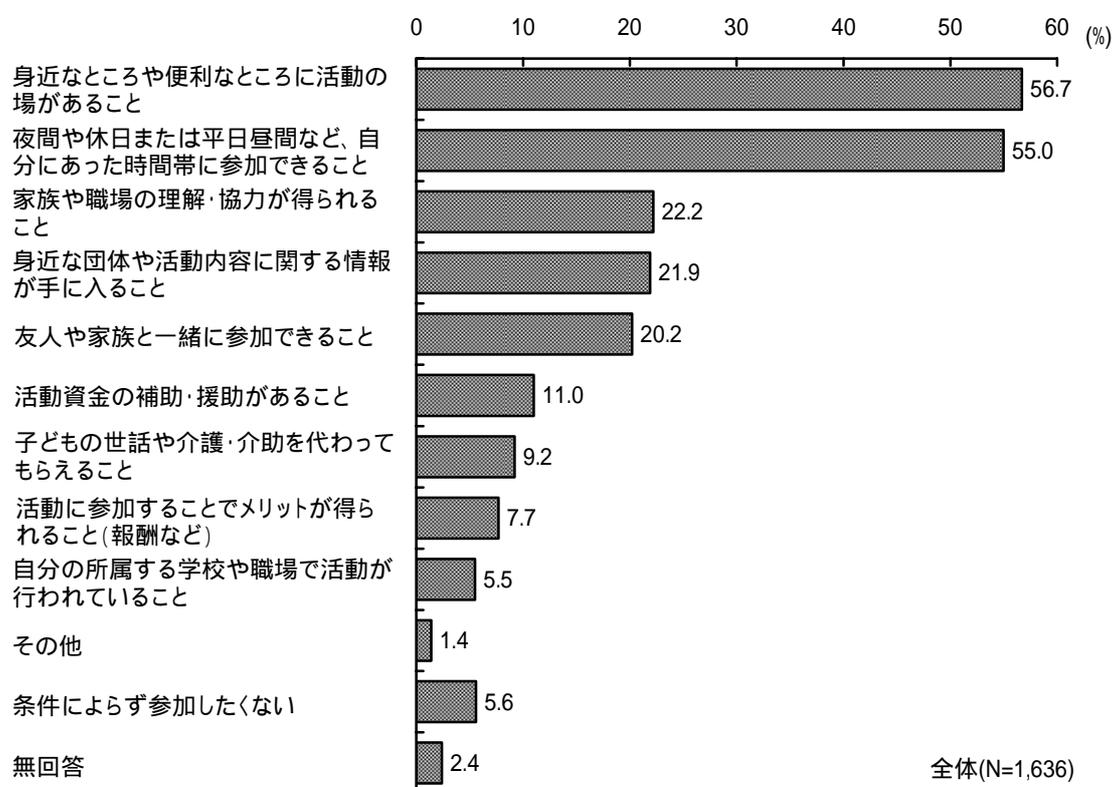
地域活動を行う上で必要な環境・条件（問４）

地域活動を行う上で必要な環境・条件は、「身近なところや便利なところに活動の場があること（56.7%）」が最も多く、「夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること（55.0%）」、「家族や職場の理解・協力が得られること（22.2%）」が続いている（図表1-2-6- ）。

性・年代別にみると、男女共20歳代は「身近なところや便利なところに活動の場があること」が最も多くなっている。また、30歳代以上の男性と30歳代、40歳代の女性は「夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること」が最も多く、地域活動に求められる《場所》と《時間帯》はライフスタイルと密接な関係があることがうかがえる（図表1-2-6- ）。

地域別にみると、全体的な傾向は共通しているが、第一地区では「身近なところや便利なところに活動の場があること（61.5%）」が4.8ポイント高く、第二地区では「身近な団体や活動内容に関する情報が手に入ること（27.2%）」が全体よりも5.3ポイント高いなど、地区によって求められる環境や条件が異なると考えられる（図表1-2-6- ）。

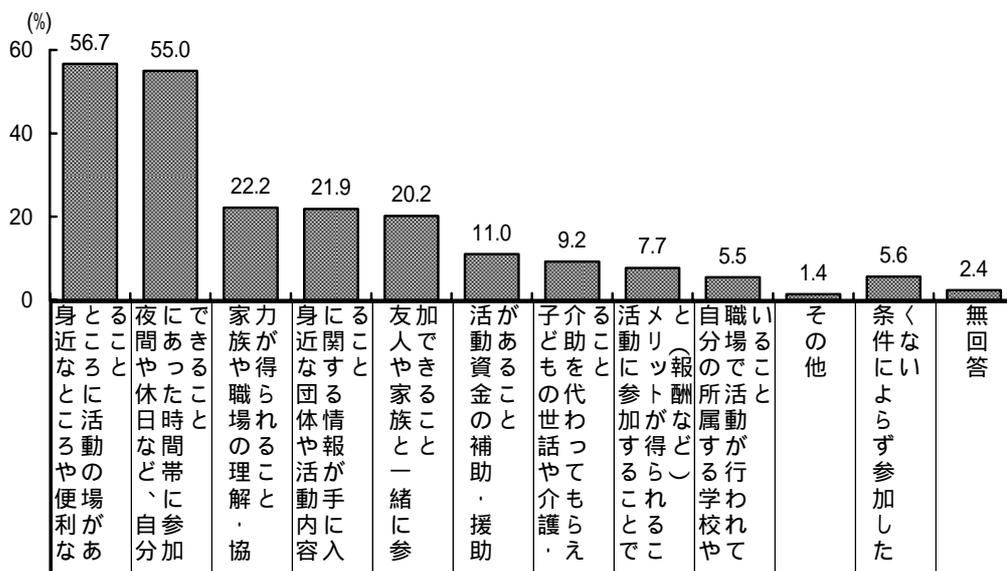
図表1-2-6- 地域活動を行う上で必要な環境・条件（全体：複数回答（3つまで））



図表1 - 2 - 6 - 地域活動を行う上で必要な環境・条件（性・年代別：複数回答（3つまで））

		1位	2位	3位
男性	全体 (n=747)	夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること 54.6	身近なところや便利なところに活動の場があること 53.1	家族や職場の理解・協力が得られること 23.4
	20歳代 (n=102)	身近なところや便利なところに活動の場があること 55.9	夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること 49.0	友人や家族と一緒に参加できること 32.4
	30歳代 (n=200)	夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること 59.5	身近なところや便利なところに活動の場があること 50.5	家族や職場の理解・協力が得られること 29.5
	40歳代 (n=181)	夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること 59.7	身近なところや便利なところに活動の場があること 51.9	家族や職場の理解・協力が得られること 30.4
	50歳代 (n=172)	夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること 51.7	身近なところや便利なところに活動の場があること 50.6	身近な団体や活動内容に関する情報が手に入ること 29.1
	60～64歳 (n= 83)	夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること 66.3	身近なところや便利なところに活動の場があること 48.2	身近な団体や活動内容に関する情報が手に入ること 27.7
	女性	全体 (n=836)	身近なところや便利なところに活動の場があること 59.8	夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること 55.9
20歳代 (n=112)	身近なところや便利なところに活動の場があること 51.8	夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること 51.8	身近な団体や活動内容に関する情報が手に入ること 24.1	
30歳代 (n=241)	夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること 58.1	身近なところや便利なところに活動の場があること 54.8	友人や家族と一緒に参加できること 27.4	
40歳代 (n=210)	夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること 62.4	身近なところや便利なところに活動の場があること 60.5	家族や職場の理解・協力が得られること 26.2	
50歳代 (n=163)	身近なところや便利なところに活動の場があること 66.9	夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること 51.5	身近な団体や活動内容に関する情報が手に入ること 25.8	
60～64歳 (n= 97)	身近なところや便利なところに活動の場があること 72.2	夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること 53.6	身近な団体や活動内容に関する情報が手に入ること 35.1	

図表 1 - 2 - 6 - 地域活動を行う上で必要な環境・条件（地域別：複数回答（3つまで））



全体 (n=1,636)		56.7	55.0	22.2	21.9	20.2	11.0	9.2	7.7	5.5	1.4	5.6	2.4
地域別	第一地区 (n= 335)	61.5	54.6	22.4	21.2	20.6	10.4	9.6	7.5	5.7	1.5	4.5	2.7
	第二地区 (n= 324)	54.6	57.1	21.9	27.2	18.5	10.8	9.6	8.0	6.2	1.2	4.3	2.2
	第三地区 (n= 262)	55.3	56.9	23.3	24.8	16.8	10.7	6.1	7.3	6.5	2.3	5.7	2.7
	第四地区 (n= 189)	54.5	52.9	19.6	19.6	23.8	13.2	7.4	9.0	5.3	0.5	7.4	2.1
	第五地区 (n= 187)	59.9	56.7	24.1	17.6	21.4	10.7	10.2	9.6	4.3	2.7	5.9	1.6
	第六地区 (n= 303)	55.1	53.1	22.8	19.1	23.4	10.6	11.6	6.6	5.0	0.7	6.3	2.0

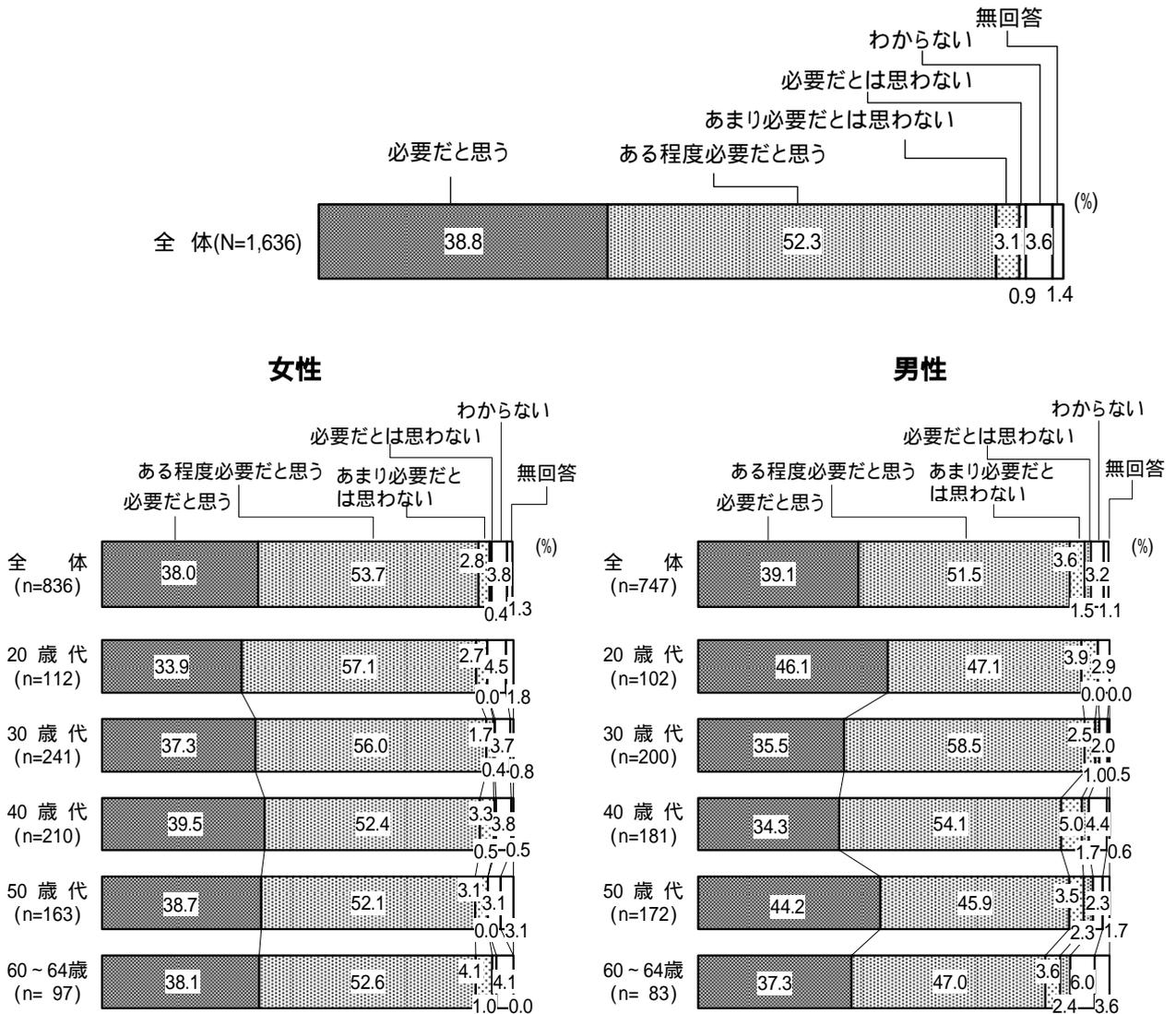
地域住民の協力関係の必要性（問5）

地域住民の協力関係は、「ある程度必要だと思う（52.3%）」が最も多く、続く「必要だと思う（38.8%）」と合わせると『必要があると思う人』は9割を超えている。

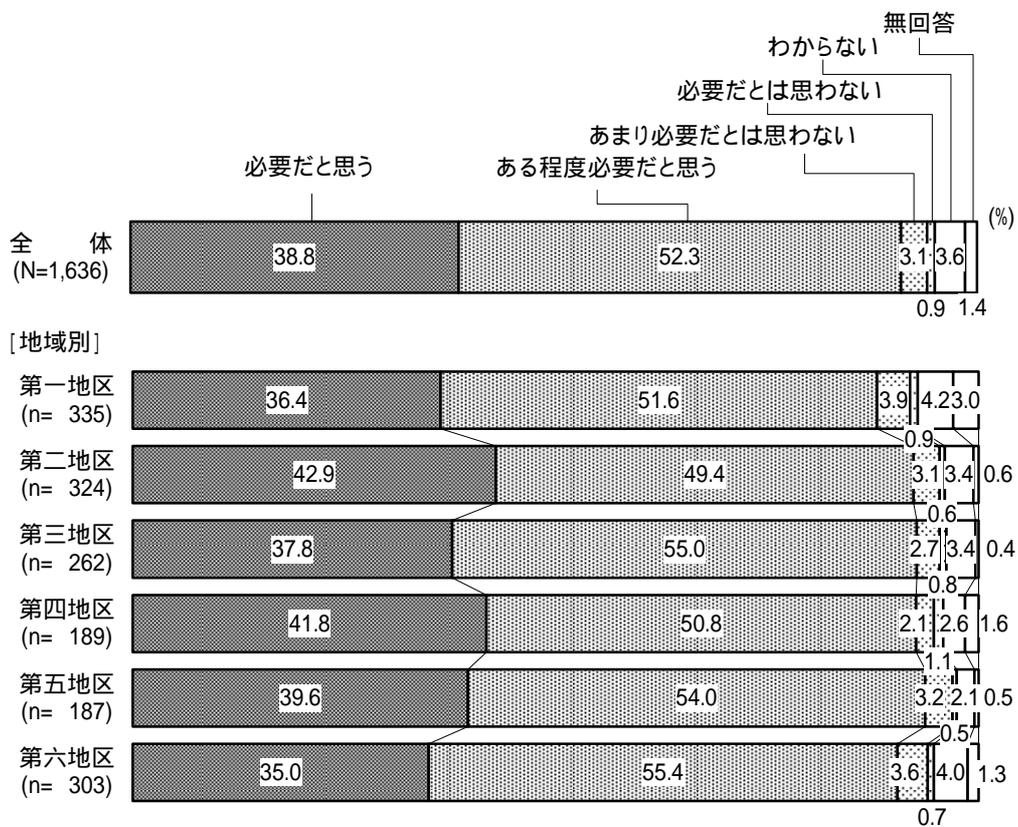
性・年代別にみると、女性は20歳代で「必要だと思う（33.9%）」が全体よりも4.9ポイント低いですが、30歳代以上は全体とほぼ同様の傾向である。一方、男性は20歳代と50歳代で「必要だと思う」が5ポイント以上高くなっており地域住民の協力関係を重視している様子が見え、40歳代では「あまり必要だとは思わない（5.0%）」がどの性・年代よりも高く、男性は考え方が多様であると考えられる（図表1-2-7- ）。

地域別にみると、第二地区、第四地区で「必要だと思う」が40%を超え、地域住民の協力関係の必要性を重視している様子が見え（図表1-2-7- ）。

図表1-2-7- 地域住民の協力関係の必要性（全体、性・年代別）



図表 1 - 2 - 7 - 地域住民の協力関係の必要性（全体、地域別）



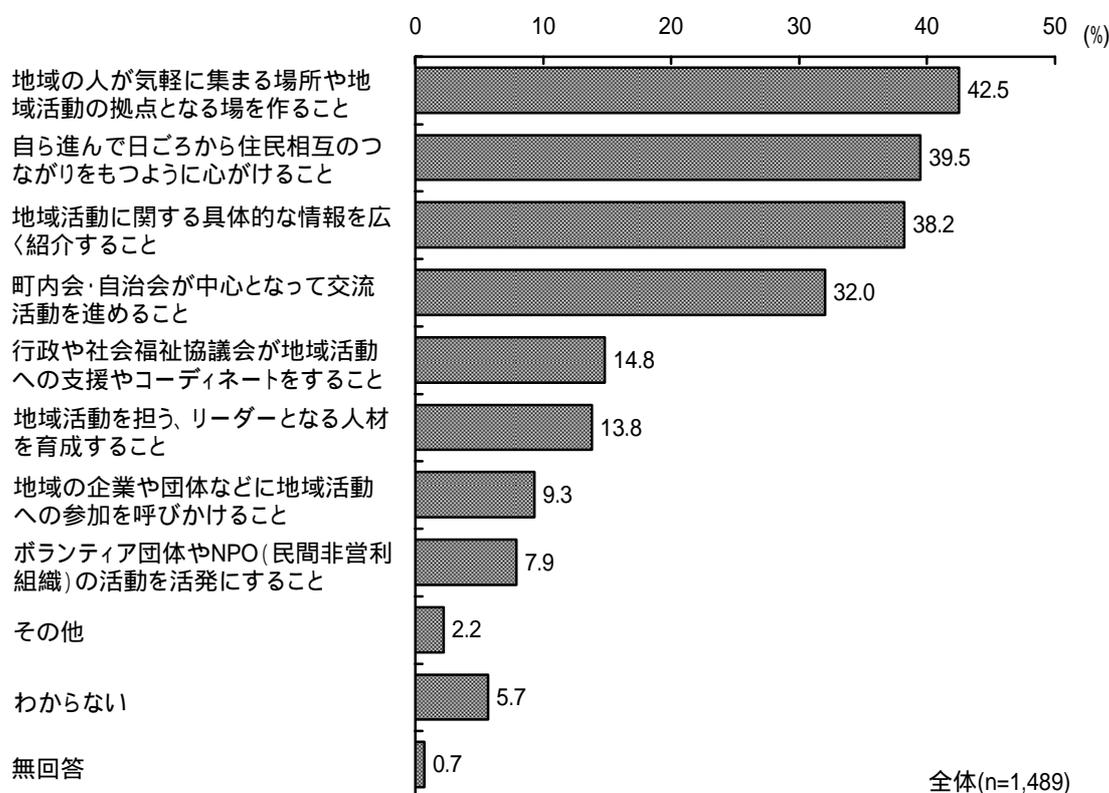
地域住民の協力関係を築くために必要なこと（問5 - 1）

地域住民の協力関係が「必要だと思う」、「ある程度必要だと思う」と答えた人に、協力関係を築くために必要なことをたずねた。地域住民の協力関係を築くために必要なことは、「地域の人々が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること(42.5%)」が最も多く、「自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること(39.5%)」、「地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること(38.2%)」が続いている(図表1 - 2 - 8 -)。

性・年代別にみると、40歳代、50歳代の男性と50歳代の女性は「地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること」を1位にあげており、情報を重視する傾向が見られる(図表1 - 2 - 8 -)。

地域別にみると、第一地区、第四地区では、1位に「自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること」があげられており、自主性が重視されている様子が見える(図表1 - 2 - 8 -)。

図表1 - 2 - 8 - 地域住民の協力関係を築くために必要なこと
 <地域住民の協力関係が「必要だと思う」、「ある程度必要だと思う」と答えた人>
 (全体：複数回答(3つまで))



図表 1 - 2 - 8 - 地域住民の協力関係を築くために必要なこと
 < 地域住民の協力関係が「必要だと思う」、「ある程度必要だと思う」と答えた人 >
 (性・年代別：複数回答 (3 つまで))

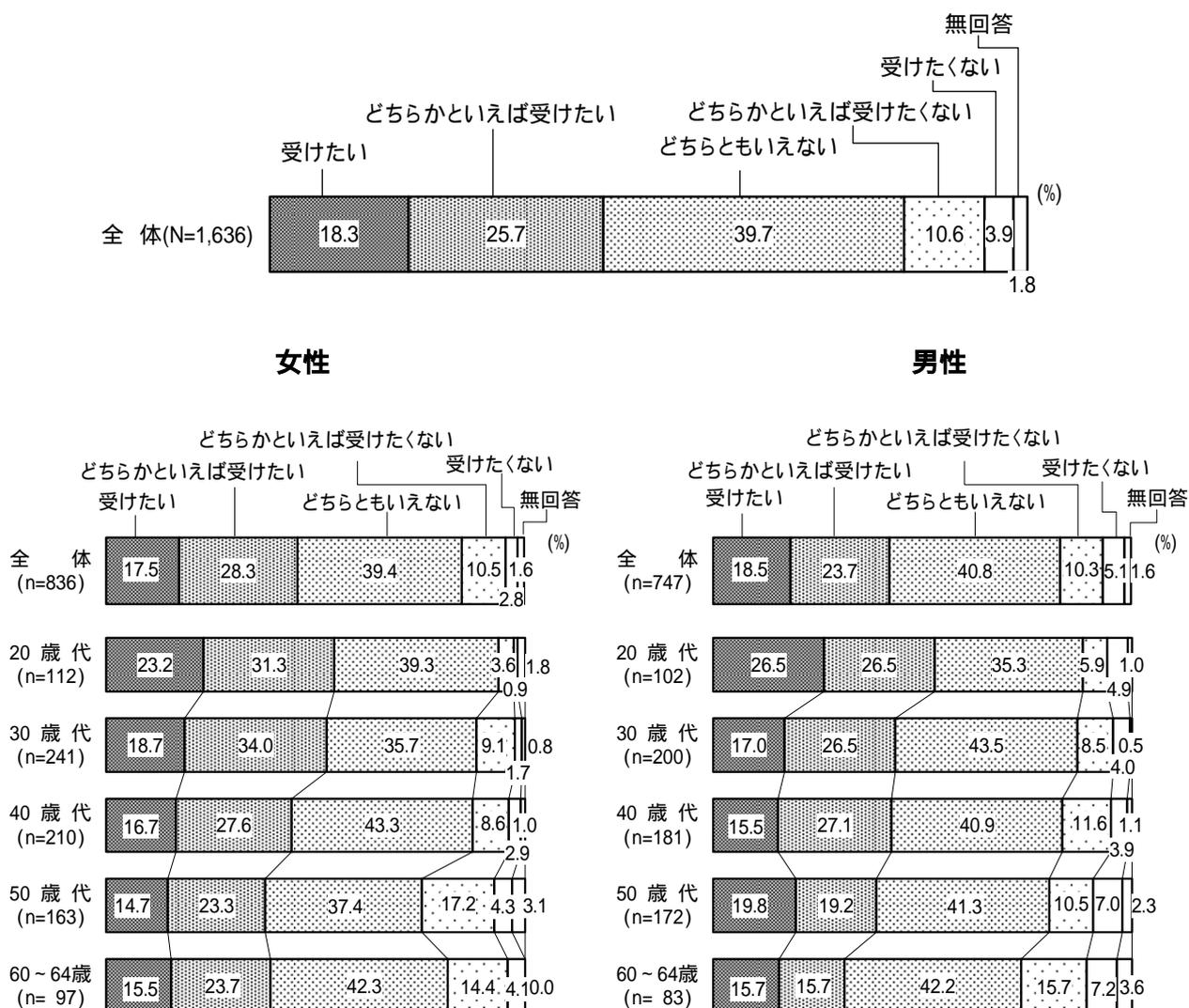
		1位	2位	3位
男性	全体 (n=677)	地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること 41.4	地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること 36.5	自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること 35.7
	20歳代 (n= 95)	地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること 50.5	自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること 36.8	町内会・自治会が中心となって交流活動を進めること 35.8
	30歳代 (n=188)	地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること 41.5	自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること 34.6	町内会・自治会が中心となって交流活動を進めること 29.3
	40歳代 (n=160)	地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること 39.4	地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること 38.1	自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること 36.9
	50歳代 (n=155)	地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること 42.6	町内会・自治会が中心となって交流活動を進めること 38.7	地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること 37.4
	60～64歳 (n= 70)	町内会・自治会が中心となって交流活動を進めること 50.0	地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること 47.1	地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること 41.4
	女性	全体 (n=767)	地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること 44.1	自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること 43.0
20歳代 (n=102)		日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること 50.0	地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること 46.1	地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること 29.4
30歳代 (n=225)		地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること 42.7	自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること 42.2	地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること 40.9
40歳代 (n=193)		地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること 44.0	自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること 43.5	地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること 37.3
50歳代 (n=148)		地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること 45.9	地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること 43.9	自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること 37.8
60～64歳 (n= 88)		自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること 46.6	地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること 46.6	地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること 45.5

地域住民の協力を受けることへの希望（問6）

地域住民の協力を受けることへの希望は、「どちらともいえない（39.7%）」が最も多く、「どちらかといえば受けない（25.7%）」、「受けない（18.3%）」が続いている。

性・年代別にみると、男女共年代が上がるにつれて「受けない」、「どちらかといえば受けない」の割合が低くなる傾向がみられ、60～64歳男性では「受けない」、「どちらかといえば受けない」の合計が31.4%と、全体の44%に比べ12.6ポイント低くなっている（図表1-2-9）。

図表1-2-9 地域住民の協力を受けることへの希望（全体、性・年代別）

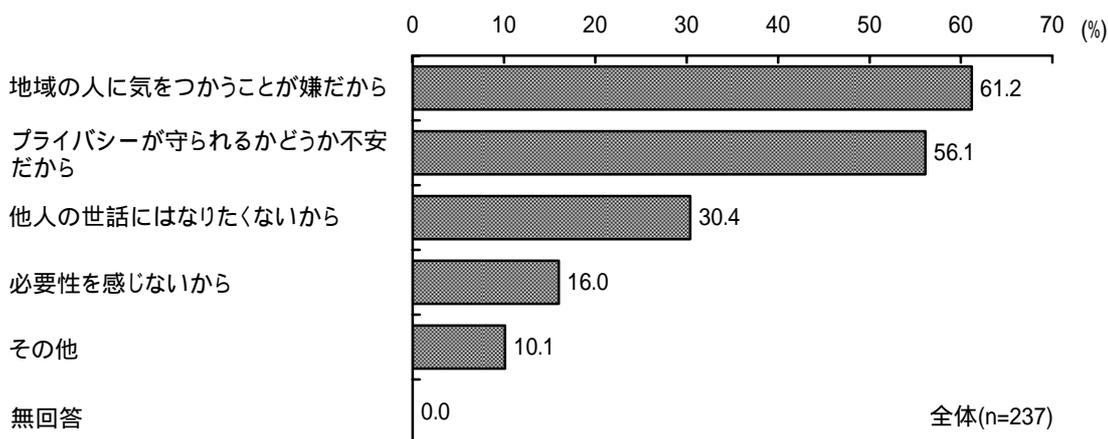


受けたくない理由：複数回答（問6 - 1）

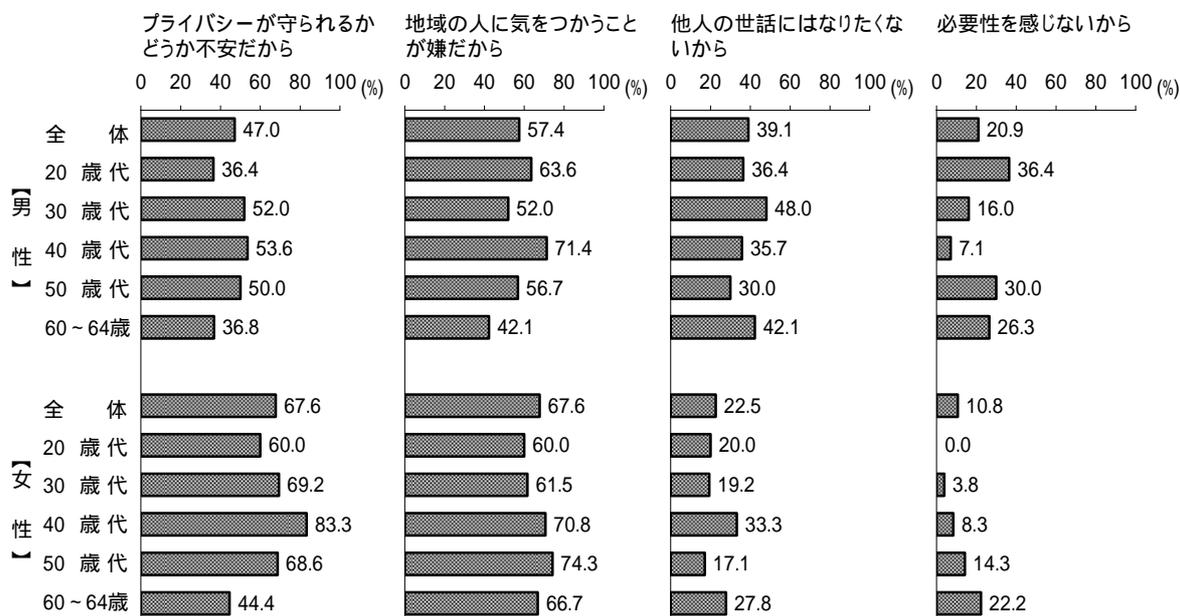
地域住民の協力を受けることへの希望について、「どちらかといえば受けたくない」、「受けたくない」と答えた人に、その理由をたずねた。受けたくない理由は、「地域の人に気がつかうことが嫌だから（61.2%）」が最も多く、「プライバシーが守られるかどうか不安だから（56.1%）」、「他人の世話にはなりたくないから（30.4%）」が続いている（図表1 - 2 - 10 - ）。

性・年代別にみると、男性はどの年代も「地域の人に気がつかうことが嫌だから」が最も多く、特に40歳代男性では71.4%と全体より10.2ポイント高くなっている。一方、女性は30歳代、40歳代で「プライバシーが守られるかどうか不安」が1位にあげられており、40歳代女性では83.3%と全体よりも27.2ポイント上回っている（図表1 - 2 - 10 - ）。

図表1 - 2 - 10 - 受けたくない理由
 <地域住民の協力を受けたくないと答えた人>（全体：複数回答）



図表1 - 2 - 10 - 受けたくない理由
 <地域住民の協力を受けたくないと答えた人>（性・年代別：複数回答）



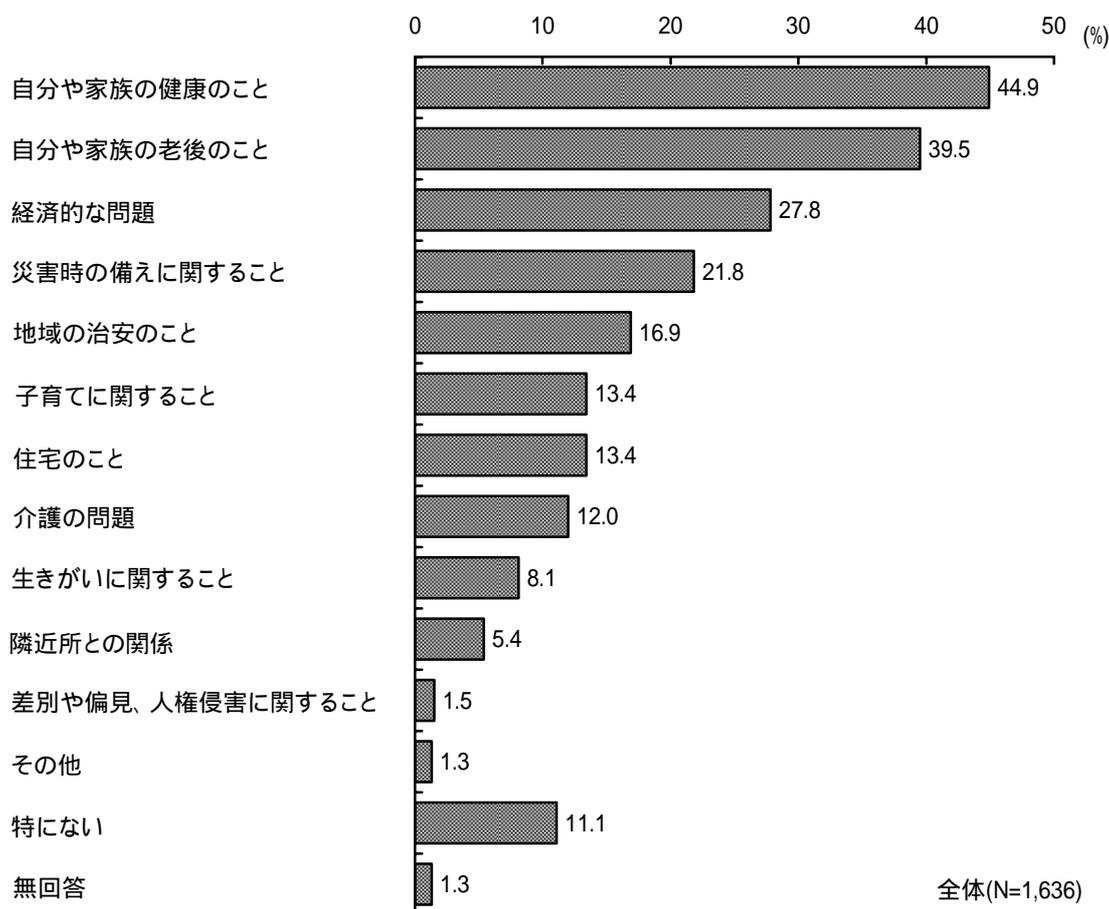
(3) 相談・情報

日常生活の悩みや不安(問7)

日常生活の悩みや不安は、「自分や家族の健康のこと(44.9%)」が最も多く、「自分や家族の老後のこと(39.5%)」、「経済的な問題(27.8%)」が続いている(図表1-3-1-)。

性・年代別にみると、男女共どの年代でも1位に「自分や家族の健康のこと」があげられているが、年代が上がるほど割合が高くなっており、60~64歳の女性では61.9%と全体を17.0ポイント上回っている。男女共20歳代では「経済的な問題」が、30歳代の女性では「子育てに関すること」が、それぞれ2位にあげられており、性・年代で悩みや不安が異なる様子がうかがえる(図表1-3-1-)。

図表1-3-1- 日常生活の悩みや不安(全体:複数回答(3つまで))



図表1 - 3 - 1 - 日常生活の悩みや不安（性・年代別：複数回答（3つまで））

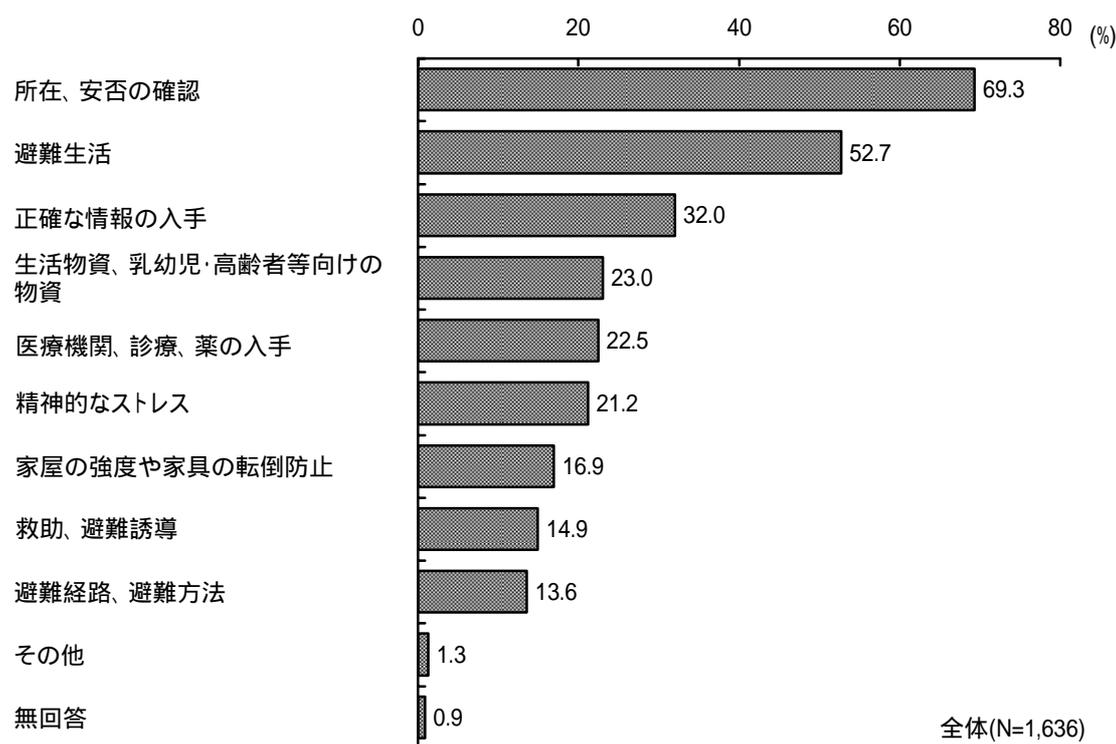
		1位	2位	3位
男性	全体 (n=747)	自分や家族の健康のこと 44.7	自分や家族の老後のこと 36.8	経済的な問題 28.8
	20歳代 (n=102)	自分や家族の健康のこと 42.2	経済的な問題 39.2	自分や家族の老後のこと 31.4
	30歳代 (n=200)	自分や家族の健康のこと 46.5	経済的な問題 34.0	自分や家族の老後のこと 27.5
	40歳代 (n=181)	自分や家族の健康のこと 46.4	自分や家族の老後のこと 32.0	経済的な問題 27.6
	50歳代 (n=172)	自分や家族の老後のこと 47.7	自分や家族の健康のこと 41.3	災害時の備えに関する こと 20.9
	60～64歳 (n= 83)	自分や家族の老後のこと 51.8	自分や家族の健康のこと 44.6	経済的な問題 26.5
	女性	全体 (n=836)	自分や家族の健康のこと 45.5	自分や家族の老後のこと 41.6
20歳代 (n=112)	自分や家族の健康のこと 42.9	経済的な問題 31.3	自分や家族の老後のこと / 災害時の備えに関する こと 28.6	
30歳代 (n=241)	自分や家族の健康のこと 42.3	子育てに関する こと 33.2	自分や家族の老後の こと 30.7	
40歳代 (n=210)	自分や家族の健康のこと 43.3	自分や家族の老後の こと 41.0	経済的な問題 32.9	
50歳代 (n=163)	自分や家族の老後の こと 58.9	自分や家族の健康の こと 46.0	経済的な問題 25.2	
60～64歳 (n= 97)	自分や家族の健康の こと 61.9	自分や家族の老後の こと 60.8	経済的な問題 / 災害時の 備えに関する こと 20.6	

災害時に不安に思うこと（問 8）

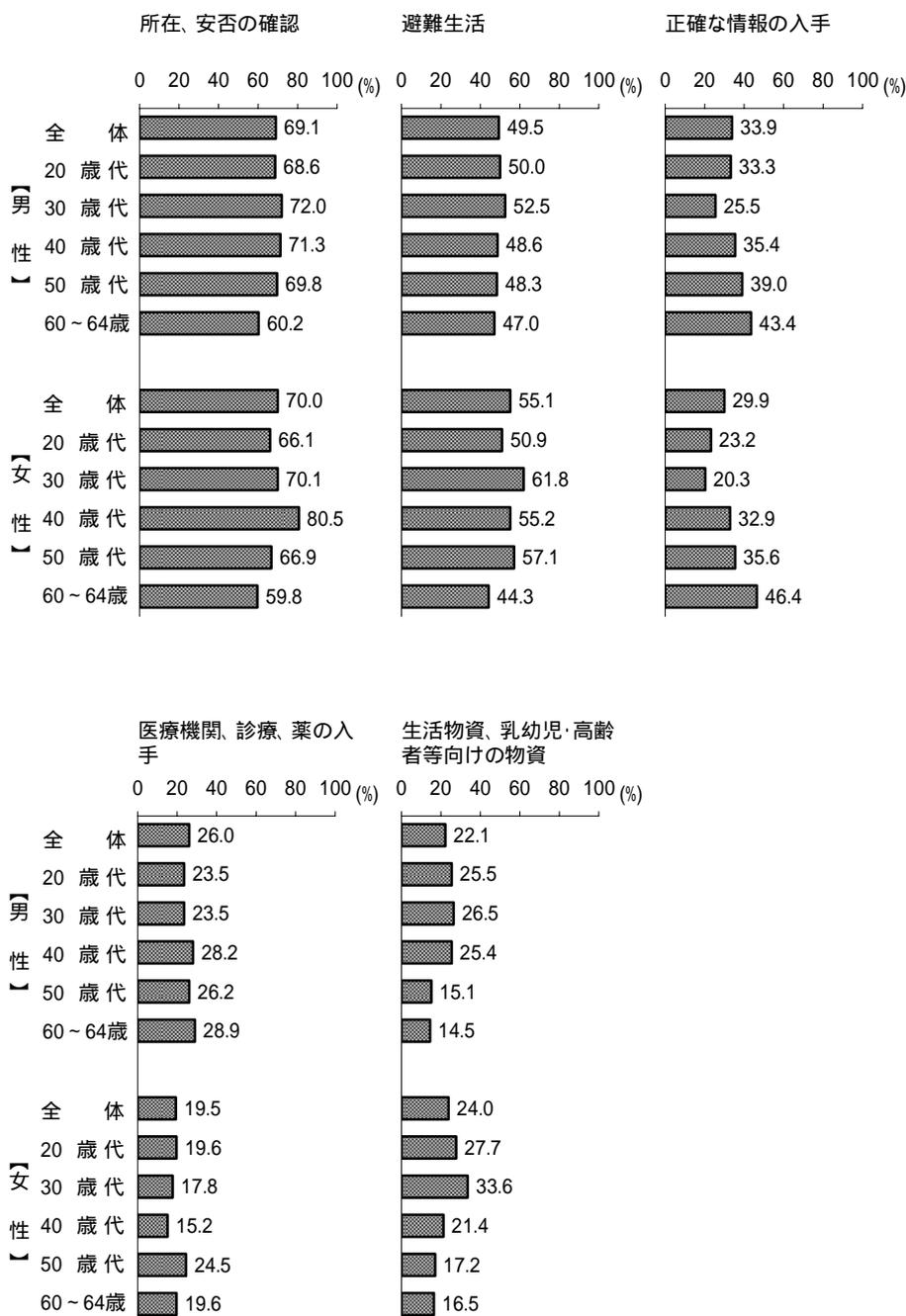
災害時に不安に思うことは、「所在、安否の確認（69.3%）」が最も多く、「避難生活（52.7%）」、「正確な情報の入手（32.0%）」が続いている（図表 1 - 3 - 2 - ）。

性・年代別にみると、「所在、安否の確認」では男性では30歳代、女性では40歳代が最も高く、男女共60～64歳で低くなっている。また、男女共「正確な情報の入手」が年代によって異なる傾向がみられ、30歳代が最も少なく、年代が上がるにつれ不安に思う割合が高くなっている。より年代の差が顕著な女性では、最も低い30歳代（20.3%）と最も高い60～64歳（46.4%）では26.1ポイントの差がある。「生活物資、乳幼児・高齢者等向けの物資」についても性・年代で差がみられ、男女共30歳代で不安に思う割合が高く、年代が上がるにつれて不安に思う割合が低くなっている。女性の方が差が大きく、最も高い30歳代（33.6%）と最も低い60～64歳（16.5%）では17.1ポイントの差がある（図表 1 - 3 - 2 - ）。

図表 1 - 3 - 2 - 災害時に不安に思うこと（全体：複数回答）



図表1-3-2 - 災害時に不安に思うこと（性・年代別：複数回答）

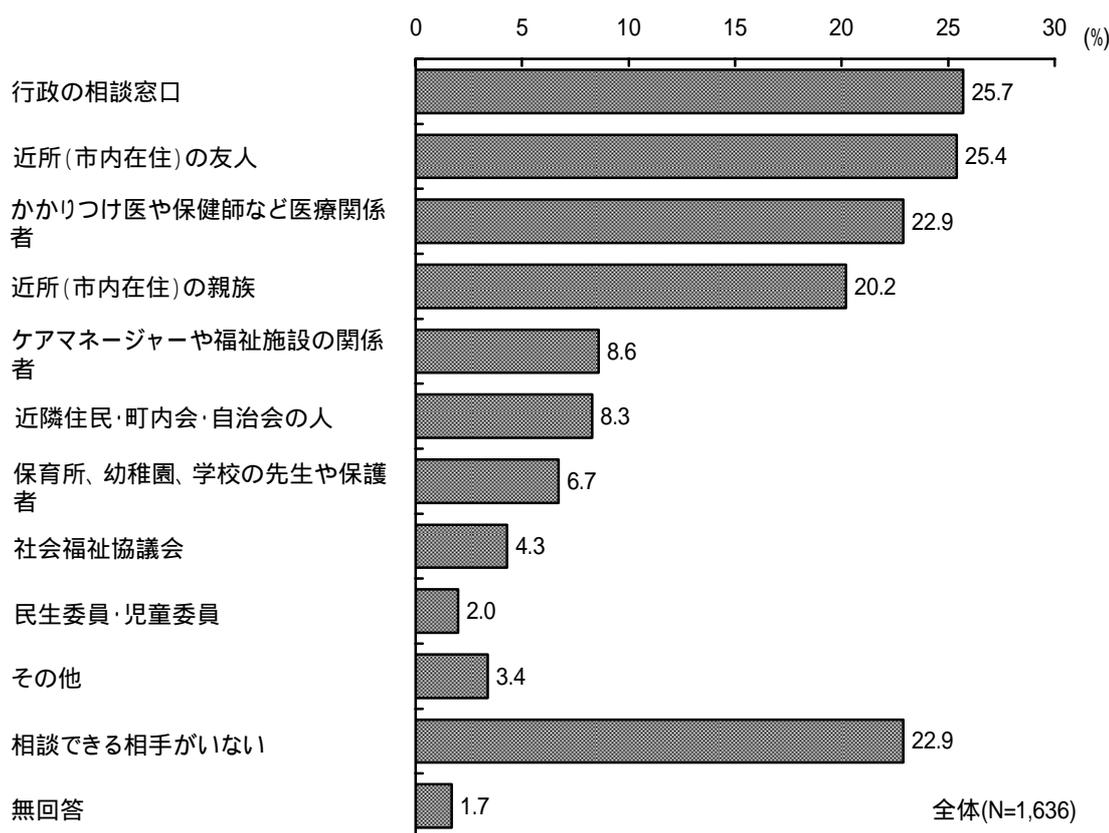


地域の相談相手（問9）

地域の相談相手は、「行政の窓口(25.7%)」が最も多く、「近所(市内在住)の友人(25.4%)」、「かかりつけ医や保健師など医療関係者(22.9%)」が続いている。また、「相談できる相手がない(22.9%)」も2割程度となっている(図表1-3-3-)。

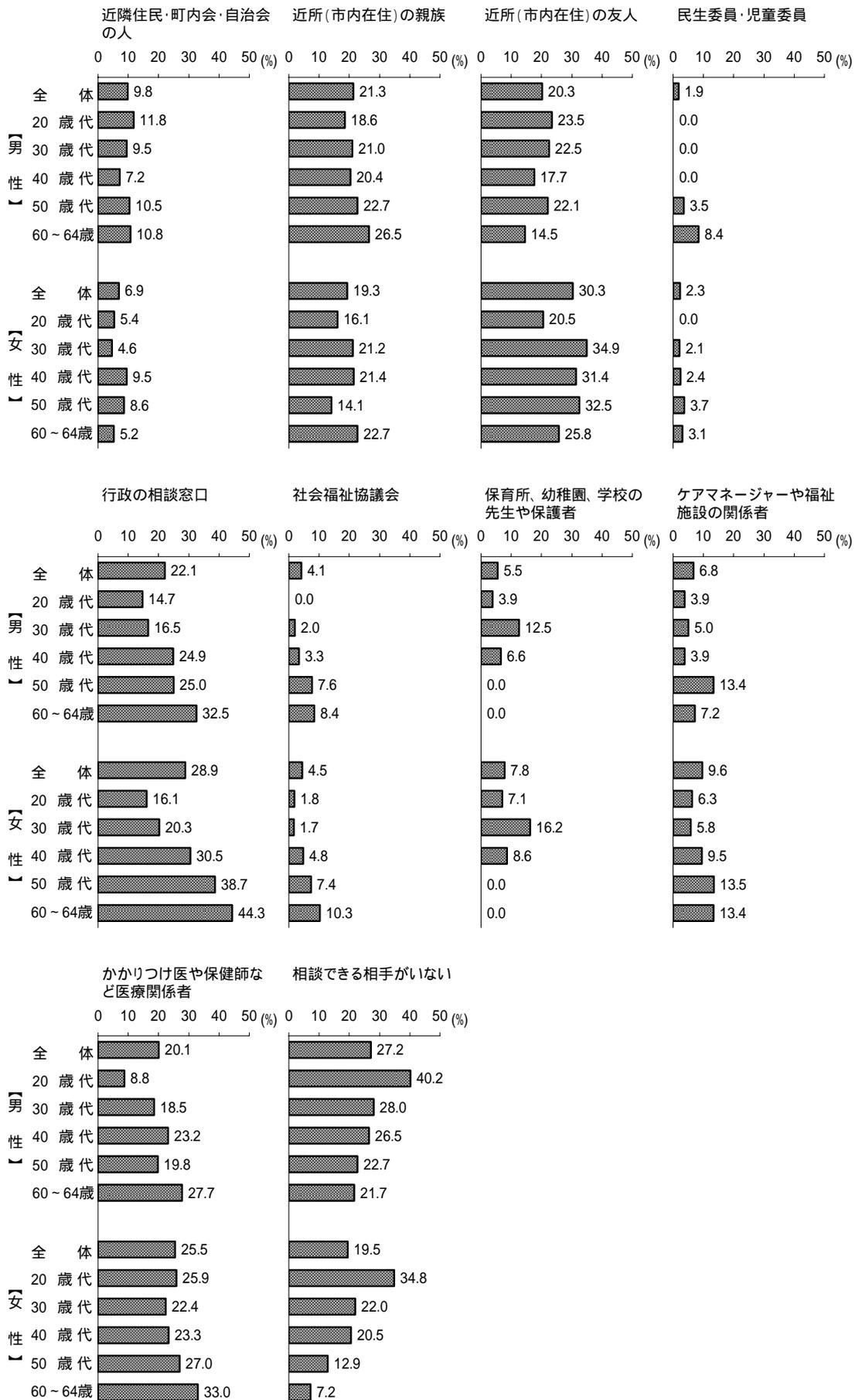
性・年代別にみると、20歳代男性、男女共30歳代では、「近所(市内在住)の友人」が最も多くなっている。「行政の相談窓口」を地域の相談相手と答えた割合は男女共年代が上がるにつれて多くなる傾向がみられ、女性の方が差が大きく、最も少ない20歳代(16.1%)と最も多い60～64歳(44.3%)では28.2ポイントの差がある。「相談できる相手がない」については、男女共20歳代が最も多く、年代が上がるにつれて割合が少なくなっている。最も多い20歳代男性では40.2%、最も少ない60～64歳女性では7.2%となっており、地域の相談できる相手の有無は性・年代で大きく異なることがわかる(図表1-3-3-)。

図表1-3-3- 地域の相談相手（全体：複数回答）



* 行政の相談窓口は、市役所、保健センター、女性センター、児童相談所、保健所等の窓口を示します。

図表1-3-3 - 地域の相談相手（性・年代別：複数回答）



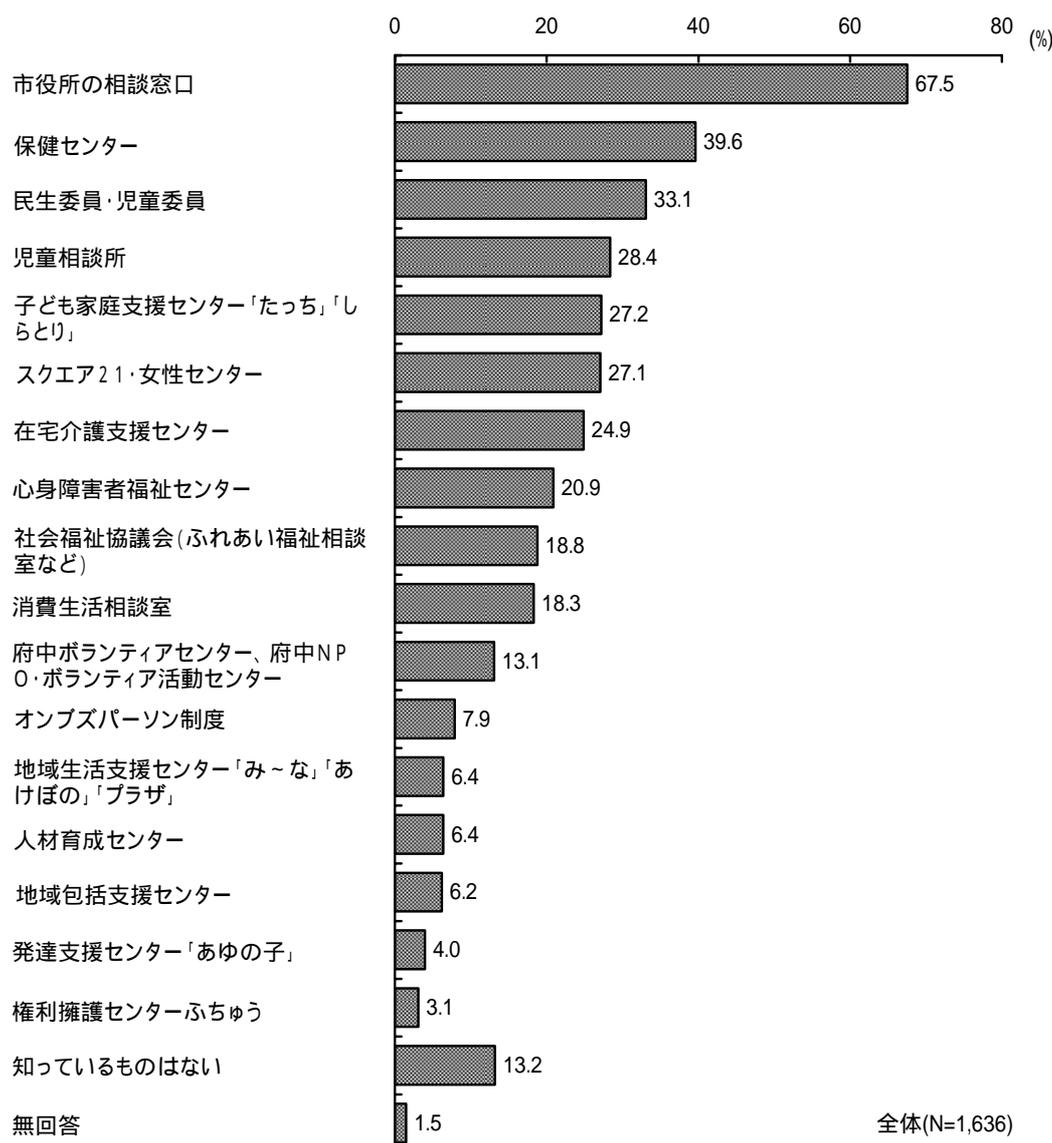
相談事業の認知度（問 10）

相談事業の認知度については、「市役所の相談窓口（67.5%）」が最も多く、「保健センター（39.6%）」、「民生委員・児童委員（33.1%）」が続いている（図表 1 - 3 - 4 - ）。

性・年代別にみると、男女共どの年代も「市役所の相談窓口」が最も多く、60～64 歳女性では 91.8% と非常に高い割合で認知されていることがわかる。男性ではどの年代も「保健センター」と「民生委員・児童委員」が 2 位、3 位にあげられているが、女性は 20 歳代、30 歳代で「子ども家庭支援センター「たち」」「しらとり」が、50 歳代では「在宅介護支援センター」が上位にあげられており、女性の方が年代で相談事業の認知度が異なる様子うかがえる（図表 1 - 3 - 4 - ）。

性・年代別に「知っているものはない」をみると、男女共 20 歳代の割合が高く、男性の方がどの年代もその割合が高くなっている。60～64 歳の女性は、「知っているものはない」の割合が 0.0% と、相談事業の認知度が高いことわかる（図表 1 - 3 - 4 - ）。

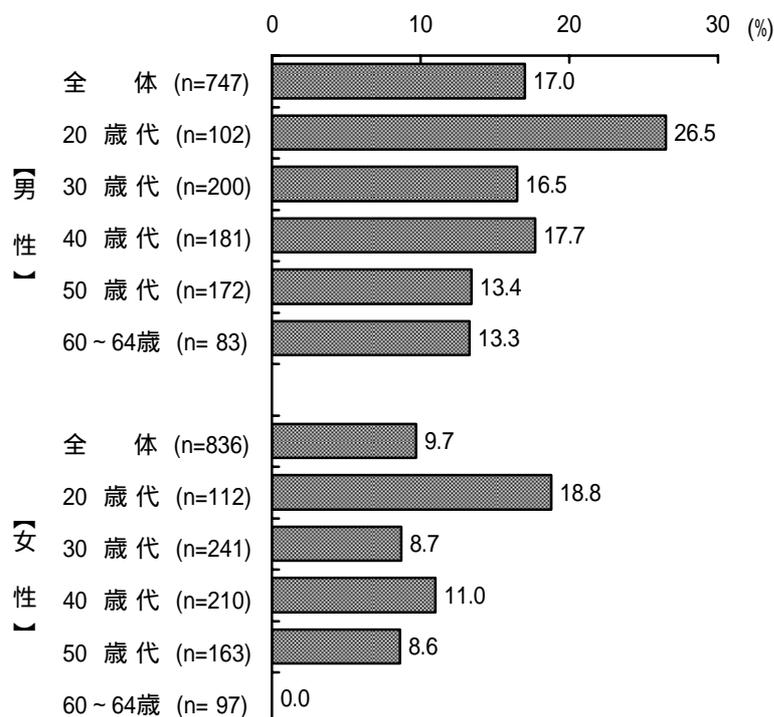
図表 1 - 3 - 4 - 相談事業の認知度（全体：複数回答）



図表1 - 3 - 4 - 相談事業の認知度（性・年代別：複数回答）

		1位	2位	3位
男性	全体 (n=747)	市役所の相談窓口 65.3	保健センター 35.7	民生委員・児童委員 28.4
	20歳代 (n=102)	市役所の相談窓口 57.8	保健センター 21.6	児童相談所 15.7
	30歳代 (n=200)	市役所の相談窓口 62.0	保健センター 39.0	子ども家庭支援センター 「たち」「しらとり」 31.0
	40歳代 (n=181)	市役所の相談窓口 59.1	保健センター 37.6	民生委員・児童委員 32.0
	50歳代 (n=172)	市役所の相談窓口 72.7	民生委員・児童委員 37.2	保健センター 35.5
	60～64歳 (n= 83)	市役所の相談窓口 78.3	保健センター 44.6	民生委員・児童委員 36.1
	女性	全体 (n=836)	市役所の相談窓口 69.9	保健センター 43.5
20歳代 (n=112)	市役所の相談窓口 53.6	保健センター 41.1	子ども家庭支援センター 「たち」「しらとり」 34.8	
30歳代 (n=241)	市役所の相談窓口 61.4	子ども家庭支援センター 「たち」「しらとり」 54.8	保健センター 48.1	
40歳代 (n=210)	市役所の相談窓口 71.9	民生委員・児童委員 46.2	保健センター 45.2	
50歳代 (n=163)	市役所の相談窓口 79.1	民生委員・児童委員 47.2	在宅介護支援センター 38.0	
60～64歳 (n= 97)	市役所の相談窓口 91.8	民生委員・児童委員 49.5	保健センター 44.3	

図表 1 - 3 - 4 - 相談事業の認知度（「知っているものはない」性・年代別：複数回答）



相談事業の認知度について、地域別にみると、第三地区、第四地区では「市役所の相談窓口（第三地区：72.5%、第四地区：71.4%）」が、その他、第四地区では「心身障害者福祉センター（28.0%）」と「スクエア 21・女性センター（36.5%）」が比較的高くなっている。また、第五地区については、「地域包括支援センター（9.6%）」、「在宅介護支援センター（31.0%）」の割合が比較的高くなっている（図表 1 - 3 - 4 - ）。

図表 1 - 3 - 4 - 知っている相談事業（全体・地域別、複数回答）

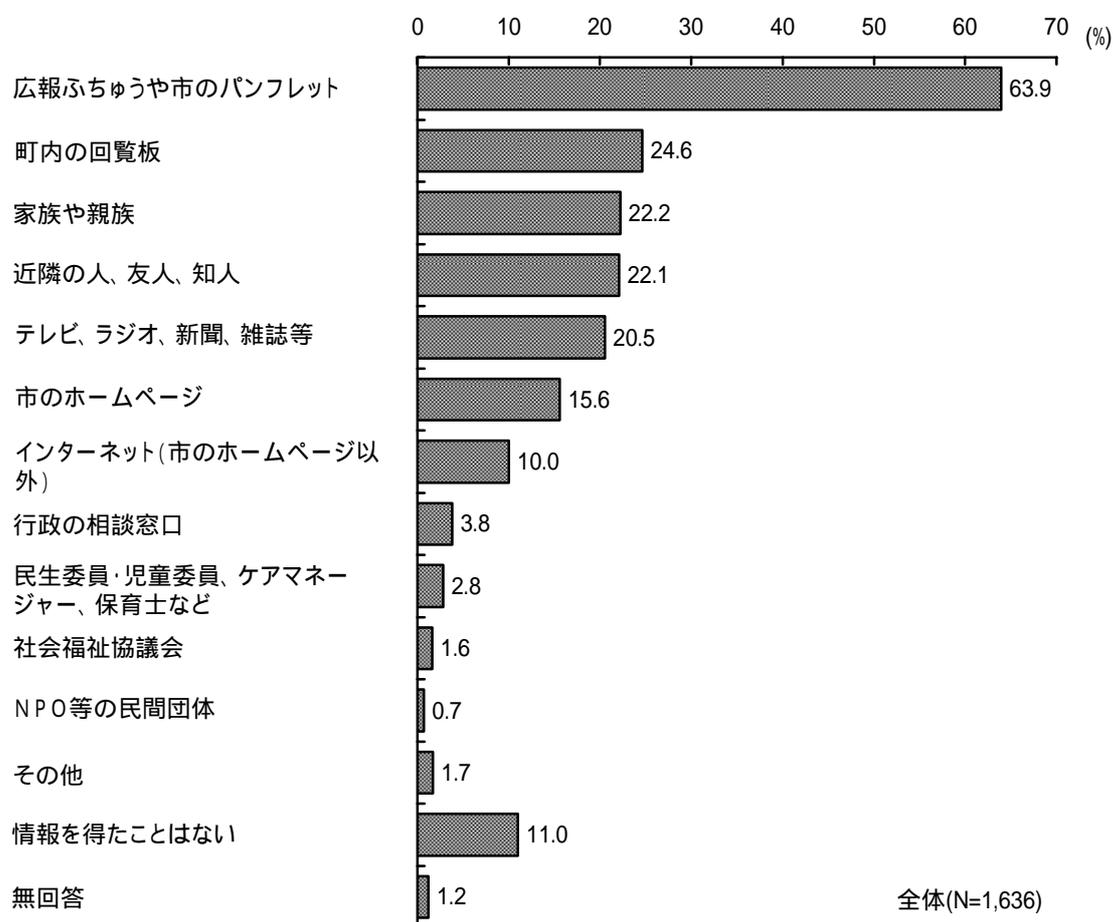
		市役所の相談窓口	民生委員・児童委員	オンブズパーソン制度	地域包括支援センター	在宅介護支援センター	権利擁護センター「ふちゆう」	心身障害者福祉センター	発達支援センター「あゆの子」	児童相談所	保健センター	地域生活支援センター「みくな」	子ども家庭支援センター	スクエア 21・女性センター	社会福祉協議会（ふれあい福祉相談室など）	府中ボランティアセンター、府中 NPO・ボランティア活動センター	人材育成センター	消費生活相談室	知っているものはない	無回答
全	体 (N=1,636)	67.5	33.1	7.9	6.2	24.9	3.1	20.9	4.0	28.4	39.6	6.4	27.2	27.1	18.8	13.1	6.4	18.3	13.2	1.5
地区別	第一地区 (n= 335)	60.3	29.3	6.9	6.0	20.9	2.4	19.1	4.8	23.0	37.3	5.7	28.7	18.5	14.0	15.2	6.3	18.8	19.1	2.1
	第二地区 (n= 324)	66.7	29.3	6.2	5.6	26.2	2.5	19.1	4.0	29.6	42.3	5.2	29.3	18.8	17.3	13.0	6.2	17.9	13.3	0.9
	第三地区 (n= 262)	72.5	37.0	8.0	6.9	27.1	3.4	17.6	5.0	31.3	40.1	9.9	29.8	23.7	21.0	14.1	7.6	19.1	11.8	1.5
	第四地区 (n= 189)	71.4	34.4	11.6	7.9	25.4	4.2	28.0	3.7	29.6	37.6	7.4	26.5	36.5	24.3	13.2	7.4	22.2	13.2	0.5
	第五地区 (n= 187)	69.0	36.4	8.0	9.6	31.0	4.3	22.5	3.2	29.4	43.3	7.5	27.8	24.1	22.5	12.3	5.9	20.9	10.2	2.7
	第六地区 (n= 303)	68.3	35.3	8.9	3.6	21.8	3.3	22.8	3.3	30.0	40.3	4.6	23.1	45.5	18.2	11.6	5.6	15.5	9.9	1.3

福祉サービスの情報入手方法（問 11 - 1）

日ごろの福祉サービスの情報入手方法は、「広報ふちゅうや市のパンフレット（63.9%）」が最も多く、「町内の回覧板（24.6%）」、「家族や親族（22.2%）」が続いている（図表 1 - 3 - 5 - ）。

性・年代別にみると、男女共どの年代とも「広報ふちゅうや市のパンフレット」が最も多く、特に 60～64 歳男性、30 歳代以上の女性では 70%を超えている。また、20 歳代の男女と 40 歳代の男性では「市のホームページ」、50 歳代以上の男女は「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等」が 3 位にあげられており、性・年代で情報入手方法が異なる様子うかがえる（図表 1 - 3 - 5 - ）。

図表 1 - 3 - 5 - 福祉サービスの情報入手方法（全体：複数回答（3つまで））



図表 1 - 3 - 5 - 福祉サービスの情報入手方法（性・年代別：複数回答（3つまで））

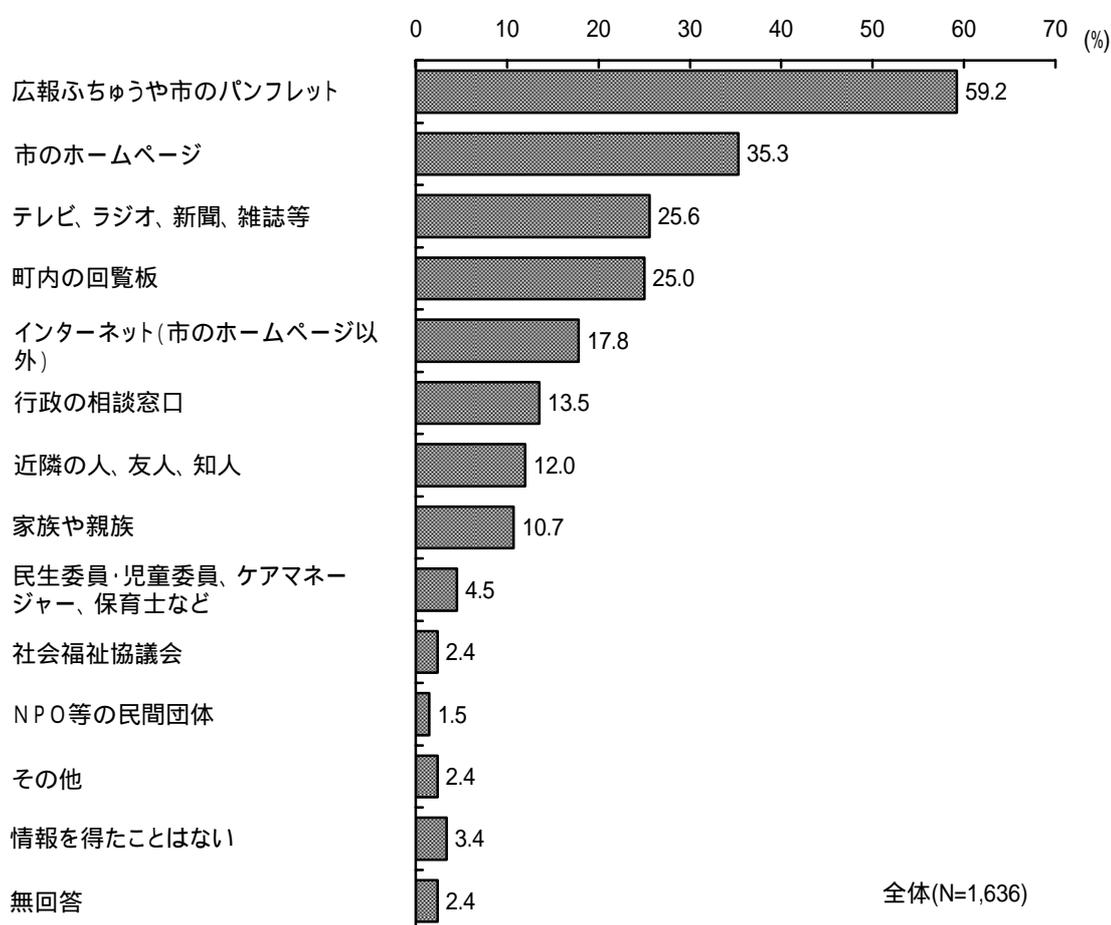
		1位	2位	3位
男性	全体 (n=747)	広報ふちゅうや市のパンフレット 56.5	家族や親族 25.2	町内の回覧板 22.0
	20歳代 (n=102)	広報ふちゅうや市のパンフレット 31.4	家族や親族 27.5	市のホームページ 14.7
	30歳代 (n=200)	広報ふちゅうや市のパンフレット 51.5	家族や親族 32.0	近隣の人、友人、知人 28.5
	40歳代 (n=181)	広報ふちゅうや市のパンフレット 60.8	家族や親族 27.6	市のホームページ 25.4
	50歳代 (n=172)	広報ふちゅうや市のパンフレット 65.1	町内の回覧板 25.6	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等 25.6
	60～64歳 (n= 83)	広報ふちゅうや市のパンフレット 71.1	町内の回覧板 38.6	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等 32.5
	女性	全体 (n=836)	広報ふちゅうや市のパンフレット 70.9	町内の回覧板 26.7
20歳代 (n=112)	広報ふちゅうや市のパンフレット 48.2	家族や親族 25.9	市のホームページ 22.3	
30歳代 (n=241)	広報ふちゅうや市のパンフレット 70.1	近隣の人、友人、知人 30.7	家族や親族 24.9	
40歳代 (n=210)	広報ふちゅうや市のパンフレット 73.8	町内の回覧板 30.0	近隣の人、友人、知人 24.8	
50歳代 (n=163)	広報ふちゅうや市のパンフレット 79.8	町内の回覧板 41.1	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等 27.0	
60～64歳 (n= 97)	広報ふちゅうや市のパンフレット 78.4	町内の回覧板 42.3	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等 29.9	

今後希望する福祉サービスの情報入手方法（問 11 - 2）

今後希望する福祉サービスの情報入手方法は、「広報ふちゅうや市のパンフレット（59.2%）」が最も多く、「市のホームページ（35.3%）」、「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等（25.6%）」が続いている（図表 1 - 3 - 6 - ）。

性・年代別にみると、男女共どの年代も「広報ふちゅうや市のパンフレット」が最も多いが、年代が上がるにつれその割合が高くなる傾向がみられる。また、20歳代から50歳代の男性、20歳代から40歳代の女性と、広い年代で「市のホームページ」が今後希望する福祉サービスの情報入手方法としてあげられている（図表 1 - 3 - 6 - ）。

図表 1 - 3 - 6 - 今後希望する福祉サービスの情報入手方法（全体：複数回答（3つまで））



図表 1 - 3 - 6 - 今後希望する福祉サービスの情報入手方法（性・年代別：複数回答（3つまで））

		1位	2位	3位
男性	全体 (n=747)	広報ふちゅうや市のパンフレット 52.9	市のホームページ 35.1	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等 26.1
	20歳代 (n=102)	広報ふちゅうや市のパンフレット 34.3	市のホームページ 34.3	町内の回覧板 24.5
	30歳代 (n=200)	広報ふちゅうや市のパンフレット 48.0	市のホームページ 33.0	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等／インターネット(市のホームページ以外) 27.0
	40歳代 (n=181)	広報ふちゅうや市のパンフレット 54.7	市のホームページ 43.1	インターネット(市のホームページ以外) 24.3
	50歳代 (n=172)	広報ふちゅうや市のパンフレット 58.1	市のホームページ 37.8	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等 28.5
	60～64歳 (n= 83)	広報ふちゅうや市のパンフレット 68.7	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等 32.5	町内の回覧板 31.3
	女性	全体 (n=836)	広報ふちゅうや市のパンフレット 65.3	市のホームページ 35.0
20歳代 (n=112)	広報ふちゅうや市のパンフレット 45.5	市のホームページ 39.3	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等 24.1	
30歳代 (n=241)	広報ふちゅうや市のパンフレット 59.3	市のホームページ 42.7	町内の回覧板 22.8	
40歳代 (n=210)	広報ふちゅうや市のパンフレット 68.6	市のホームページ 38.6	町内の回覧板 27.1	
50歳代 (n=163)	広報ふちゅうや市のパンフレット 79.8	町内の回覧板 33.7	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等 31.9	
60～64歳 (n= 97)	広報ふちゅうや市のパンフレット 72.2	町内の回覧板 36.1	行政の相談窓口 29.9	

(4) まちと心のバリアフリー

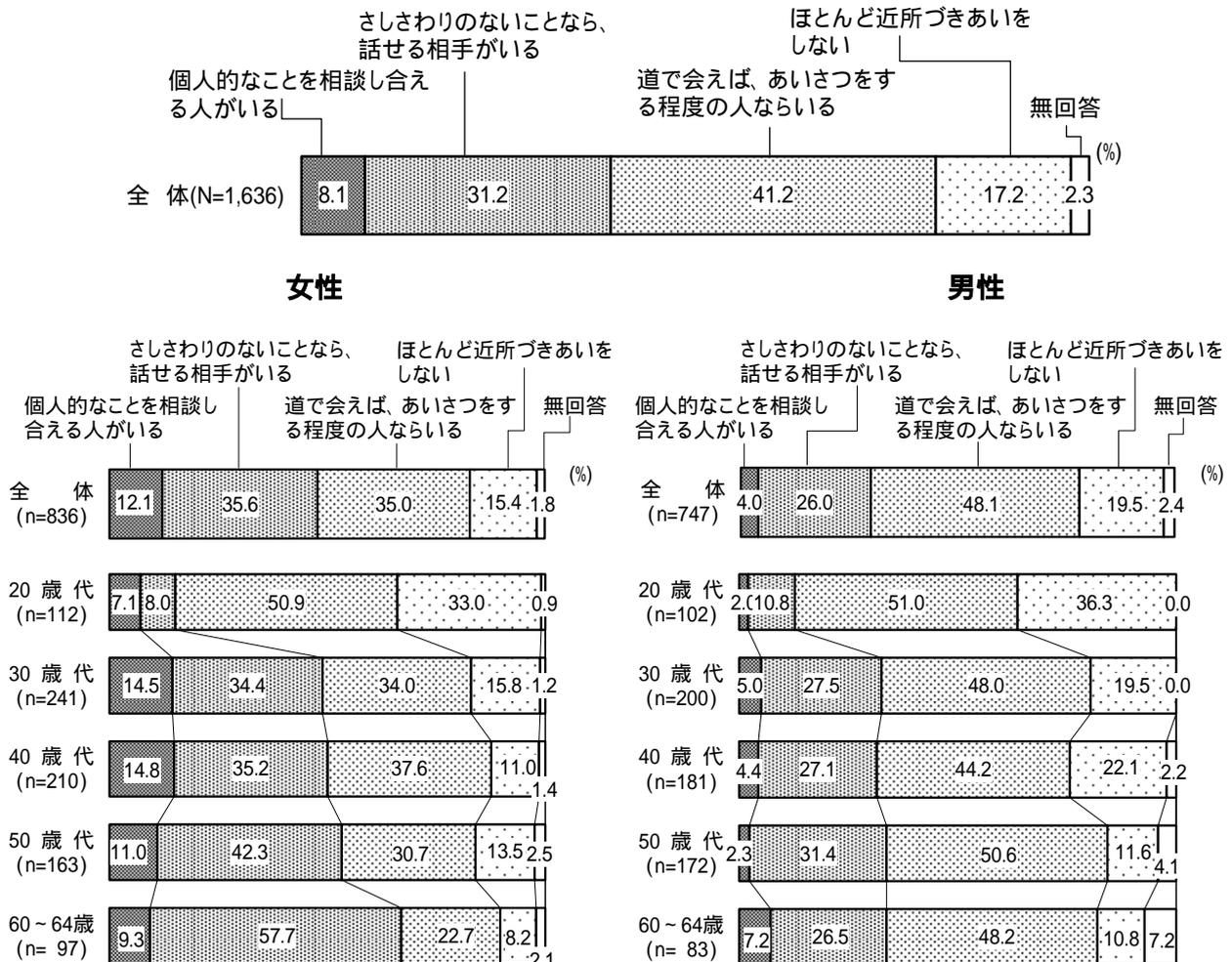
近所づきあいの程度 (問 12)

近所づきあいの程度については、「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる (41.2%)」が最も多く、「さしさわりのないことなら、話せる相手がいる (31.2%)」、「ほとんど近所づきあいをしない (17.2%)」が続いている。

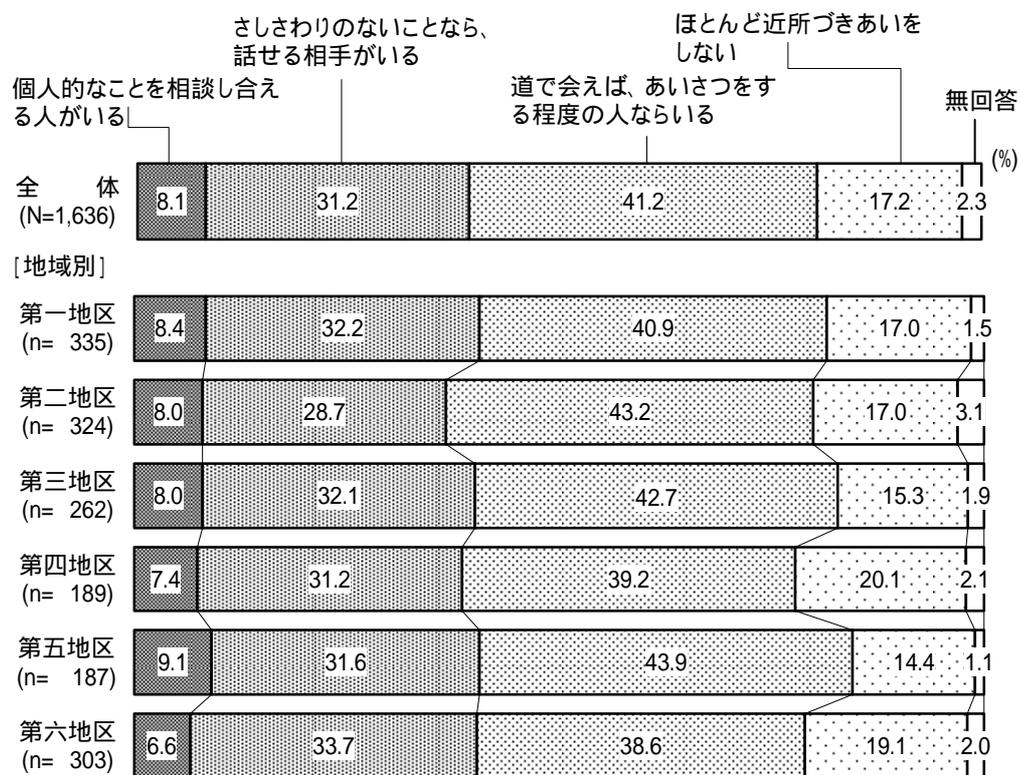
性・年代別にみると、男女共 20 歳代では「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」が 50%以上を占め、「ほとんど近所づきあいをしない」が約 3 分の 1 を占めている。男女共年代が上がるほど「ほとんど近所づきあいをしない」が少なくなる傾向がみられ、60～64 歳の男性では 10.8%、女性では 8.2%となっている。また、女性ではどの年代も同じ年代の男性に比べ「個人的なことを相談し合える人がある」が多く、特に 30 歳代、40 歳代の女性は他の性・年代に比べ高く、14%台となっている (図表 1 - 4 - 1 -)。

地域別にみると、第五地区が他地区に比べ「個人的なことを相談し合える人がある」が多く、第四地区、第六地区は「ほとんど近所づきあいをしない」の割合が他地区に比べやや高くなっている (図表 1 - 4 - 1 -)。

図表 1 - 4 - 1 - 近所づきあいの程度 (全体、性・年代別)

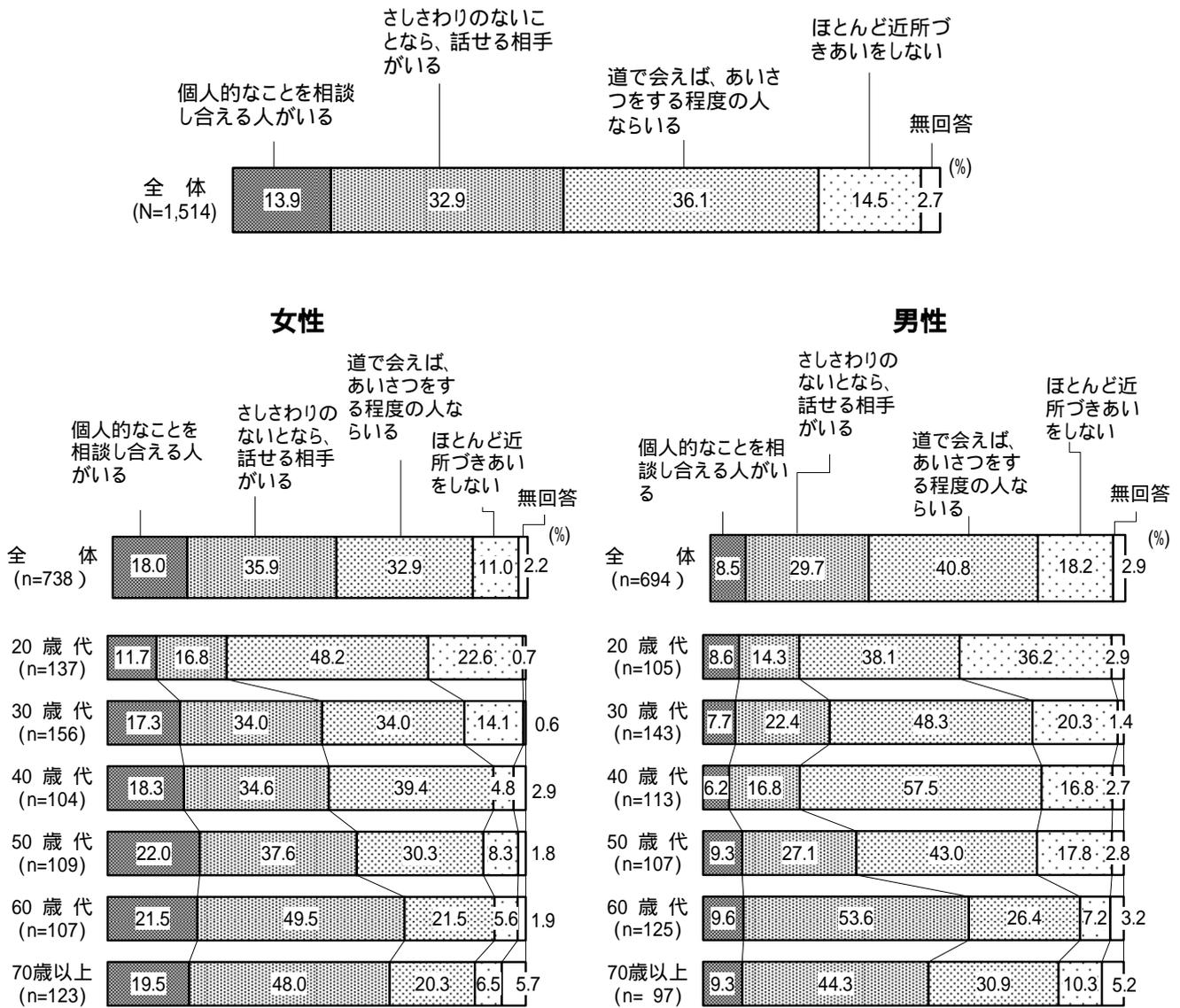


図表 1 - 4 - 1 - 近所づきあいの程度（全体、地域別）



前回調査では、「ほとんど近所づきあいをしない」が20歳代男性で36.2%、20歳代女性で22.6%である。「個人的なことを相談し合える人がある」は50歳代、60歳代の女性で20%を超えている。前回に比べ、地域との係わりが弱くなっていると見ることができる（図表1-4-1-1）。

図表1-4-1-1 近所づきあいの程度（全体、性・年代別）【平成14年度調査】



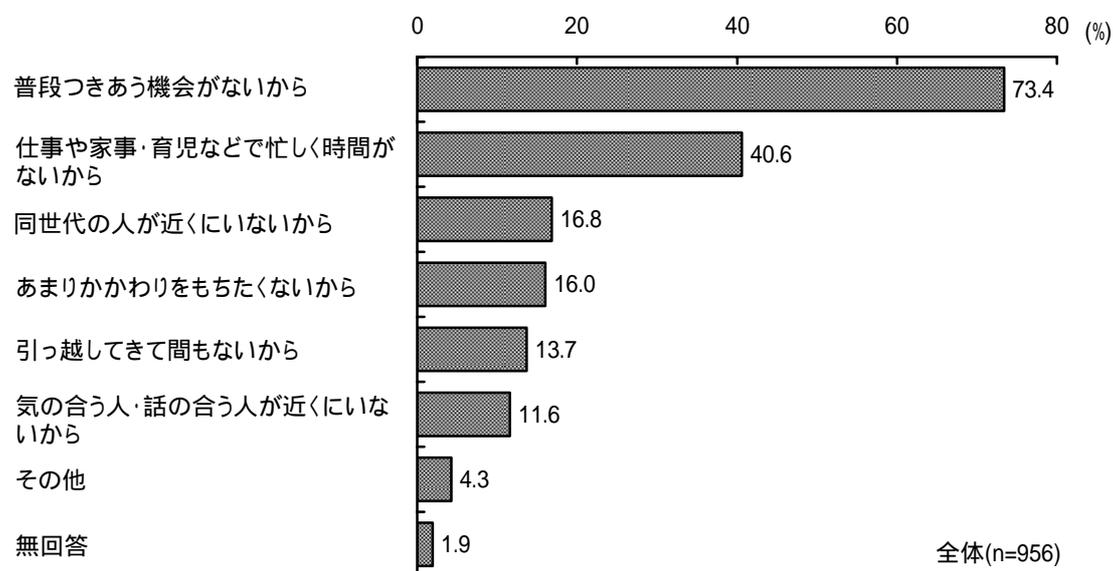
近所づきあいのない理由（問 12 - 1）

近所づきあいの程度で、「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」または「ほとんど近所づきあいをしない」と答えた人に、つきあいのない理由をたずねた。つきあいのない理由は、「普段つきあう機会がないから（73.4%）」が最も多く、「仕事や家事・育児などで忙しく時間がないから（40.6%）」、「同世代の人が近くにいないから（16.8%）」が続いている（図表 1 - 4 - 2 - ）。

性・年代別にみると、男性の 30 歳代～50 歳代、女性の 30 歳代、40 歳代、60～64 歳で「仕事や家事・育児などで忙しく時間がないから」が 40% を超え、特に 60～64 歳の女性が 53.3% と最も多くなっている。また、男女共 20 歳代で「同世代の人が近くにいないから」が多く、特に女性では 36.2% と全体に比べ 19.4 ポイント上回っている。「気の合う人・話の合う人が近くにいないから」、「あまりかかわりを持ちたくないから」は、男女共年代が上がるにつれ多くなる傾向が見られ、60～64 歳の男性の「気の合う人・話の合う人が近くにいないから（22.4%）」、50 歳代の女性の「あまりかかわりを持ちたくないから（27.8%）」が他の性・年代に比べ多くなっている（図表 1 - 4 - 2 - ）。

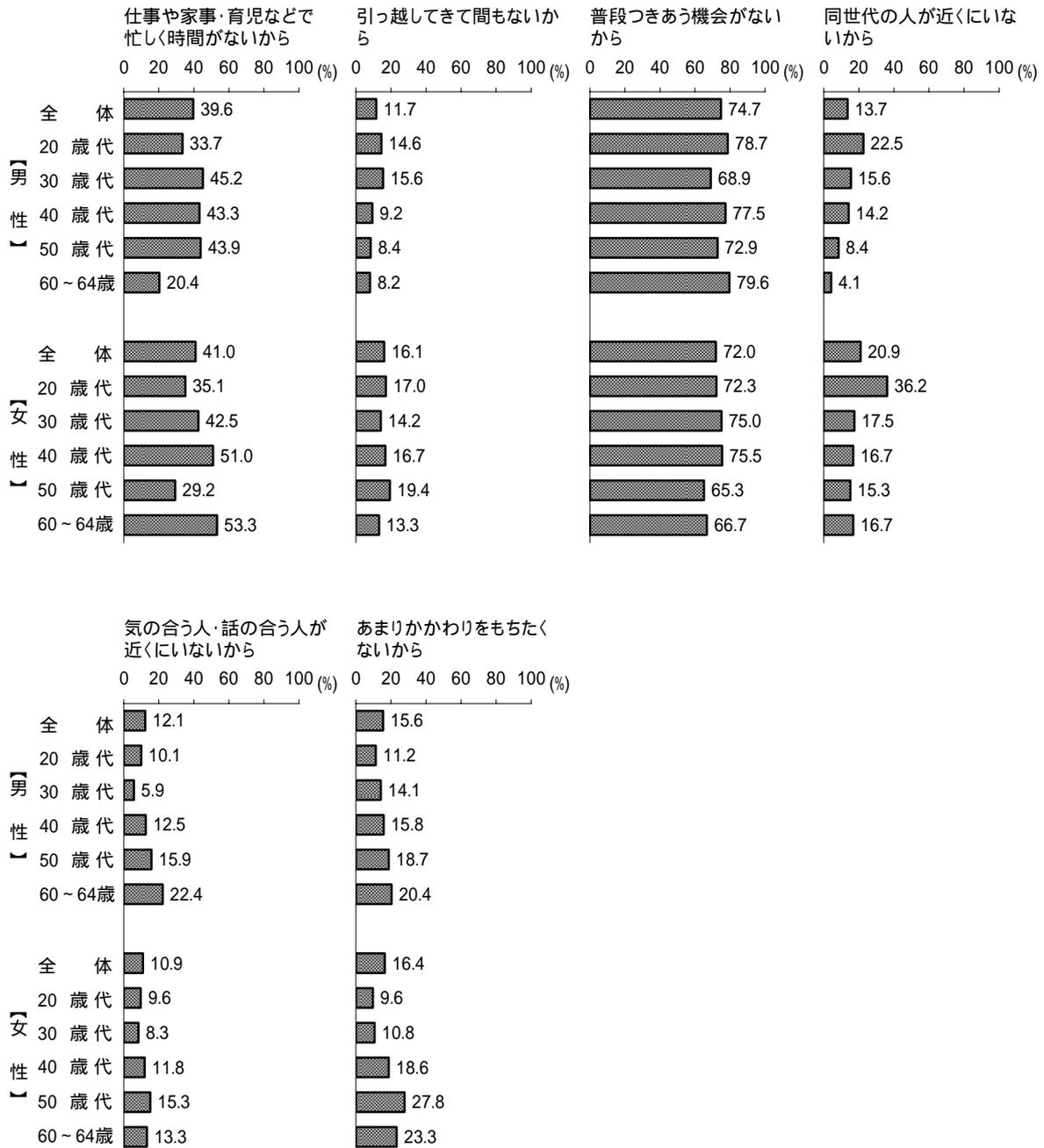
図表 1 - 4 - 2 - 近所づきあいのない理由

<近所づきあいの程度で、「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」または「ほとんど近所づきあいをしない」と答えた人>（全体：複数回答（3つまで））



図表1 - 4 - 2 - 近所づきあいのない理由

<近所づきあいの程度で、「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」または「ほとんど近所づきあいをしない」と答えた人> (性・年代別：複数回答(3つまで))

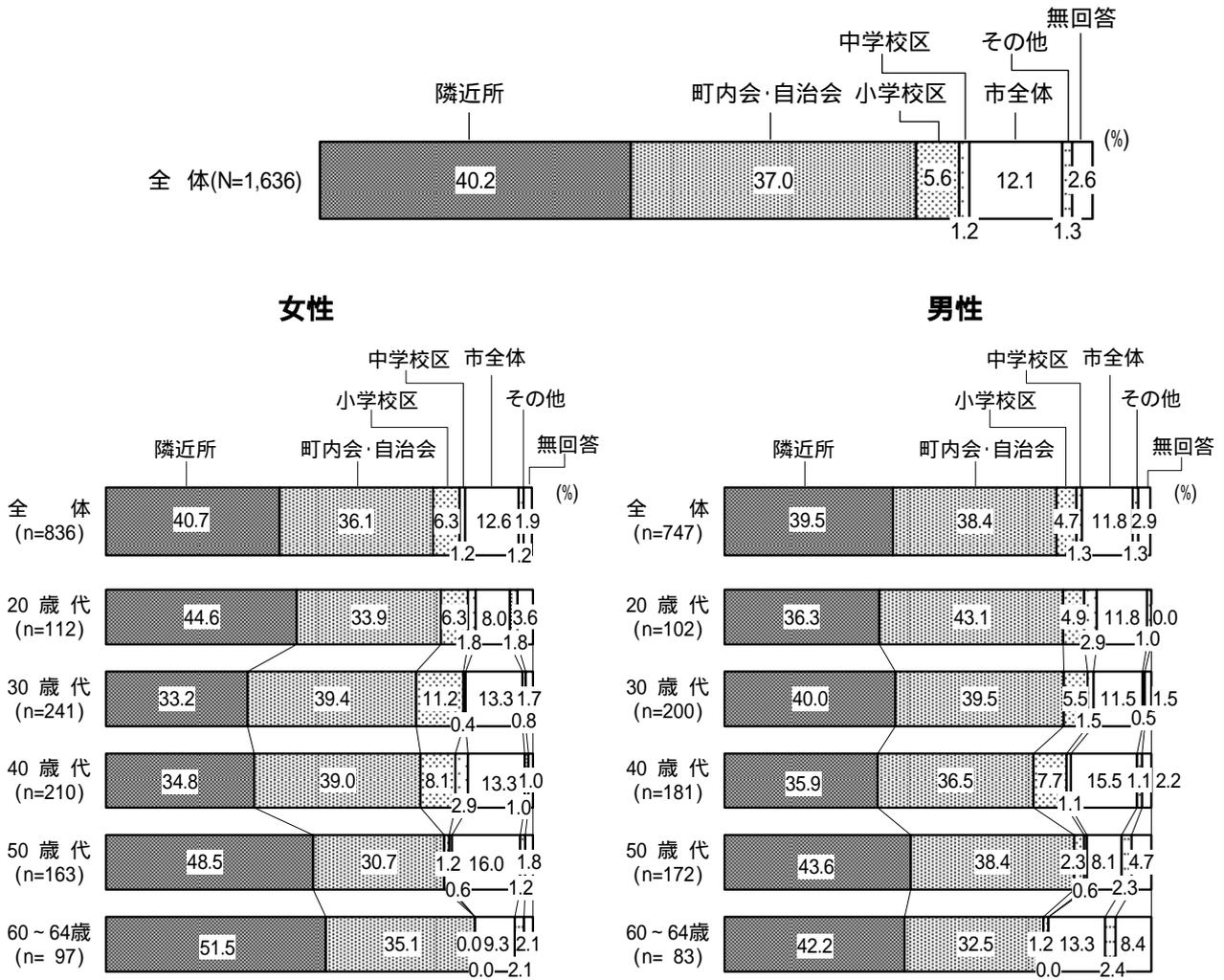


住民が助け合う「地域」と感じる範囲（問 13）

住民が助け合う「地域」と感じる範囲は、「隣近所（40.2%）」が最も多く、「町内会・自治会（37.0%）」、「市全体（12.1%）」が続いている。

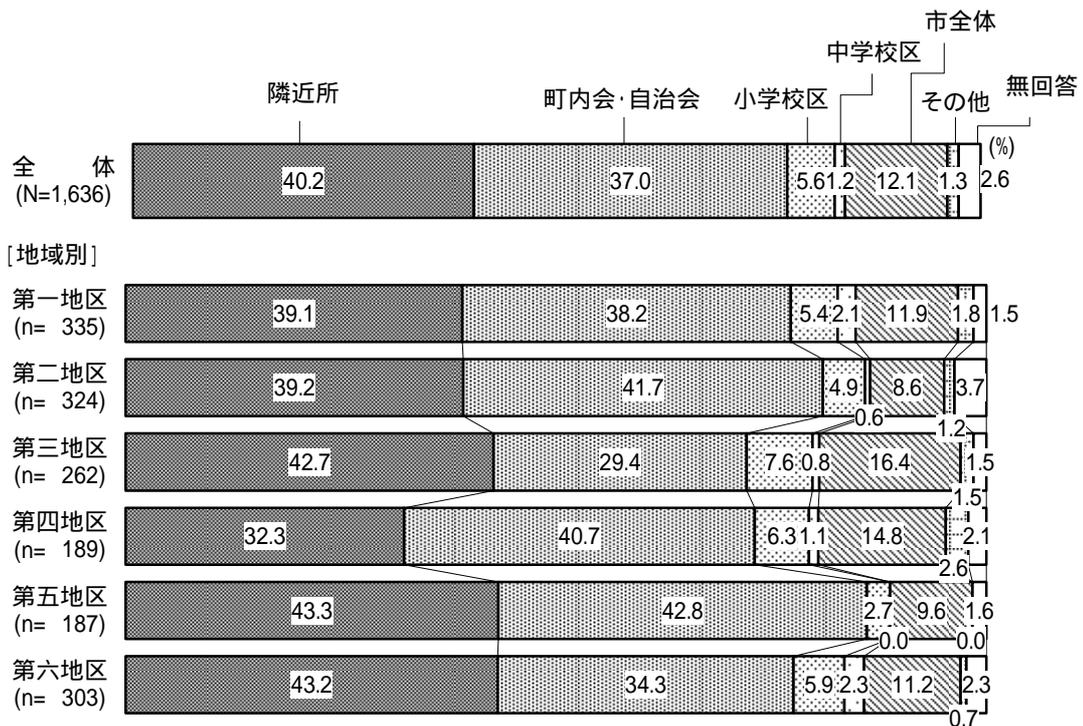
性・年代別にみると、男女共年代が上がるにつれ「隣近所」の割合が高くなる傾向がみられ、特に50歳以上の女性は約半数を占めている（図表1-4-3- ）。

図表1-4-3- 住民が助け合う「地域」と感じる範囲（全体、性・年代別）



地域別にみると、第五地区と第六地区では「隣近所（第五地区 43.3%、第六地区 43.2%）」の割合が比較的高く、第五地区では「町内会・自治会（42.8%）」の割合も高くなっている。また、第二地区では「町内会・自治会（41.7%）」、第三地区では「市全体（16.4%）」という回答が多くなっている（図表1-4-3- ）。

図表1-4-3- 住民が助け合う「地域」と感じる範囲（全体、地域別）



建築物・公共交通機関等・情報のバリアフリー化の状況（問 14）

府中市内の建築物・公共交通機関等・情報のバリアフリー化の整備の状況について、11項目にわたり5段階（「整備されている」～「整備の必要を感じない」）でたずねた。

「整備されている」と「やや整備されている」の合計が最も多いのは、「公共施設や病院等のスロープ、エレベーターやエスカレーター（74.3%）」で、「車いすの方やだれもが安全に通れる建物の出入口や通路（57.3%）」、「車いすやベビーカーで乗降しやすい超低床バスやリフト付バス（56.5%）」が続いている（図表1-4-4- ）。

一方、「整備されていない」と「あまり整備されていない」の合計が最も多かったのは「補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストランなど（74.5%）」で、「手話のできる職員が配置されていたり、音声ガイドがある施設（71.4%）」、「歩きやすいように、障害物（商品や看板、放置自転車、電柱等）が取り除かれた歩道や道路（62.0%）」が続いている（図表1-4-4- ）。

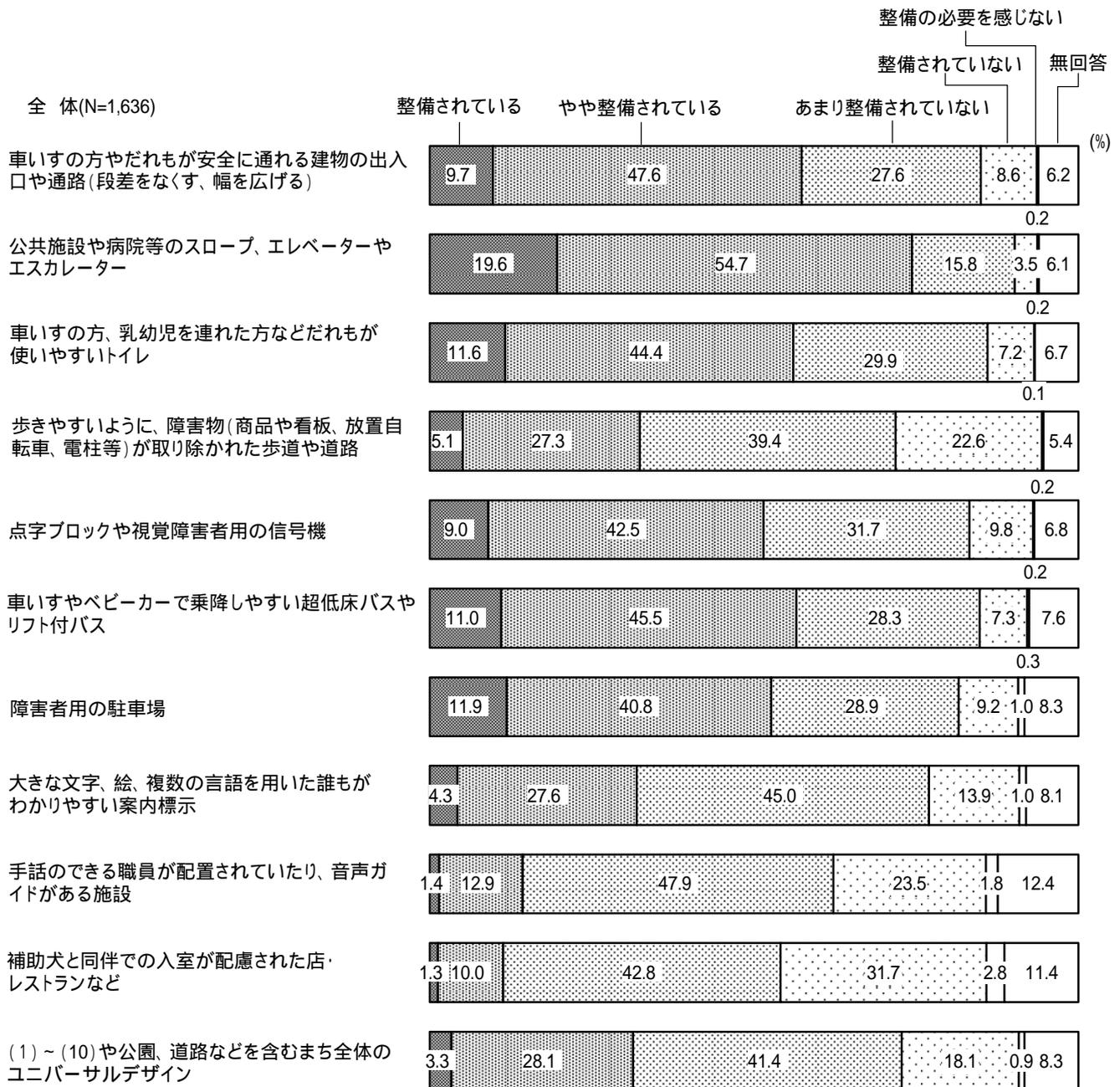
「整備されている」と「やや整備されている」の合計が最も多い「公共施設や病院等のスロープ、エレベーターやエスカレーター」について性・年代別にみると、「整備されている」と「やや整備されている」の合計は、年代が上がるほど女性の方が同じ年代の男性を上回っているが、「整備されている」だけをみると男性ではどの年代もが女性を上回っている（図表1-4-4- ）。

一方、「整備されている」と「やや整備されている」の合計が最も少ない「補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストランなど」では、男女共年代が上がるほど「整備されている」と「やや整備されている」の合計が少なくなる傾向が見られるが、男女共20歳代から50歳代で「あまり整備されていない」、「整備されていない」の合計が7割を超えている（図表1-4-4- ）

図表1-4-4- 建築物・公共交通機関等・情報のバリアフリー化の状況
（全体、「整備されている」、「やや整備されている」の合計）

（単位：％）	整備され	やや整備	合計
	ている	されている	
(1) . 車いすの方やだれもが安全に通れる建物の出入口や通路	9.7	47.6	57.3
(2) . 公共施設や病院等のスロープ、エレベーターやエスカレーター	19.6	54.7	74.3
(3) . 車いすの方、乳幼児を連れての方などだれもが使いやすいトイレ	11.6	44.4	56.0
(4) . 歩きやすいように、障害物が取り除かれた歩道や道路	5.1	27.3	32.4
(5) . 点字ブロックや視覚障害者用の信号機	9.0	42.5	51.5
(6) . 車いすやベビーカーで乗降しやすい超低床バスやリフト付バス	11.0	45.5	56.5
(7) . 障害者用の駐車場	11.9	40.8	52.7
(8) . 大きな文字、絵、複数の言語を用いた誰もがわかりやすい案内標示	4.3	27.6	31.9
(9) . 手話のできる職員が配置されていたり、音声ガイドがある施設	1.4	12.9	14.3
(10) . 補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストランなど	1.3	10.0	11.3
(11) . (1)～(10)や公園、道路などを含むまち全体のユニバーサルデザイン	3.3	28.1	31.4

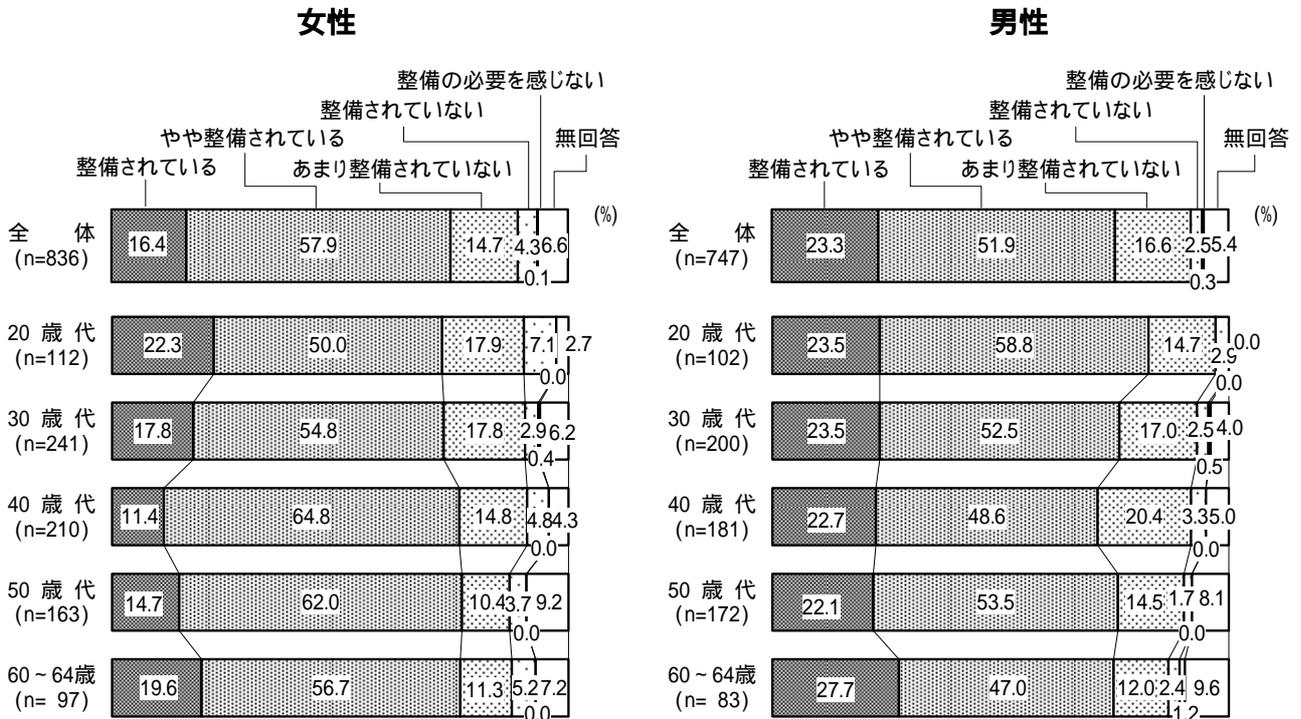
図表1-4-4 建築物・公共交通機関等・情報のバリアフリー化の状況（全体）



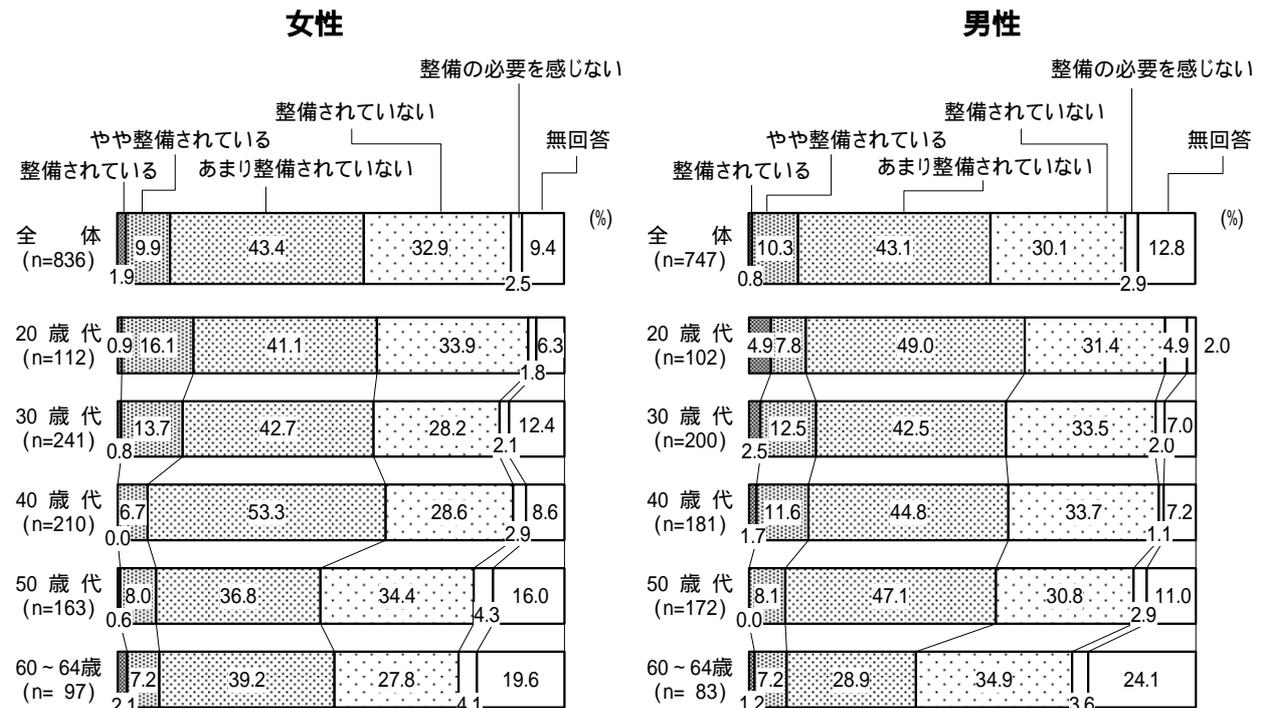
ユニバーサルデザイン

道路・住宅・製品などを設計製造する場合に、障害のある人用という区分けをなくし、だれでもが使えるものを作るという考え方

図表 1 - 4 - 4 - 建築物・公共交通機関等・情報のバリアフリー化の状況
「公共施設や病院等のスロープ、エレベーターやエスカレーター」(性・年代別)



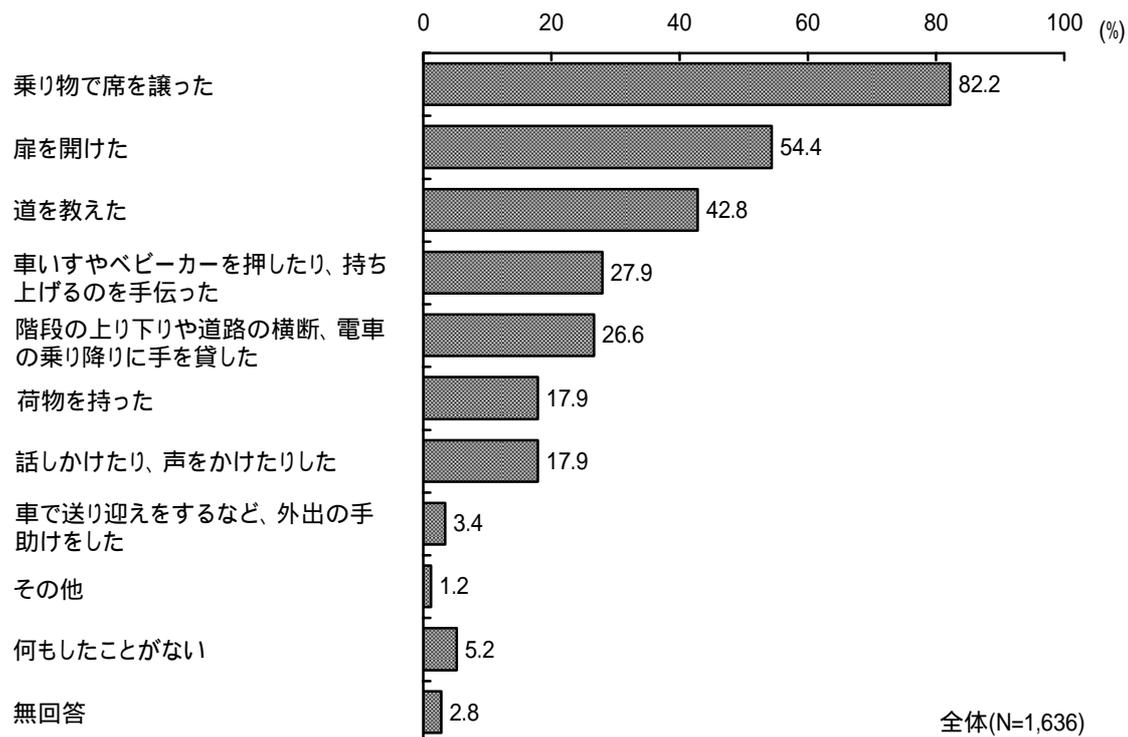
図表 1 - 4 - 4 - 建築物・公共交通機関等・情報のバリアフリー化の状況
「補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストランなど」(性・年代別)



外出先での手助けの経験（問 15）

外出先での手助けの経験は、「乗り物で席を譲った（82.2%）」が最も多く、「扉を開けた（54.4%）」、「道を教えた（42.8%）」が続いている（図表 1 - 4 - 5）。

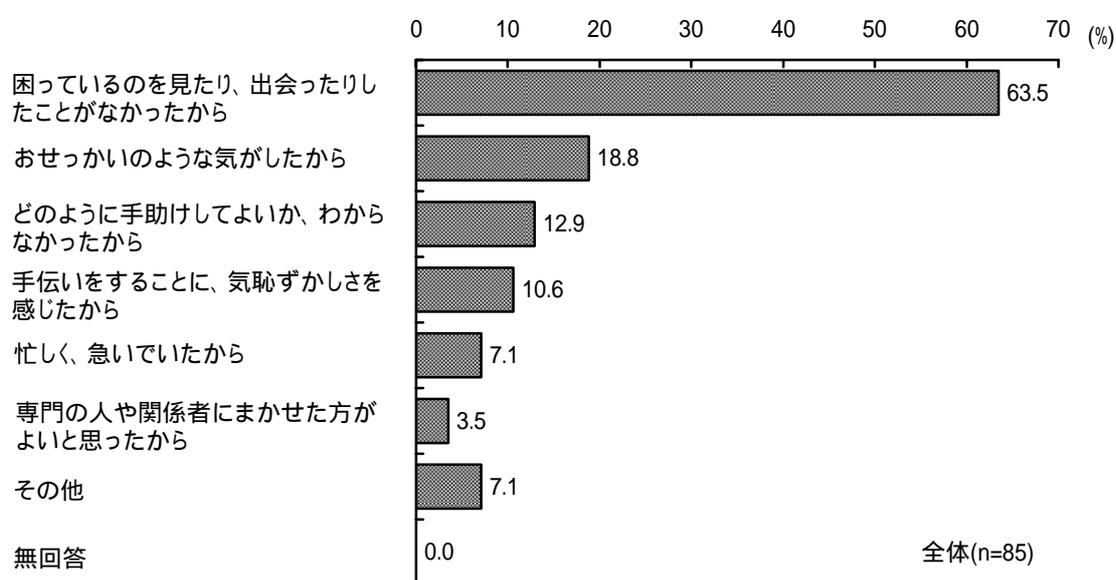
図表 1 - 4 - 5 外出先での手助けの経験（全体：複数回答）



手助けしなかった理由（問 15 - 1）

外出先での手助けの経験で、「何もしたことがない」と答えた人に、手助けしなかった理由をたずねた。手助けしなかった理由は、「困っているのを見たり、出会ったりしたことがなかったから（63.5%）」が最も多く、「おせっかいのような気がしたから（18.8%）」、「どのように手助けしてよいか、わからなかったから（12.9%）」が続いている（図表 1 - 4 - 6）。

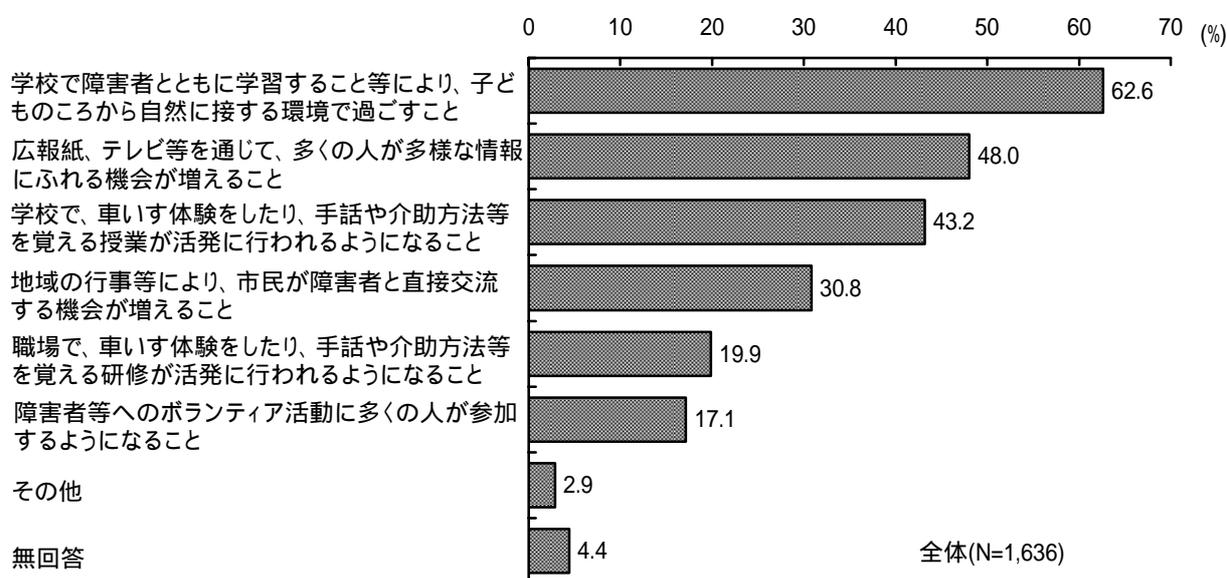
図表 1 - 4 - 6 手助けしなかった理由
 <外出先での手助けの経験で、「何もしたことがない」と答えた人>
 （全体：複数回答）



心のバリアフリーを進めるために必要なこと（問16）

心のバリアフリーを進めるために必要なことは、「学校で障害者とともに学習すること等により、子どものころから自然に接する環境で過ごすこと(62.6%)」が最も多く、「広報紙、テレビ等を通じて、多くの人が多様な情報にふれる機会が増えること(48.0%)」、「学校で、車いす体験をしたり、手話等を覚える授業が活発に行われるようになること(43.2%)」が続いている(図表1-4-7-)。

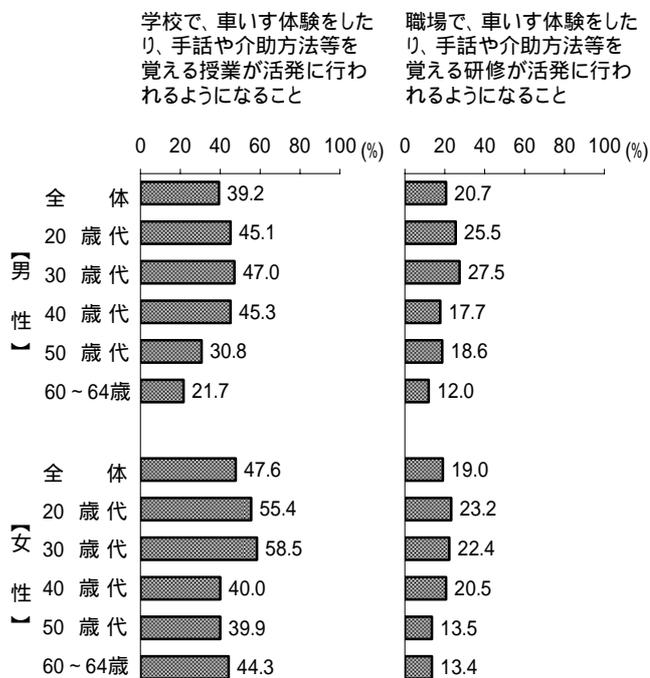
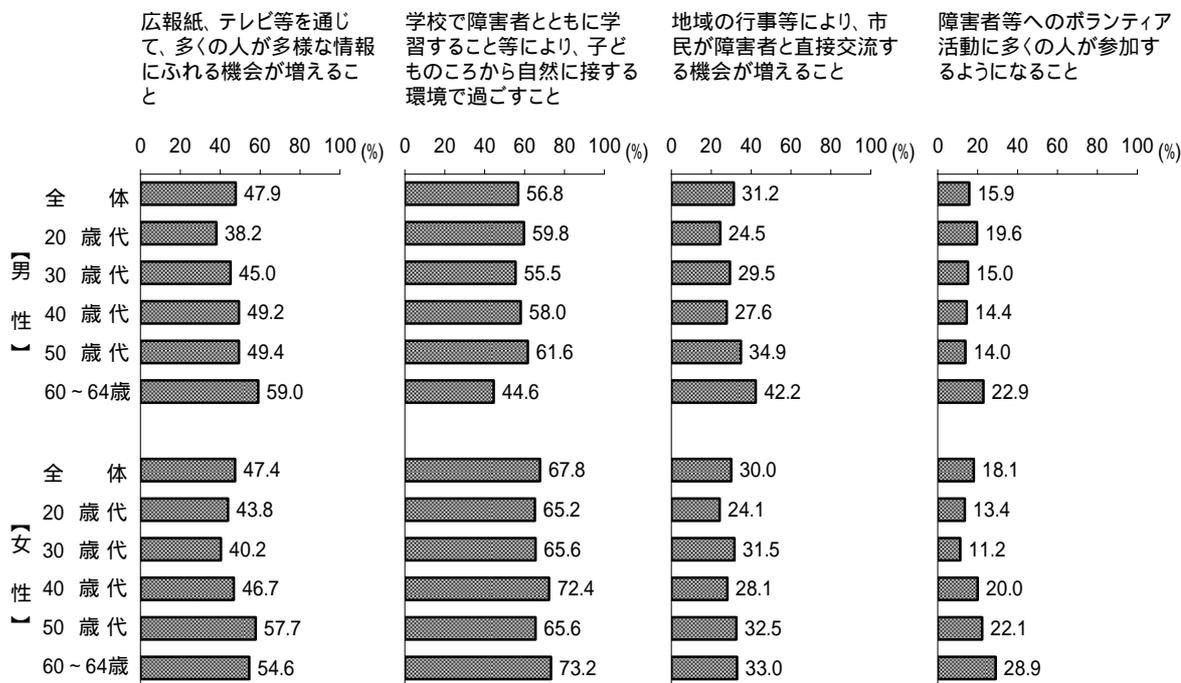
図表1-4-7- 心のバリアフリーを進めるために必要なこと
(全体：複数回答(3つまで))



バリアフリー

障害のある人が社会生活をしていくうえで妨げとなる障壁を除去するという意味で、建物や道路などの段差など、生活環境上の物理的障壁の除去のこと。
「心のバリアフリー」といった表現で、より広く社会参加を困難にしている社会的・制度的・心理的な全ての障壁の除去という意味でも用いる。

図表 1 - 4 - 7 - 心のバリアフリーを進めるために必要なこと
(性・年代別：複数回答(3つまで))



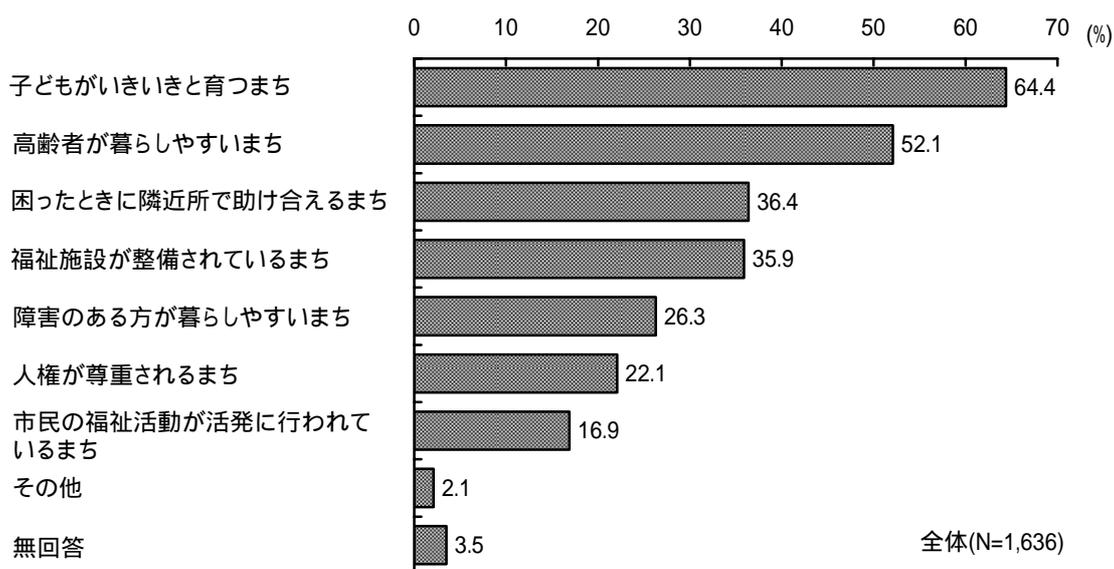
(5) 満足度

理想とする地域像 (問 17)

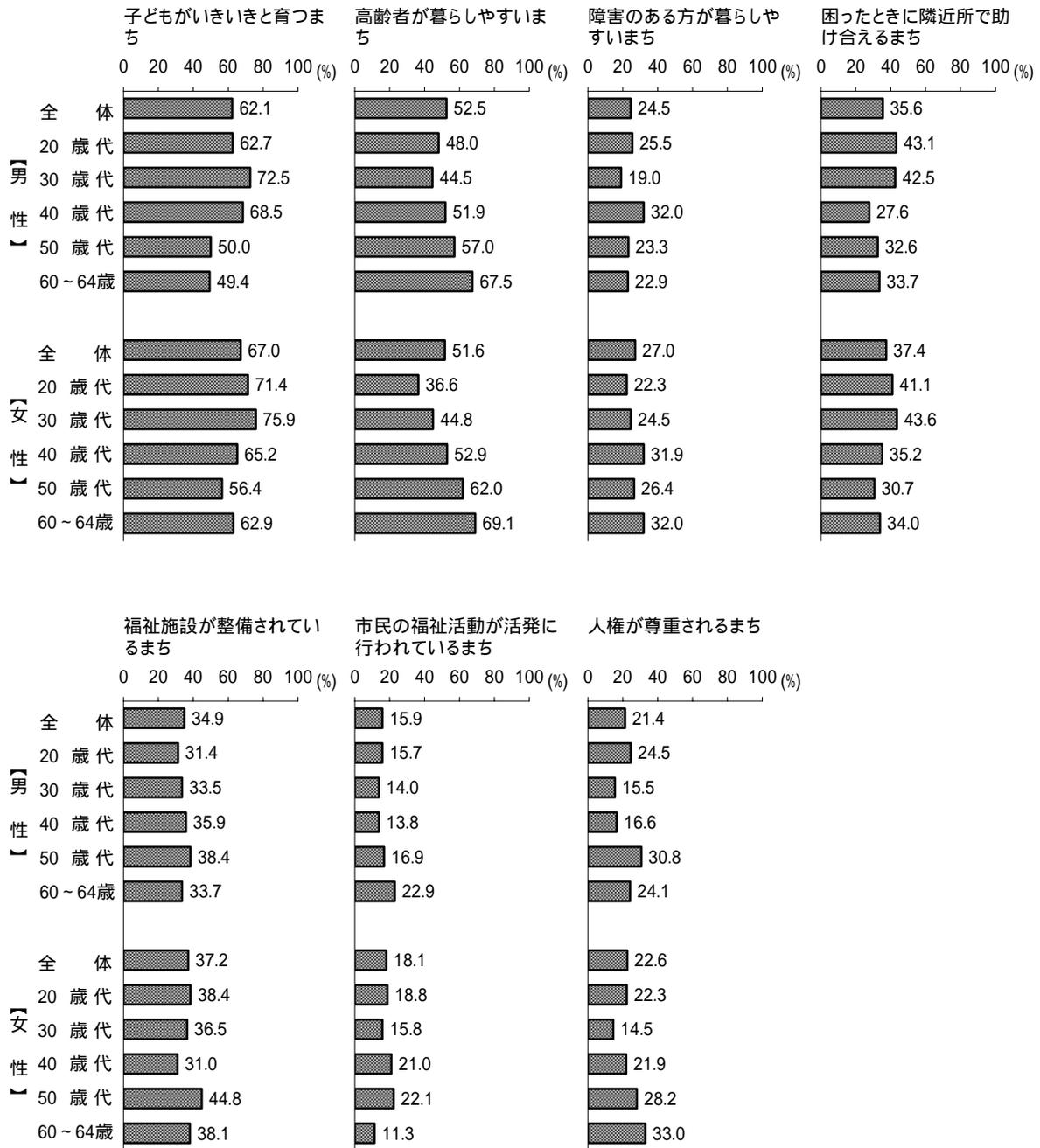
理想とする地域像は、「子どもがいきいきと育つまち(64.4%)」が最も多く、「高齢者が暮らしやすいまち(52.1%)」、「困ったときに隣近所で助け合えるまち(36.4%)」が続いている(図表1-5-1-)。

性・年代別にみると、「子どもがいきいきと育つまち」は男女共30歳代が最も多く、子育て世代を中心に理想とする地域像となっていることがわかる。また、「高齢者が暮らしやすいまち」は男女共年代が上がるにつれ多くなる傾向が見られ、女性の方がその差が大きい。最も少ない20歳代女性(36.6%)と最も多い60~64歳女性(69.1%)の差は32.5ポイントと顕著である(図表1-5-1-)。

図表1-5-1- 理想とする地域像 (全体：複数回答(3つまで))



図表 1 - 5 - 1 - 理想とする地域像（性・年代別：複数回答（3つまで））



地域の暮らしの満足度（問 18）

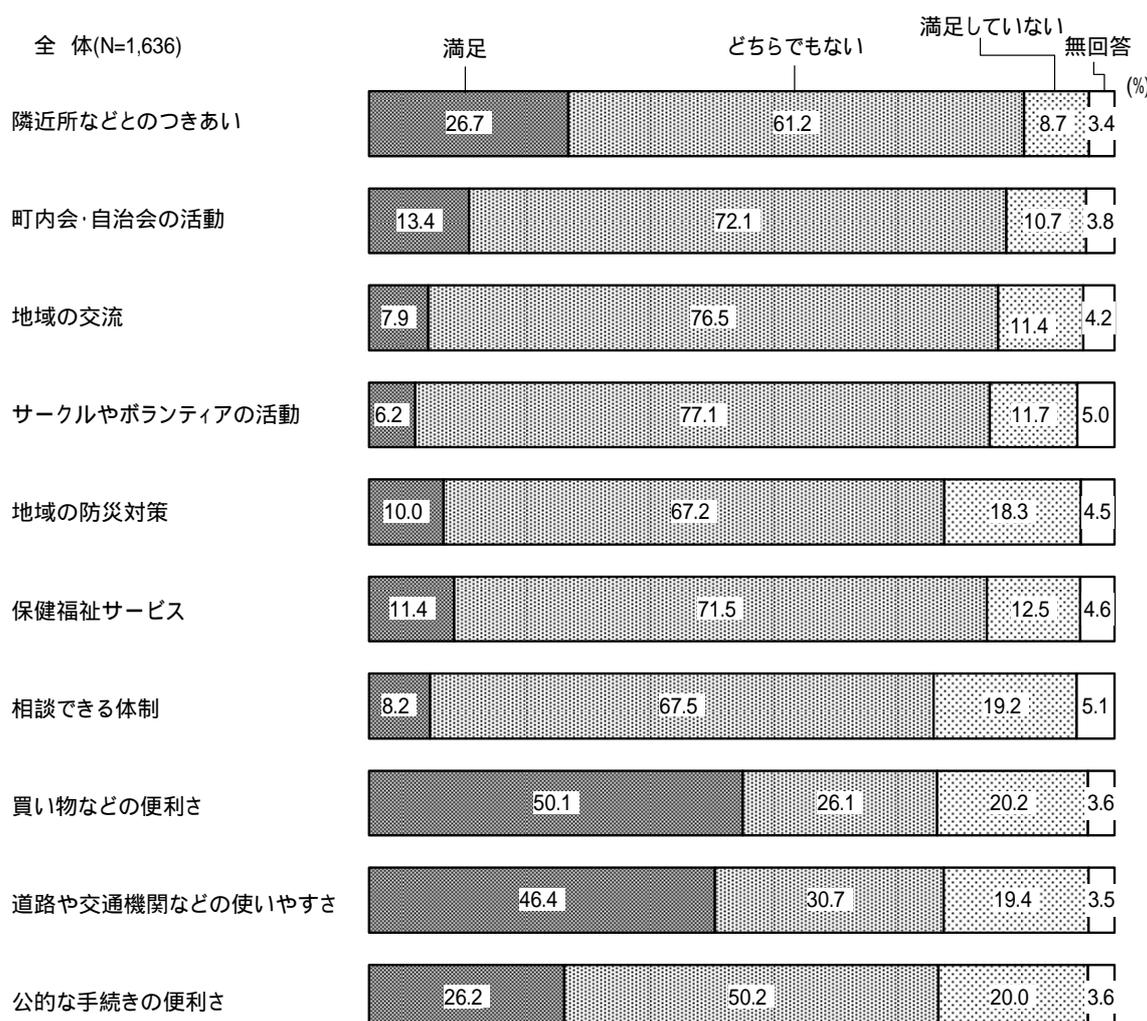
地域の暮らしについて 10 項目の満足度を「満足」、「どちらでもない」、「満足していない」の 3 段階でたずねた。

「満足」の回答が最も多かった項目は、「買い物などの便利さ（50.1%）」で、「道路や交通機関などの使いやすさ（46.4%）」、「隣近所などとのつきあい（26.7%）」が続いている。一方、「満足」の回答が最も少なかった項目は、「サークルやボランティア活動（6.2%）」で、「地域の交流（7.9%）」、「相談できる体制（8.2%）」が続いている（図表 1 - 5 - 2 - ）。

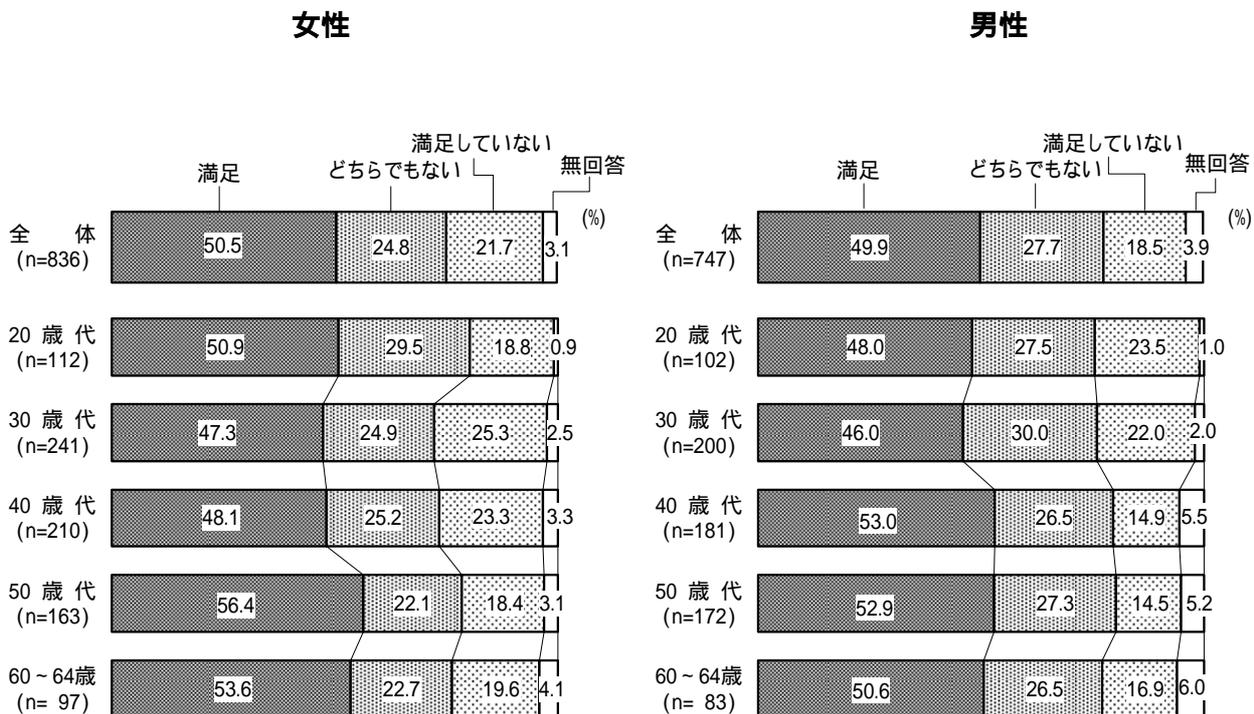
最も満足度が高い「買い物などの便利さ」について性・年代別にみると、男女共年代が上がるほど「満足」の回答も多くなっており、50 歳代以上の女性、40 歳代以上の男性の 50% 以上が「満足」と回答している（図表 1 - 5 - 2 - ）。

一方、「満足」との回答が最も少ない「サークルやボランティア活動」について性・年代別にみると、30 歳代から 50 歳代では女性より男性で「満足」との回答が少なくなっている（図表 1 - 5 - 2 - ）。

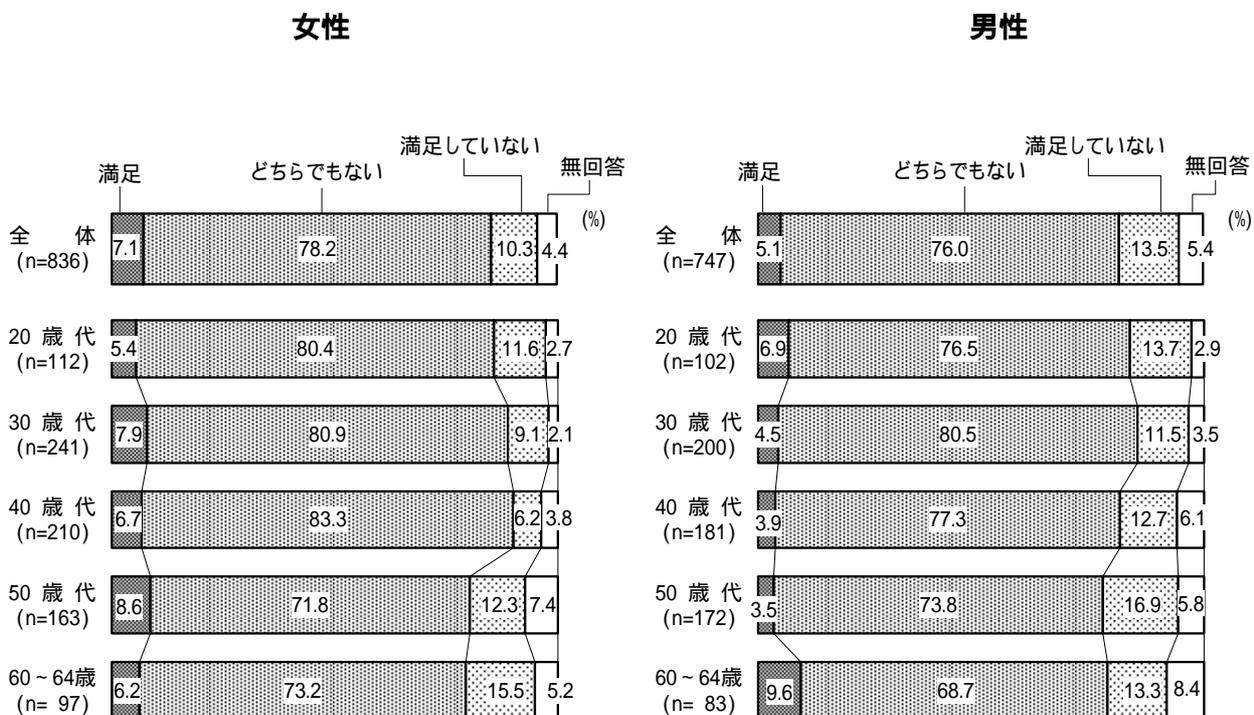
図表 1 - 5 - 2 - 地域の暮らしの満足度（全体）



図表 1 - 5 - 2 - 地域の暮らしの満足度「買い物などの便利さ」(性・年代別)



図表 1 - 5 - 2 - 地域の暮らしの満足度「サークルやボランティア活動」(性・年代別)



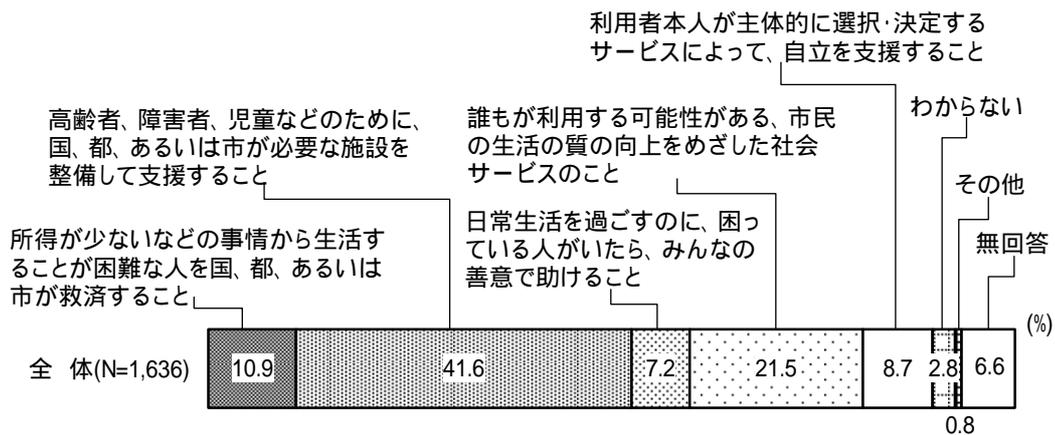
(6) 福祉に対する考え方

「福祉」に対する考え方(問19)

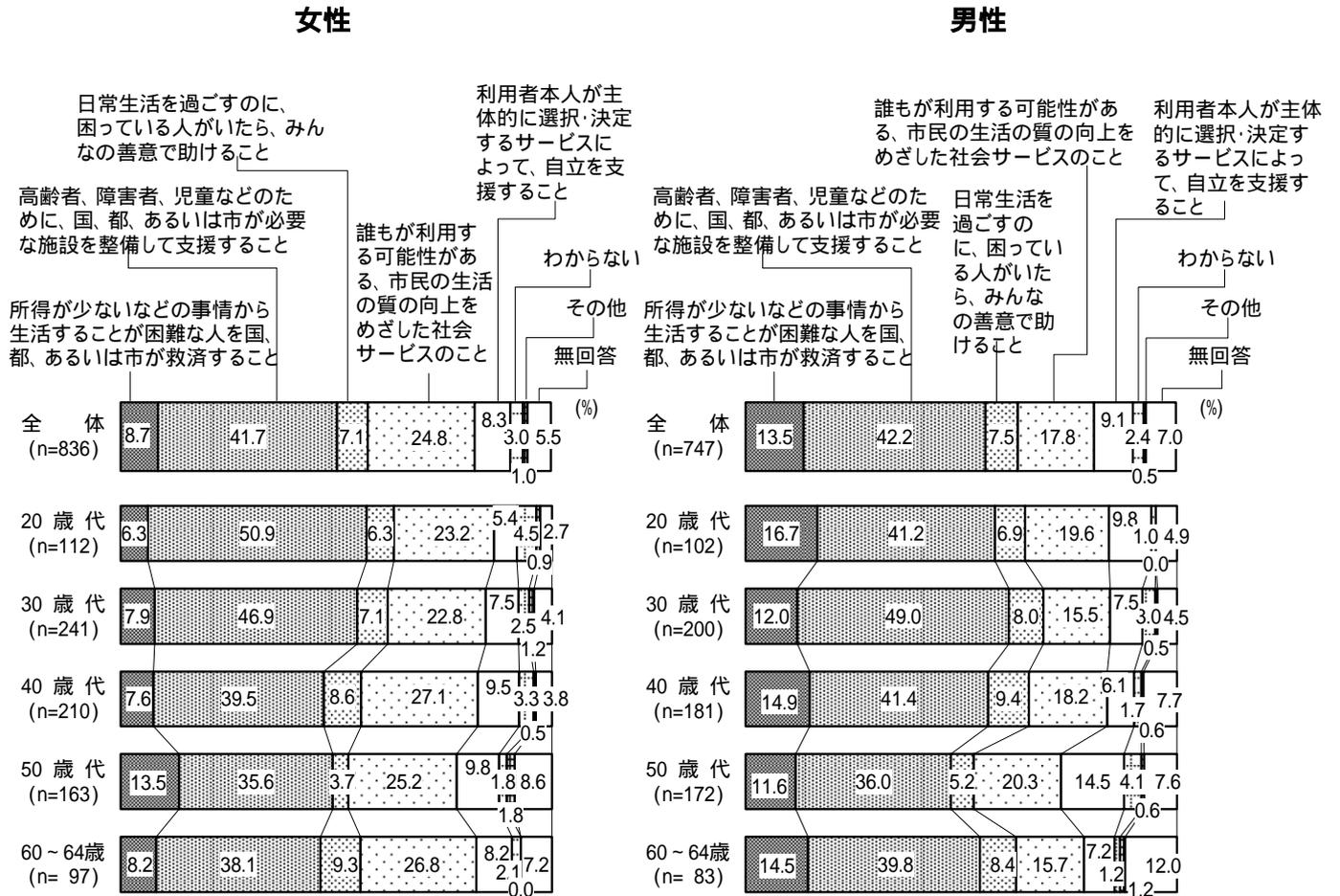
「福祉」に対する考え方は、「高齢者、障害者、児童などのために、国、都、あるいは市が施設を整備して支援すること(41.6%)」が最も多く、「誰もが利用する可能性がある、市民の生活の質の向上をめざした社会サービスのこと(21.5%)」、「所得が少ないなどの事情から生活することが困難な人を国、都、市が救済すること(10.9%)」が続いている(図表1-6-1-)。

性・年代別にみると、男女共どの年代も「高齢者、障害者、児童などのために、国、都、あるいは市が施設を整備して支援すること」が最も多いが、年代が上がるほどその割合は少なくなる傾向がみられる(図表1-6-1-)。

図表1-6-1- 「福祉」に対する考え方(全体)



図表 1 - 6 - 1 - 「福祉」に対する考え方（性・年代別）



ソーシャルインクルージョンの考え方（問20）

ソーシャルインクルージョンについての考え方を7つの項目について「そう思う」～「全く思わない」の5段階でたずねた。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が最も多かったのは、「障害のある人となない人が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である（84.6%）」で、「児童や高齢者の虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である（78.9%）」、「ひとり親家庭の自立を支援するために、地域でのつながりが重要である（64.4%）」が続いている（図表1-6-2-
- ）。

一方、「全く思わない」、「あまり思わない」の合計が最も多かったのは、「ひきこもりやニートは、本人だけでなく、社会全体の問題だと感じる（29.5%）」で、「生活保護受給者に対する偏見や差別があると感じる（26.0%）」、「ホームレスの問題は、本人だけでなく、社会全体の問題と感じる（21.7%）」が続いている（図表1-6-2-
- ）。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が最も多い「障害のある人となない人が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である」について性・年代別にみると、男性は年代による大きな違いはないが、女性では20歳代、40歳代で「そう思う」が60%を超えている（図表1-6-2-
- ）。

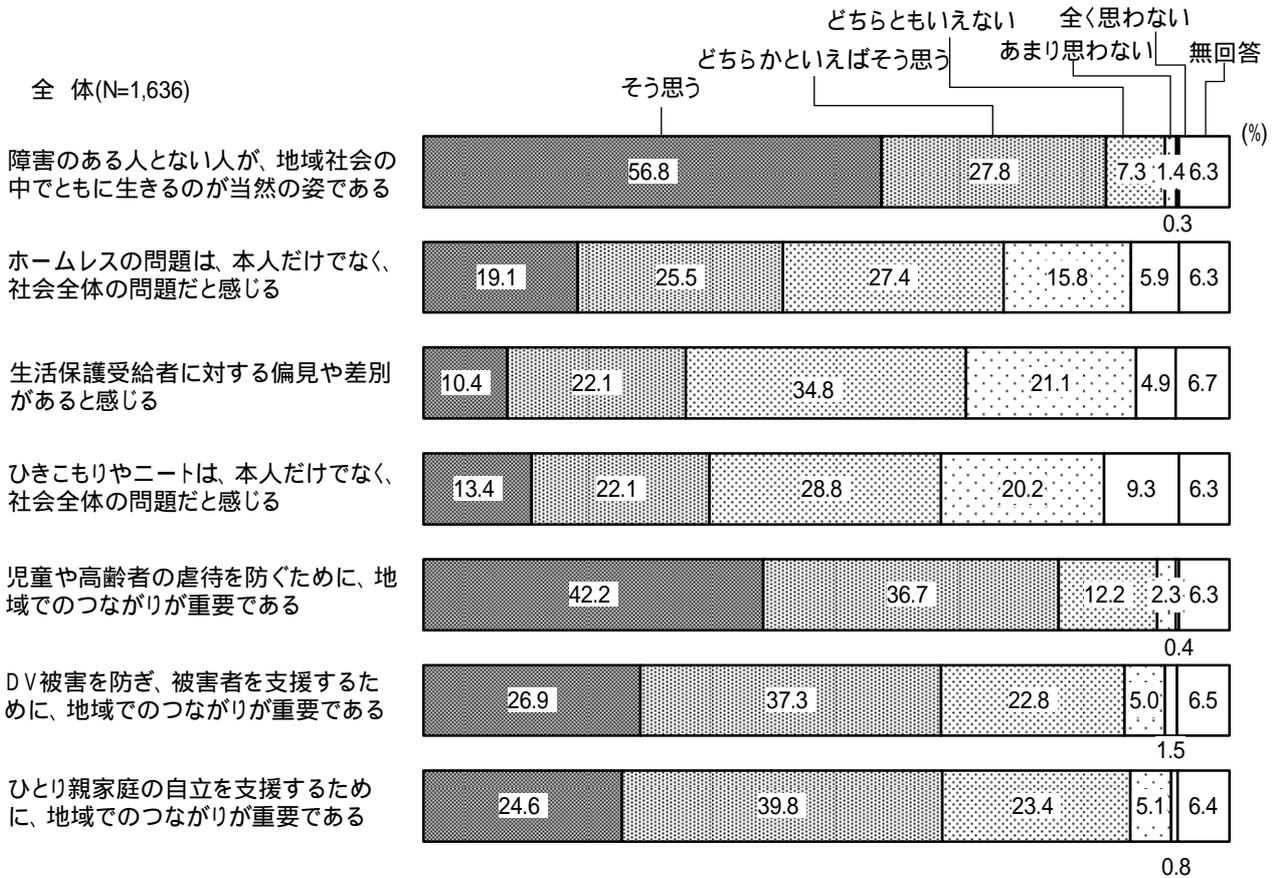
図表1-6-2- ソーシャルインクルージョンの考え方
（「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計）（全体）

	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	合 計
（単位：％）			
(1) . 障害のある人となない人が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である	56.8	27.8	84.6
(2) . ホームレスの問題は、本人だけでなく、社会全体の問題だと感じる	19.1	25.5	44.6
(3) . 生活保護受給者に対する偏見や差別があると感じる	10.4	22.1	32.5
(4) . ひきこもりやニートは、本人だけでなく、社会全体の問題だと感じる	13.4	22.1	35.5
(5) . 児童や高齢者の虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である	42.2	36.7	78.9
(6) . DV被害を防ぎ、被害者を支援するために、地域でのつながりが重要である	26.9	37.3	64.2
(7) . ひとり親家庭の自立を支援するために、地域でのつながりが重要である	24.6	39.8	64.4

DV（ドメスティック・バイオレンス）

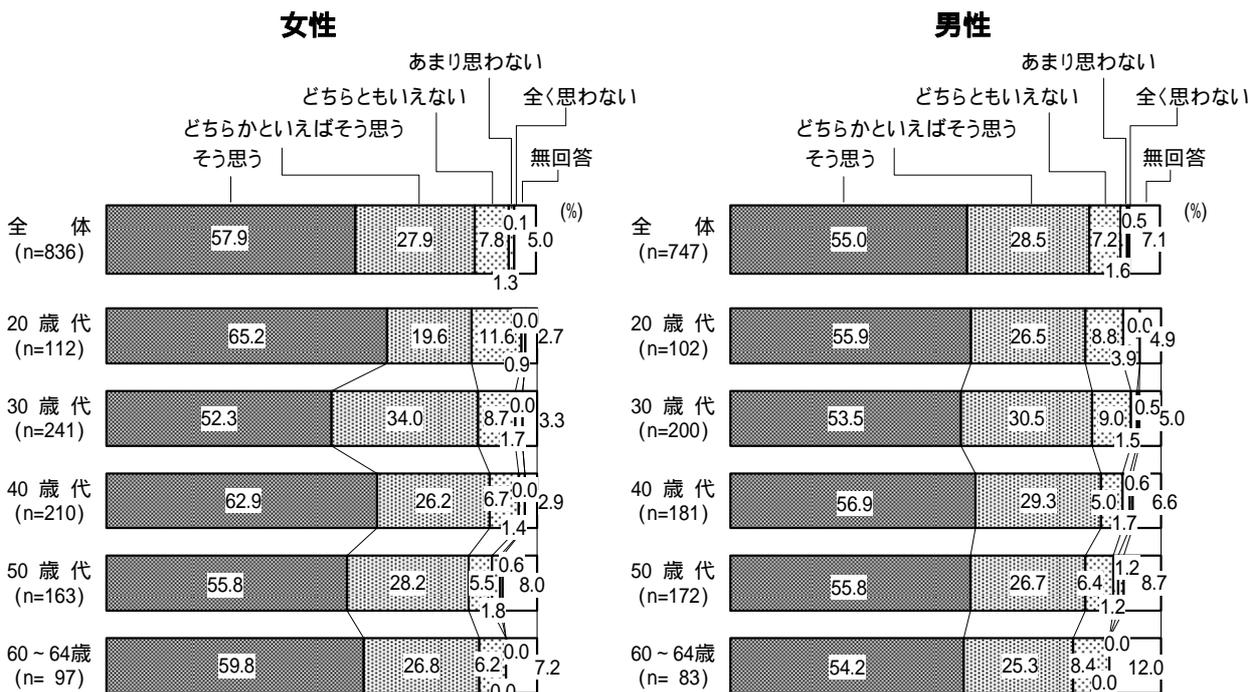
夫や恋人など親密な関係にある（またはあった）男性から女性に対して振るわれる暴力。身体的な暴力だけでなく、精神的、経済的、性的な暴力などあらゆる暴力が含まれる。

図表 1 - 6 - 2 - ソーシャルインクルージョンの考え方 (全体)



図表 1 - 6 - 2 - ソーシャルインクルージョンの考え方

「障害のある人とない人が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である」(性・年代別)



(7) 施策の方向

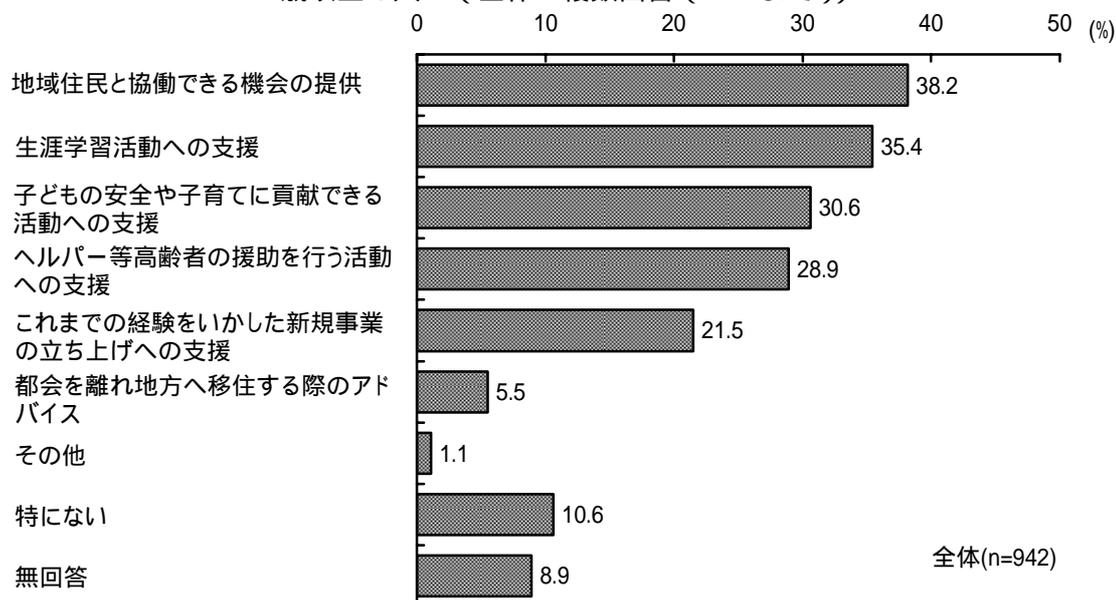
定年退職後の地域活動支援への要望（問21）

40歳以上の人に、定年退職後の地域活動支援への要望をたずねた。定年退職後の地域活動支援への要望は、「地域住民と協働できる機会の提供（38.2%）」が最も多く、「生涯学習活動への支援（35.4%）」、「子どもの安全や子育てに貢献できる活動への支援（30.6%）」が続いている（図表1-7-1-）。

性・年代別にみると、男性では40歳代で「生涯学習活動への支援（38.1%）」が1位にあげられており、50歳代以上では「地域住民と協働できる機会の提供」が強く望まれていることがわかる。一方女性は、40歳代では「子どもの安全や子育てに貢献できる活動への支援」ほか、上位3つがそれぞれ39.5%と要望が多様であることがうかがえる。50歳代では「生涯学習活動への支援（35.6%）」、60～64歳では「地域住民と協働できる機会の提供（48.5%）」が強く求められている（図表1-7-1-）。

図表1-7-1- 定年退職後の地域活動支援への要望

<40歳以上の人>（全体：複数回答（3つまで））



図表 1 - 7 - 1 - 定年退職後の地域活動支援への要望

< 40 歳以上の人 > (性・年代別：複数回答 (3 つまで))

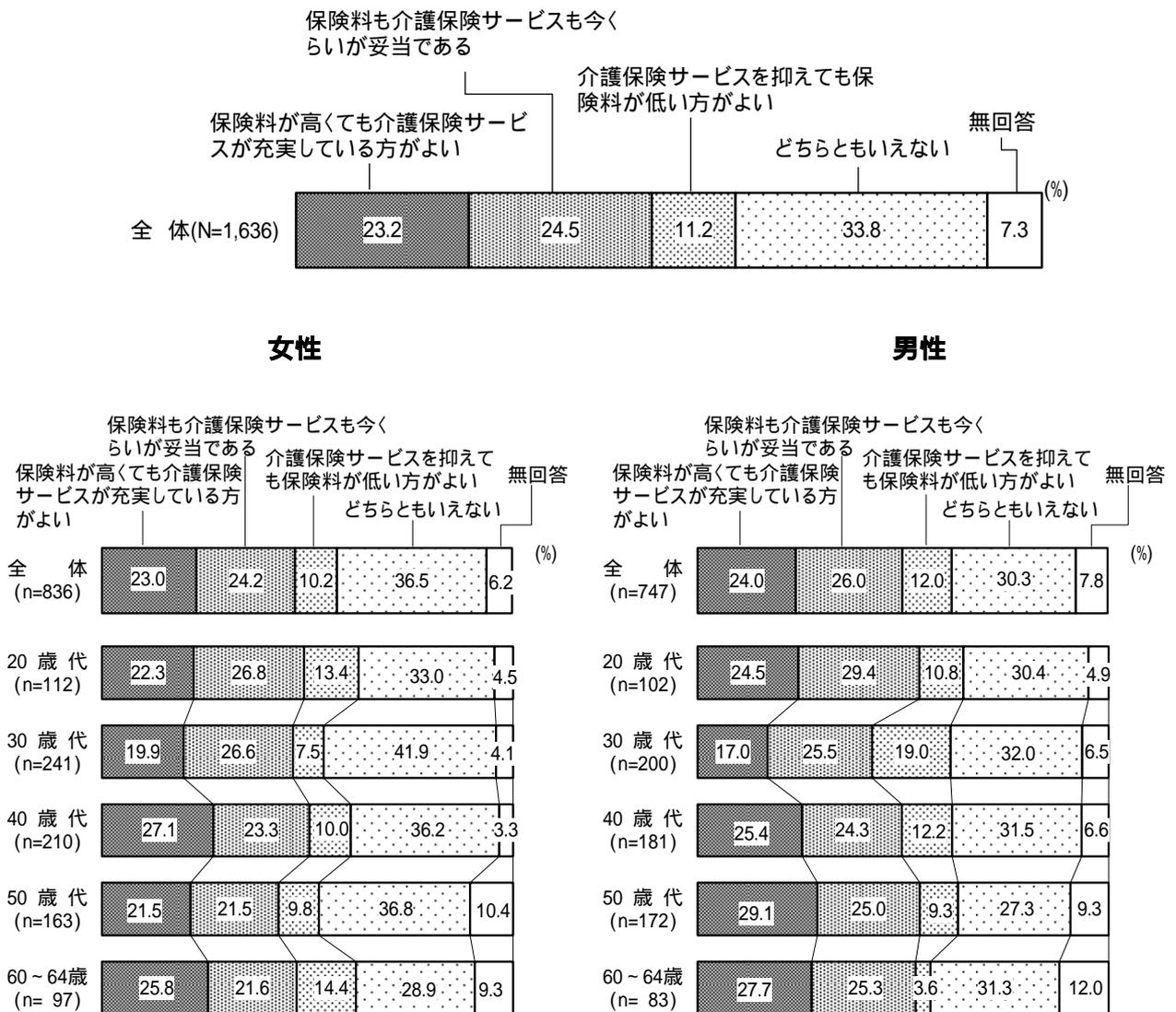
		1位	2位	3位
男性	全体 (n=444)	地域住民と協働できる機 会の提供 38.5	生涯学習活動への支援 36.0	子どもの安全や子育てに 貢献できる活動への支援 27.3
	40歳代 (n=181)	生涯学習活動への支援 38.1	子どもの安全や子育てに 貢献できる活動への支援 37.6	地域住民と協働できる機 会の提供 34.3
	50歳代 (n=172)	地域住民と協働できる機 会の提供 44.8	生涯学習活動への支援 36.6	これまでの経験をいかし た新規事業の立ち上げへ の支援 27.3
	60～64歳 (n= 83)	地域住民と協働できる機 会の提供 37.3	ヘルパー等高齢者の援助 を行う活動への支援 34.9	生涯学習活動への支援 28.9
女性	全体 (n=481)	地域住民と協働できる機 会の提供 38.5	生涯学習活動への支援 36.0	子どもの安全や子育てに 貢献できる活動への支援 33.5
	40歳代 (n=210)	子どもの安全や子育てに貢献できる活動への支援 / 地域住民と協働できる機会の提供 / ヘルパー等高齢者の援助を行う活動への支援 39.5		
	50歳代 (n=163)	生涯学習活動への支援 35.6	地域住民と協働できる機 会の提供 31.9	ヘルパー等高齢者の援助 を行う活動への支援 26.4
	60～64歳 (n= 97)	地域住民と協働できる機 会の提供 48.5	生涯学習活動への支援 39.2	子どもの安全や子育てに 貢献できる活動への支援 36.1

介護保険サービスと保険料についての考え方（問 22）

介護保険サービスと費用負担についての考え方は、「どちらともいえない（33.8%）」が最も多く、「保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である（24.5%）」、「保険料が多少高くても介護保険サービスが充実している方がよい（23.2%）」が続いている。

性・年代別にみると、男女共30歳代以上は年代が上がるほど「保険料が多少高くても介護保険サービスが充実している方がよい」が多くなる傾向が見られる。また、男性では年代が上がるほど「介護保険サービスを抑えても保険料が低いほうがよい」が少なくなる傾向がみられる（図表1-7-2）。

図表1-7-2 介護保険サービスと保険料についての考え方（全体、性・年代別）

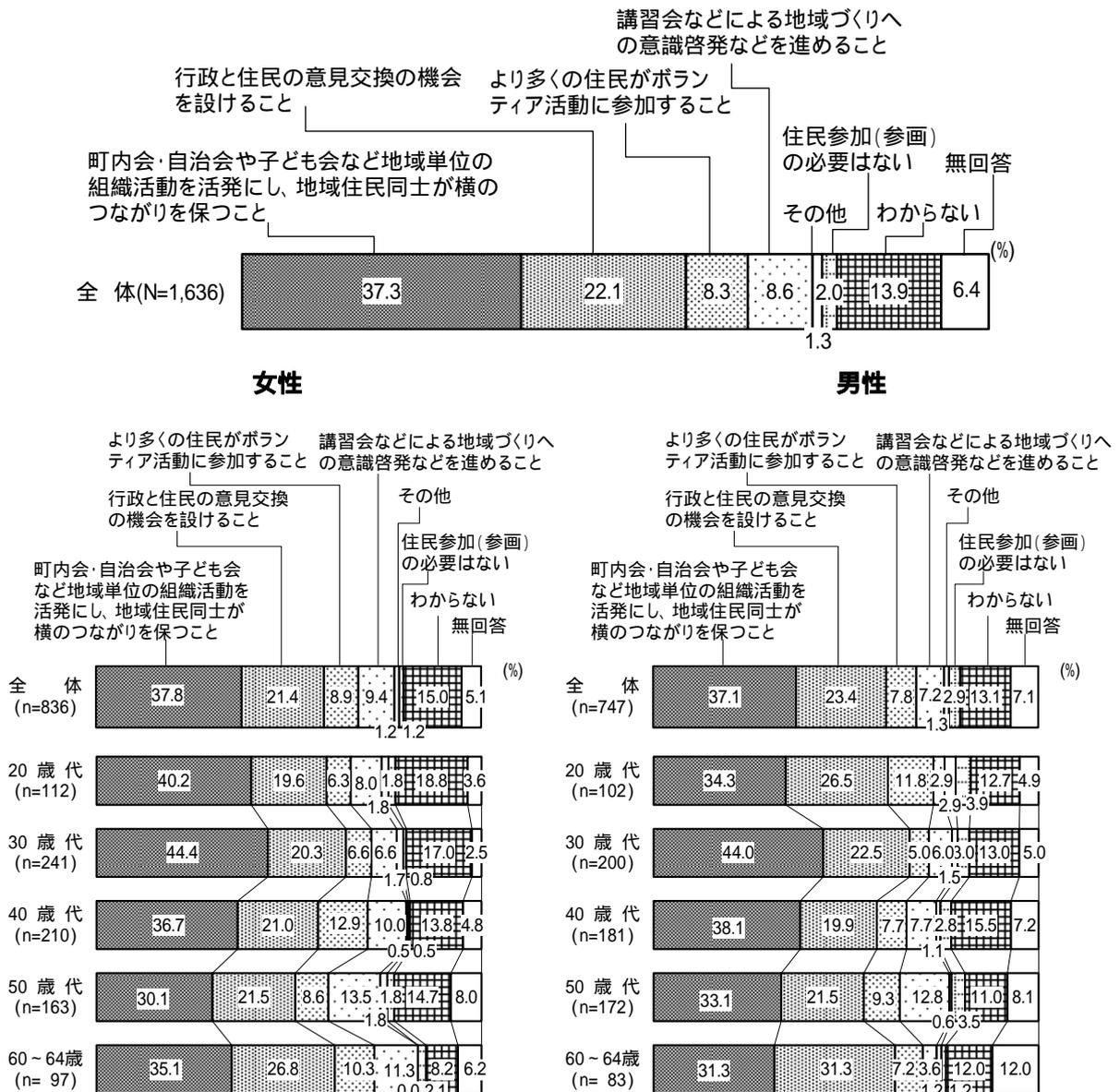


福祉を充実するための住民参加（参画）の方法（問 23）

福祉を充実するための住民参加（参画）の方法については、「町内会・自治会や子ども会など地域単位の組織活動を活発にし、地域住民同士が横のつながりを保つこと（37.3%）」が最も多く、「行政と住民の意見交換の機会を設けること（22.1%）」、「わからない（13.9%）」が続いている。

性・年代別にみると、男性では年代が上がるほど「行政と住民の意見交換の機会を設けること」が多くなる傾向がみられ、60～64歳では「町内会・自治会や子ども会など地域単位の組織活動を活発にし、地域住民同士が横のつながりを保つこと」とそれぞれ31.3%を占めて並んでいる。女性では30歳代で「町内会・自治会や子ども会など地域単位の組織活動を活発にし、地域住民同士が横のつながりを保つこと（44.4%）」が特に多くなっており、全体に比べ7.0ポイント上回っている（図表1-7-3）

図表1-7-3 福祉を充実するための住民参加（参画）の方法（全体、性・年代別）

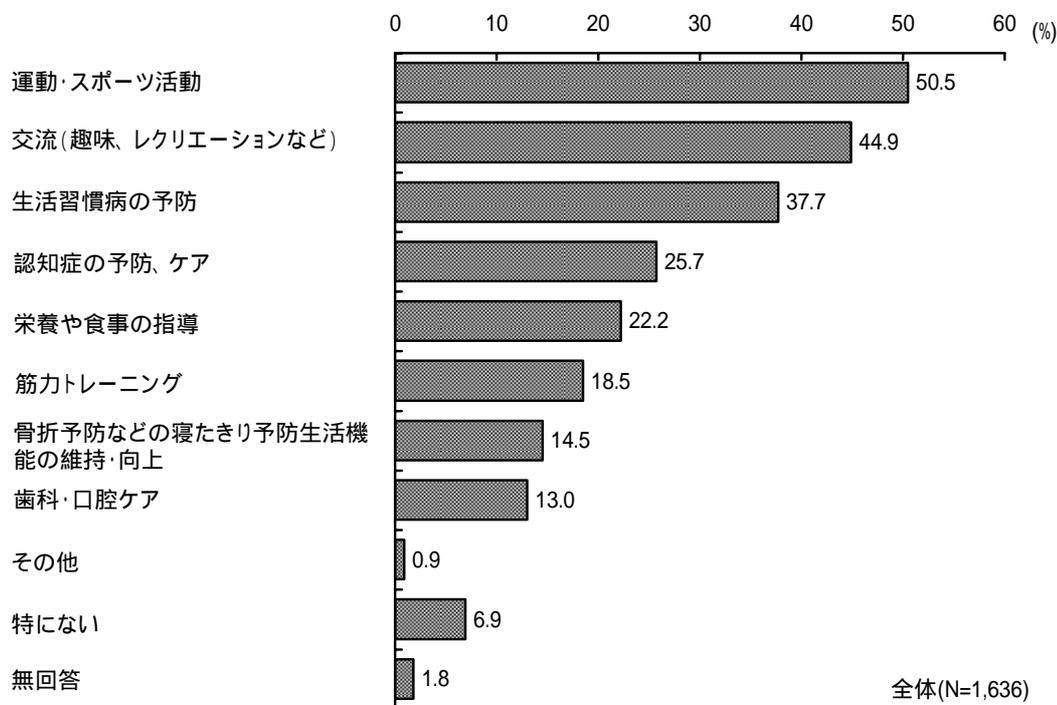


健康管理（介護予防）事業への参加希望（問24）

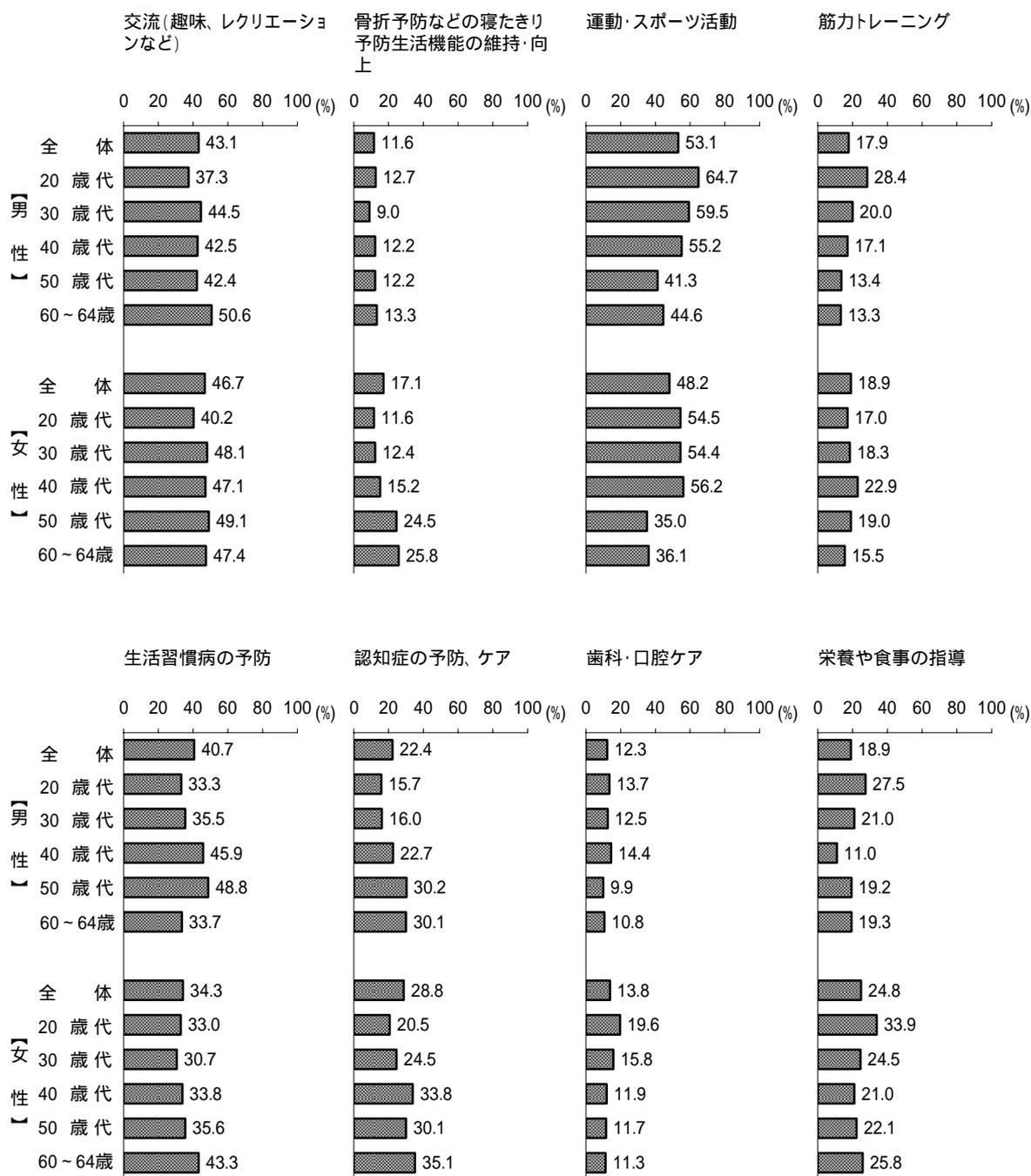
参加を希望する健康管理（介護予防）事業は、「運動・スポーツ活動（50.5%）」が最も多く、「交流（趣味、レクリエーションなど）（44.9%）」、「生活習慣病の予防（37.7%）」が続いている（図表1-7-4- ）。

性・年代別にみると、男女共年代が上がるにつれて「運動・スポーツ活動」は少なくなる傾向がみられる。また、「生活習慣病の予防」は40歳代、50歳代の男性と60～64歳の女性で多くなっている。「認知症の予防、ケア」、「栄養や食事の指導」は男性よりも女性がほとんどの年代で上回っている（図表1-7-4- ）。

図表1-7-4- 健康管理（介護予防）事業への参加希望（全体：複数回答（3つまで））



図表 1 - 7 - 4 - 健康管理（介護予防）事業への参加希望（性・年代別：複数回答（3つまで））

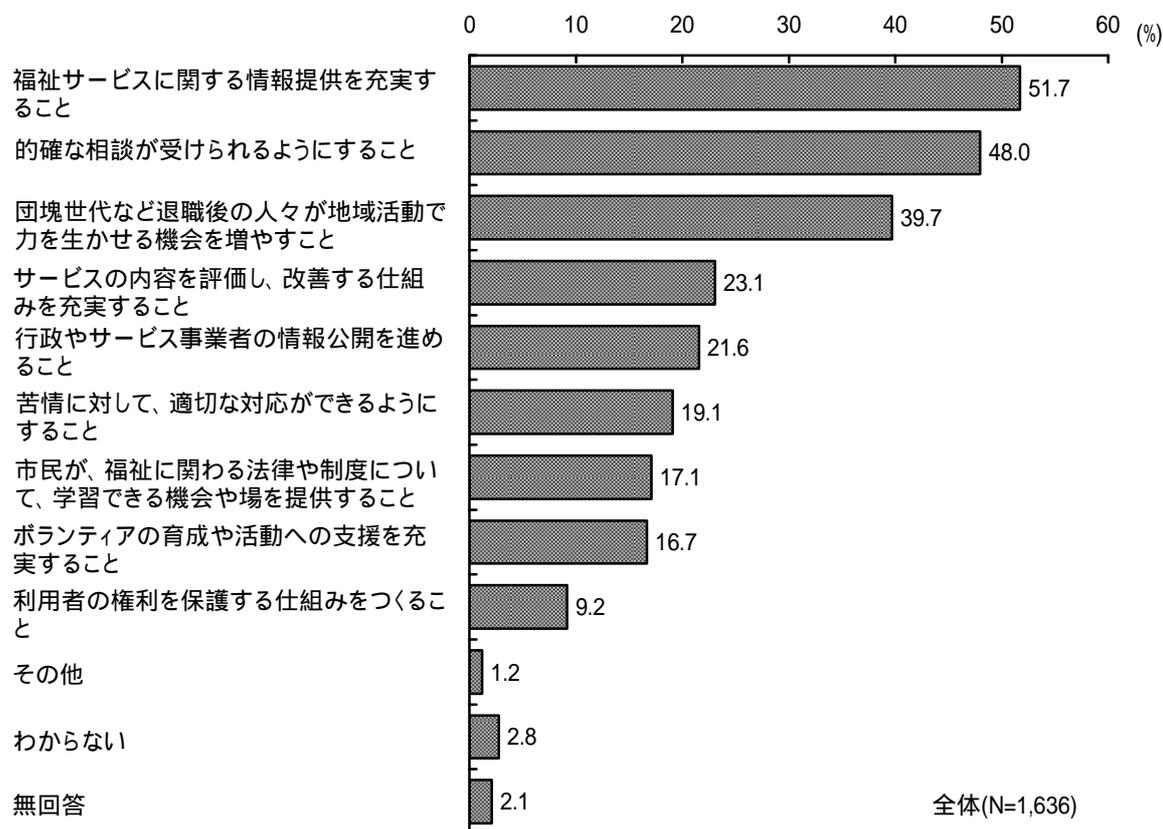


市が優先的に取り組むべき地域福祉サービス（問25）

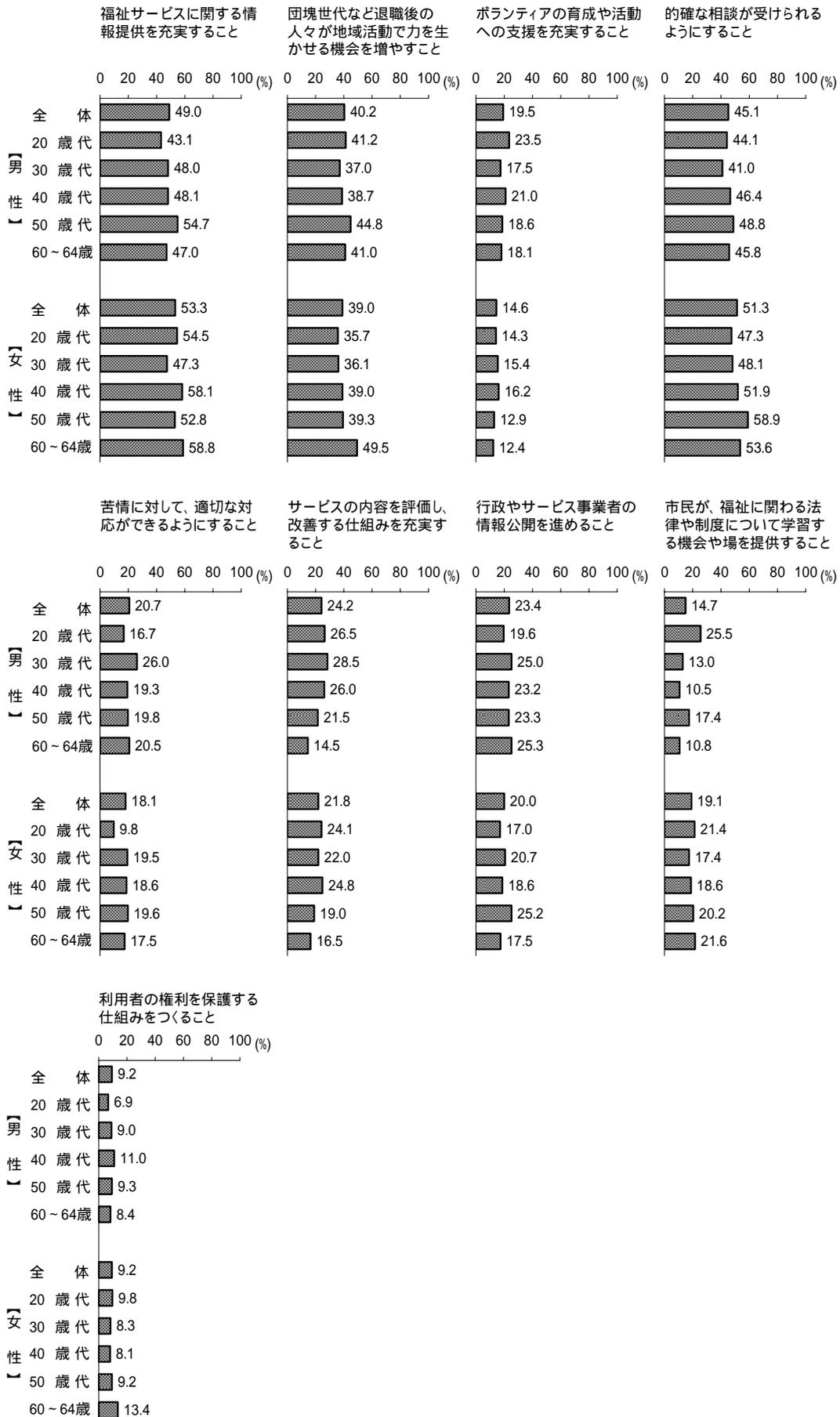
これからの府中市の「利用者本位の福祉」を実現するために取り組むべき施策は、「福祉サービスに関する情報提供を充実すること（51.7%）」が最も多く、「的確な相談が受けられるようにすること（48.0%）」、「団塊世代など退職後の人々が地域活動で力を生かせる機会を増やすこと（39.7%）」が続いている（図表1-7-5- ）。

性・年代別にみると、「福祉サービスに関する情報提供を充実すること」、「的確な相談が受けられるようにすること」は女性の方が多く、40歳代以降の女性では50%を超えている。また、「団塊世代など退職後の人々が地域活動で力を生かせる機会を増やすこと」については20歳代から50歳代までは男性が女性を上回っているが、60～64歳で女性が49.5%と多い（図表1-7-5- ）。

図表1-7-5- 市が優先的に取り組むべき地域福祉サービス（全体：複数回答（3つまで））



図表 1 - 7 - 5 - 市が優先的に取り組むべき地域福祉サービス(性・年代別:複数回答(3つまで))



(8) 市への要望 (問26)

府中市の福祉やまちづくりについて、意見・要望を自由記述形式でたずねたところ、全体で451件の回答があった。以下に主なものを掲載する。

情報の入手に関すること (43件)

- ・ 本当に福祉サービスの必要性を感じたときに、具体的にどのような内容であるかを分かりやすく市民に示す情報が欲しい。また、そのために必要な手続はできるだけ簡潔にして欲しい。(女性、35～39歳)
- ・ 団塊世代など退職後の人々がボランティア活動などに参加を希望する場合の情報を、広報などを通じ、詳しく知らせたい。(性別、年齢不明)
- ・ 1人暮らしの20～30歳代は情報入手の手段としてテレビやインターネットが主であり、新聞を取る人はあまりいないと思います。市の情報入手として、近隣の市でも行っている市広報のポスティングをして欲しいです。そうすれば、市の行事、政策などが自然に目につき、行事の参加者等も増え、市政に興味を持つ人も多くなっていくのではないのでしょうか。(女性、30～34歳)

バリアフリー、ユニバーサルデザインに関すること (40件)

- ・ 市内の中心でバリアフリーも道路に生かされているが、中心部を離れると段差が多く歩みにくい。また、電柱が歩行等の障害になっているので、早く電柱の地下化を進めて欲しい。(男性、60～64歳)
- ・ 街路樹が多いことは景観にも良いことと思うのですが、その分歩道が狭くなったり、でこぼこが生じるので、車いすやベビーカーはとても通りにくいと思う。また、木の枝にカーブミラーが隠れてしまっている物もよく見かけるので危険に思う。(女性、35～39歳)
- ・ 先日、子どもの学校で車いす体験をした。ほんの少しの段差でも一人で上がることができませんでした。タイル張りの歩道はきれいだが、タイヤがすぐに引っかかるし、歩道の狭いところが多く通ることができなかつた。(女性、40～44歳)

子育て支援、遊び場の整備に関すること (39件)

- ・ 保育園に入所しやすくして欲しい。仕事を続けるために0歳児を入所させたかったが枠に入れず、一時保育の保育料を月8万円払っていたが、20歳代の夫婦の家計にとっては極めて苦しかった。この期間のことを思うと二人目の出産は難しく思います。市からの一時保育料の援助が増えて欲しい。(女性、25～29歳)
- ・ 府中市には児童館もなく、もっと子どもがのびのび遊べる子どものための場所を作って欲しい。「たち」は乳幼児の施設なので、小学生からの子どもが雨の日でも使える遊び場が欲しい。(女性、35～39歳)
- ・ 子どもの学習活動が充実するような施策や見直しを常に行ってほしい。例えば、市内の小中学生が、より本物の高いレベルの中で活動できるように「府中の森芸術劇場」

の無料・優先使用などを検討し実現してもらいたい。せっかく市の施設が充実している府中市なのですから、お願いしたい。(女性、40～44歳)

府中市の好きなところ、市政への感謝、激励など(39件)

- ・ 住みやすく、良いまちだと思う。今後も福祉活動など人にやさしいまちづくりに力を入れてください。(男性、35～39歳)
- ・ 施設、道路など整備されていて大変暮らしやすく気持ちの良い町なので、このままであって欲しい。(女性、30～34歳)

景観、まちの緑化、美化に関すること(37件)

- ・ 美しい景観を維持または整備し、自らの住環境の周囲に大切にしたい場を作って欲しい。(男性、40～44歳)
- ・ 便利なまちづくりを優先して、緑の保護を怠っていると思う。もう人口は増加しないので、開発や宅地化を優先するのではなく、自然保護最優先のまちづくりを望む。(男性、45～49歳)

市職員の対応、窓口への要望など(33件)

- ・ 福祉、行政サービス等、利用者が自ら申請、手続をするのではなく、もっと行政側から能動的に動けるシステム、仕組みが必要である。(男性、45～49歳)
- ・ 一人で住んでいる高齢の方が増えているが、そういう方々が安心して最期まで暮らせるように、土地や家、また資産のことなど市に相談できる窓口があるとお互いにとって有効活用できると思う。(男性、40～44歳)
- ・ 様々な援助を受けることができ感謝しているが、平日の17時までしか窓口が開いていないので申請を諦めざるを得ないことがあった。ご一考願いたい。(女性、45～49歳)

ゴミ回収方法などについて(32件)

- ・ ゴミの有料化について、今後まちがどうなっていくのか不安。無断でポイ捨てなどがされないか、町が汚れないか、など。今の状態が良いように思う。(女性、20～24歳)
- ・ 現行のゴミ回収の方法は大変良い仕組みであるので、利用者が不便を被るような方法に変えるべきではない。利用者本位が大原則である。(男性、60～64歳)

福祉政策の考え方、要望など(32件)

- ・ 子ども(教育)と高齢者、障害者問題について、一つを優先させるのではなく、先々を考え偏りのない方法を見つけて欲しいと思う。(男性、40～44歳)
- ・ 「府中市は福祉関係が充実している」と他市の人に言われるがあまり実感できない。どんな世代の人たちにも、府中の福祉サービスに触れられるようなまちにして欲しい。(女性、25～29歳)
- ・ 府中市はハード面は充実しているがソフトの方から積極的に弱い立場(高齢者、子ども、

障害者のいる世帯)に働きかけて行って欲しい。(女性、45~49歳)

地域活動、近所づきあいに関すること(26件)

- ・できるだけ他人に迷惑をかけない健康な老後生活を続けるために、生きがいを持てるような活動の場を提供していただけたら、と思う。(女性、60~64歳)
- ・豊かでとても良い町だと感じているが、古くから住んでいる人と、新しく移り住んできている人(マンションも建設ラッシュで増えてます)の二つの層のギャップがすごくある、と感じている。(女性、45~49歳)

高齢者福祉、介護保険サービスに関すること(26件)

- ・高齢化社会への対応は、都心より郊外都市の方が力を入れるべき。マンションが林立するまちになり、高齢者の増加も続くなかで、介護システムを含めて安心して10年、20年後を住みよいと思える町にしたい。(男性、55~59歳)
- ・高齢者、障害者に対応する施設が全く足りていない。子育て支援も大切だが、今ある府中市は今いる高齢者の人たちが築いたものなので、その人たちが安心して生活できる高齢者向け施設、介護施設の充実を望む。(女性、45~49歳)

経済的支援、財政の安定などへの要望(20件)

- ・住民税などを低くして欲しい。また、大切な税金をぜひ無駄にして欲しくありません。(女性、55~59歳)
- ・福祉充実は大変素晴らしく聞こえがいいが、非常にお金がかかるのが現実問題としてある。資金の手当てをどうするか、行政側で考えて欲しい。(男性、40~44歳)

「ちゅうバス」に関すること(14件)

- ・ちゅうバスの本数を増やして欲しい。本数が少ないと人が集中し、ベビーカーや車いすの人が乗りにくい。(女性、35~39歳)
- ・ちゅうバスのルートを増やして欲しい。(男性、35~39歳)

駐輪場、自転車利用に関すること(12件)

- ・自転車置き場の充実が必要。数分置きたくても置けないのが現状です。すごく不便です。(男性、30~34歳)
- ・自転車に乗る人のマナーが全体的に悪い。自転車本位の利用が多く、事故やトラブルのもと。(男性、25~29歳)

心のバリアフリー、地域福祉に係わる啓発などに関すること(11件)

- ・子どもと一緒に参加できるボランティアや障害者との交流をする機会を増やして欲しい。子どもの教育になるし、専業主婦で暇な時間がありながら地域の役に立っていないと感じている。(女性、30~34歳)

- ・ 地域福祉を進めるなら先ず企業や職場などへの理解を促す啓発活動を先にやるべき。市民がいくら参加しようと考えても職場の理解が得られなければ事実上不可能だ。(男性、25～29歳)

ソーシャルインクルージョンに関すること(9件)

- ・ 精神障害のホームレスが多いのに驚くこの頃です。自立不可の人をどのように助けていけばよいのか考えてください。可能な限りボランティアで協力します。(男性、60～64歳)
- ・ 地域の交流やニートほか、自分の心がけ次第で変わる事(変わる事)もあるのではないかと思った。(女性、35～39歳)

住宅の整備への要望(6件)

- ・ 働いているうちは何とか暮らせていけても退職したら家賃のこともあり、公営住宅に優先的に入居させて欲しい。住宅のことでとても不安。(女性、50～54歳)

医療に関すること(5件)

- ・ 府中市は救急医療は良いが、かかりつけ医がなかなか探せず困っている。ちょっとした病気やケガで救急に行くわけにもいけないので。(女性、25～29歳)

本アンケート調査に関すること(15件)

- ・ アンケートの結果を是非生かしていただきたいと思う。(男性、25～29歳)
- ・ 障害者の方や車いすを利用の方の立場など、質問には分からないことが多い。(女性、60～64歳)

その他の要望、提案など(12件)

- ・ 朝日町付近にスーパーを建設していただきたい。(女性、25～29歳)
- ・ 2つの民間企業のラグビーチームがあるのだから、府中市をラグビーのまちにすべき。(男性、20～24歳)